

【 目次 】

I 序論

1. 研究における背景・・・3
 - 1-1 地域コミュニティの希薄化と課題・・・3
 - 1-2 U ターンに関わる地域に対する愛着の形成・・・6
 - 1-3 地域への愛着が繋ぐ地域コミュニティの関わり・・・6
2. 地域を育むまち学習の概要と学校教育との繋がり・・・7
3. 「景観学習」に関する先行研究の分類・・・11
4. ・・・景観学習における愛着の定義・・・15
5. ・・・景観学習による愛着の形成がもたらすまち育ての効果・・・15
6. ・・・研究の目的・・・16
7. ・・・研究の方法・・・16

II 本論

- 1 章 景観学習の全国的展開及び課題・・・17
 - 1-1 47 都道府県における景観学習の実施・支援状況と課題・・・18
 - 1-2 1718 市町村における景観学習の実施・支援状況と課題・・・26
 - 1-3 本章のまとめ・・・37
- 2 章 市職員が中心となった景観学習の実践 - 黒石市の実践研究から -・・・38
 - 2-1 黒石型景観学習の概要・・・39
 - 2-2 黒石型景観学習の展開・・・42
 - 2-3 黒石東小学校における黒石型景観学習の実践・・・54
 - 2-4 黒石東小学校における景観学習の可能性と課題・・・70
 - 2-5 モデル事業の取り組み - くろいし探景キッズの実践 -・・・83
 - 2-6 本章のまとめ・・・97
- 3 章 NPO が中心となった景観学習の実践 - 北上市の実践研究から -・・・98
 - 3-1 北上型景観学習の概要・・・99
 - 3-2 北上型景観学習の展開・・・104
 - 3-3 笠松小学校における北上型景観学習の実践・・・107
 - 3-4 笠松小学校における景観学習の可能性と課題・・・127
 - 3-5 本章のまとめ・・・137

III 結論・・・138

参考引用文献・・・141

謝辞・・・143

序論

1. 研究における背景

1-1 地域コミュニティの希薄化と課題

地域とは、経済や社会、文化等の諸過程及び諸契機に基づいて相対的に自立した一定の空間的領域のことである。経済権、高債権、婚姻権や、地区などが具体例であるが、これらの場合は、単に空間的広がり(地域性)を指す場合が多い。この空間的諸機能が相互に重なり相対的統一性をもつ場合、言い換えれば一定の共通性をもつ部分社会となっているとき、それを地域社会(コミュニティ)という¹。

我々が暮らす地域には、昔からの言い伝えや伝統、繋がりがあり、それを地域コミュニティで形成している。例えば、子どもが転んだ時「チチンプイプイ痛い痛い飛んでいけ」と呪文があるように唱えられながら痛む所をさすって子どもをなだめている光景がある。この言葉の発端は茨城県にあり、かつて村を消滅させた台風のように傷の痛みも飛んでしまえという、災害や困難を乗り越えてきた大人からの願いが込められている。以前はこのような各地に子どもの育ちに関わる文化が残っていたが、近年各地域で子どものたちの担い続けていた文化や風土が消えつつある。その要因は、地域構造の変化によるコミュニティの弱体化だとされる。1950年に集団就職列車が地方から若者を都会へと運んだ結果、地方では過疎化が進み、都会では団地や新興住宅地への居住によって伝承や風習が消え、地縁や血縁の「しがらみ」も薄れてきた。このような「私生活化への斜頸」をより一層強めた結果、地域における「共同体」を消滅させたと白井(2002)²は述べている。

それに加え白井(2002)³は、地域構造の変化が子どもの世界にも影響を及ぼしたことも指摘している。大人が地域での「役」をなくしていったのと同時に、子ども達も地域での「役」を喪失したのである。子供の仲間集団の活動は地域社会の生活に密着していただけに、長い歳月の中で培われてきたローカルかつ個性的で豊かな文化を背景に展開してきた。その生きた土着の文化がこの中の活動を通して、先輩から後輩へと受け継がれながら、共有されてきたのである。その実践活動を通して、自分たちの住んでいる地域を知り、地域での生活に親近感を覚え、地域への愛着心を育んでいったのである。

しかし、日常の中でそういった愛着心を育むような活動の場はほぼ無くなり、地域を取り巻く環境は日々変化し続けている。現代社会において核家族化や少子高齢化、人口減少、家庭の教育力の低下などあらゆることが問題視されてきている。しかし問題は家庭のみならず、人々が作り出す地域全体の在り方、人々の地域への関わり方にも問題が生じてきている。

¹ 森岡清美、塩原勉、本間康平(1993)「新社会学辞典」、pp982

² 白井慎(2002)、「子どもの豊かな育ちと地域支援」、pp40

³ 前掲・白井(2002)、pp42、43

近年のいじめや不登校、青少年をめぐる様々な問題が発生している背景として、家庭の教育力の低下とともに地域における地縁的なつながりの希薄化などによる、「地域の教育力の低下」が指摘されていた。このような報告から、文部科学省は子どもが地域社会に見守られながら伸び伸びと育つことができる環境を整備するため、「地域の教育力の現状・課題」「地域の教育力向上のために必要な要因」について調査した。

委託先である株式会社日本総合研究所(2005)によると、保護者に「地域の教育力」を自身の子ども時代と比較してもらったところ、半数以上が「以前に比べて低下している」(55.6パーセント)と回答した。一方、「以前に比べて向上している」(5.2パーセント)、「以前と変わらない」(15.1パーセント)は共に低い結果となった⁴(図 1)。

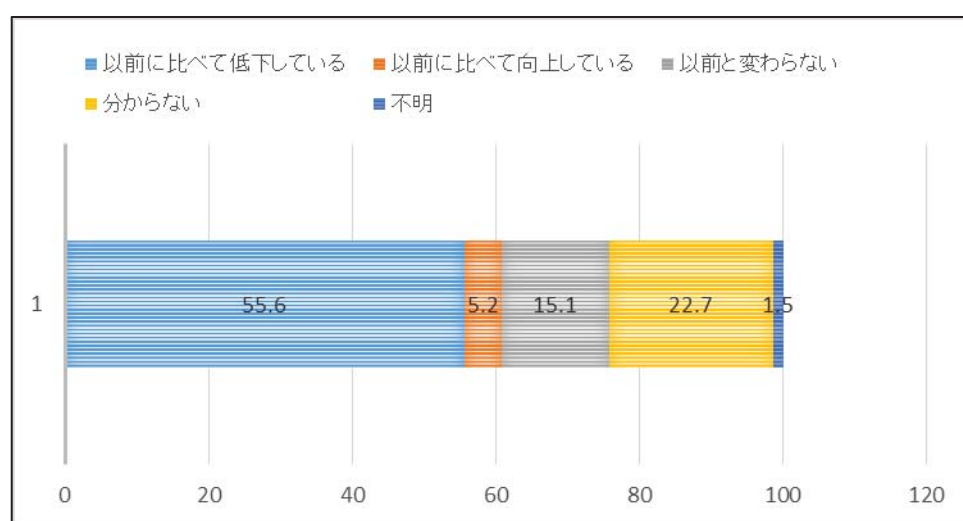


図 1 自身の子ども時代と比較した「地域の教育力」

出典：株式会社日本総合研究所より筆者作成

保護者に低下の要因を尋ねたところ、「個人主義が浸透してきているから」が最も高く半数を占め、続いて「地域の安全でなくなり子どもを他人と交流させることに対する抵抗」が3割を占めた。同様に「近所の人々が親交を深められる機会が不足している」など、多くの保護者は、他人の関与を歓迎しない風潮が見受けられ、こうした状況は「地域の教育力」の低下を招いている要因になりうると考えられる。そして、地域力の低下に伴い、地域間の希薄化が浮き彫りとなってきた。

⁴株式会社日本総合研究所(2005)、

このような状況下においても子ども達は成長し、自分の生まれ故郷から離れていく。独立行政法人労働政策研究・研修機構(2016)⁵によると、出身市町村を離れる年齢は18歳が一番多くほぼ60%を占め、続いて22歳と15歳が5%という結果となった(図2)。この結果であげられた年齢からわかるように、15歳、18歳、22歳は教育機関の卒業時と重なっており、その理由として「進学」や「就職」、「家庭の事情」などの理由が挙げられた。

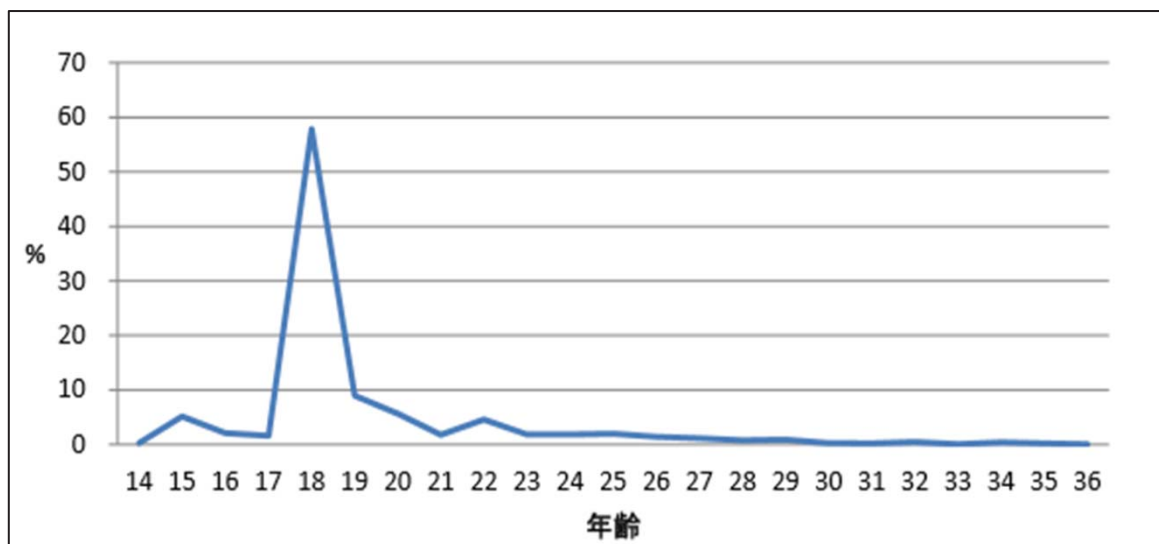


図2 出身市町村を離れた年齢(年齢分布)【出身県外居住者】

出典：独立行政法人労働政策研究・研修機構

この調査から、若者の就職や進学を機に多くが生まれ故郷を離れる傾向があることから分かる。こうした若者の人口流出は、どの地域でも起こりうる。

小川(2013)⁶は、東日本大震災で被災された気仙沼でも「もちろんこれは震災前から起きていたことですが、震災によってそれがより顕著になった」と伝えており、地元を離れる若者が地元へ戻ってこない抱える3つの悩みを以下の3点にまとめている。1つ目は「地域の良さを理解する機会がないこと」、2つ目は「地域の人と繋がる機会が無いこと」、3つ目は「未来を創る方法を学んだことがないこと」である。

⁵独立行政法人労働政策研究・研修機構(2016)、「UIJ ターン促進・支援と地方の活性化」

⁶小川悠(2013)、「なぜ若者の地域離れが止まらないのか？彼らが故郷を捨てる、3つの意外な理由」、<http://logmi.jp/24526>

1-2 Uターンに関わる地域に対する愛着の形成

そうした地元を離れた若者に対し「出身市区町村への愛着の有無」を独立行政法人労働政策研究・研修機構⁷が調査した(図3)。愛着が強い人で「戻りたい」を選択した人が37.1%を占め、「やや戻りたい」を選択したのは39.6%を占めた。また少し愛着がある人で「戻りたい」を選択した人が4.9%を占め、「やや戻りたい」を選択したのは39.9%を占めた。また、あまり愛着がない人は「戻りたい」を選択した人が2.7%を占め、「やや戻りたい」を選択したのは39.9%を占めた。また、全く愛着が無い人は「戻りたい」を選択した人が1.4%を占め、「やや戻りたい」を選択したのは3.2%を占めた。このことから愛着がある人ほどUターン希望が強く、愛着が弱い人ほどUターン希望が弱いことが明らかである。

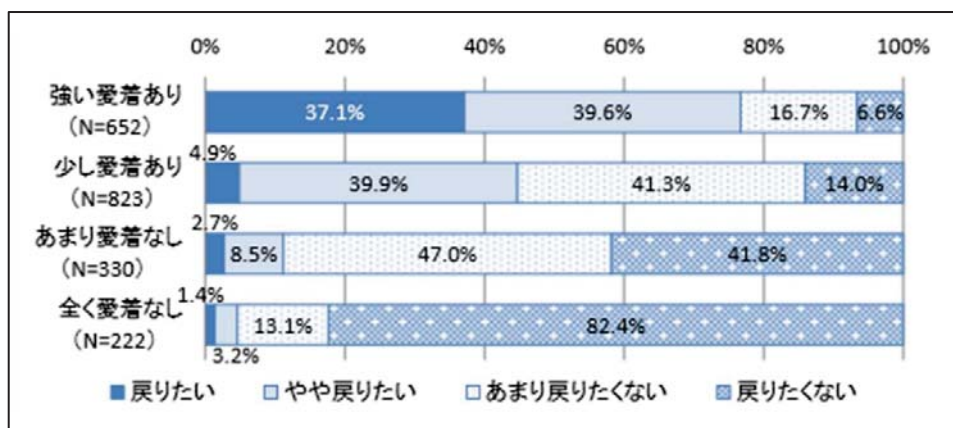


図3 出身市町村への愛着の有無【出身県外居住者】

出典：独立行政法人労働政策研究・研修機構(2016)

1-3 地域への愛着が繋ぐ地域コミュニティの関わり

地域と愛着の関わりに対して、佐野(2005)⁸は地域へのコミットメントが地域への積極的な関与行動を促す可能性を指摘し、若年成人層のうち、地域に対する愛着を持っている人ほど地域の子どもへの関わりが大きいと述べた。また居住地へ愛着を育む要因として、槇野(2001)⁹は地域と接する時間や機会の有無が関係することを明らかとした。

以上のことから、児童生徒自身が暮らす地域を離れるまでに、いかに地域と関わる機会や時間を設け、愛着を強く育ませるかが、将来のUターンや地元への定住、地域と自分なりに関わることに繋がる。そこで「まち」について地域コミュニティと関わりながら体験的に学ぶ「まち学習」は、佐野氏や槇野氏の研究結果を実現し、地域に対する愛着を育むことが予想される。

⁷ 前掲・独立行政法人労働政策研究・研修機構(2016)

⁸ 佐野茂、『地域への愛着と子どもへの関わりに関する一考察』
日本版 General Social Surveys 研究論文集 [4]、2005、pp44

⁹ 槇野光聰、『地域に関する情報が居住地への愛着形成に与える影響』、
日本建築学会大会学術講演梗概集、2001、pp770

2. 地域を育むまち学習の概要と学校教育との繋がり

2-1 学校教育におけるまち学習の概要

学校とは、広い意味と狭い意味との二様に用いられている。狭い意味では学校教育法第1条に示す学校、すなわち小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、盲学校、聾学校、養護学校、及び幼稚園のみを指す。

また、広い意味では、学校は広く、組織的・計画的に教育を行う施設と考えられ、この意味における学校も多く、かつ教育施設としての優れた教育機能を果たしている。多くの各種学校が設立され、それぞれに社会的・教育的に重要な役割を果たしている事実を直視する必要がある。

日本の場合、江戸幕府の基で武士階級のための学問や、これにならった各藩の藩学が設立されたが、他方で庶民のための教育機関として寺子屋が江戸時代の後期から特に広く普及し、明治以降の国民教育機関である小学校の母胎となった。1872年には学生を發布し、近代的学校制度を定め、その後の改正を経て1880年の改正教育令によって、現代学校制度の基盤を整えるにいたった。国民社会形成のために、きわめて短期間に近代的学校制度を画一的に整備し、学校教育が開始された¹⁰。

こうして近年まで営まれている学校教育において、制度の改正や時代の流れに伴い「まち」を意識した、体験的及び発見的な学びが取り込まれ始めた。学校教育におけるまち学習の変遷は大きく分けて4つにまとめられると曲田(2005)¹¹は述べている。1つ目は1989年の指導要領改正に伴い1・2年生を対象とした「生活科」の導入、2つ目は1991年の「環境教育」の確立、3つ目は1998年に3年生から高等学校課程までを対象とした「総合的な学習の時間」の創設、そして4つ目は2002年に実施された子どものゆとり時間の確保を目的とした小・中・高の「週5日制」である。

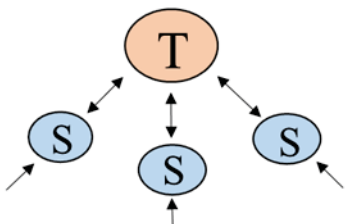
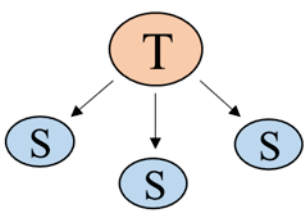
¹⁰ 細谷俊大、奥田真丈、河野重男、今野喜清(1900)、「新教育大事典第1巻」

¹¹ 曲田清維(2005)、「まち学習」、社団法人日本建築学会

2 - 1 まち学習の学習形態

まち学習で取り扱われる学習形態は2つに分類されており、北原(2004)¹²によると「地理的学習」と「発見的学習」に分類されている。「地理的学習」とは、教える側があらかじめ地域資源を調べておき率先して児童に教える授業であり、地域の特性が共通認識として存在しているところからスタートしていく授業方法を指す。「発見的学習」とは、ある定められた範囲を児童達に自由に歩いてもらい、真っ白なキャンパスに絵を描くように、そこで生まれた発見に重きを置き、それを教師と児童が共に受け止めた上で、その後の学習の中で様々な資料を用いて調べていく授業方法を指す。この2つは方法としては異なるが、どちらも地域の文脈を詳細に分析していくスタンスである。まち学習の定義並びに、教師と児童生徒との関わりを示したのが表1である。

表 1 まち学習における学習スタイルの分類

まち学習	
発見的学習	地理的学習
ある定められた範囲を児童達に自由に歩いてもらい、真っ白なキャンパスに絵を描くように、そこで生まれた発見に重きを置き、それを教師と児童が共に受け止めた上で、その後の学習の中で様々な資料を用いて調べていく授業方法を指す。	教える側があらかじめ地域資源を調べておき率先して児童に教える授業である。地域の特性が共通認識として存在しているところからスタートしていく授業方法を指す。
	

凡例) T : 教師、S ; 生徒

¹² 北原啓司(2005)、「まち学習」、社団法人日本建築学会

2-3 まち学習における学びの統合化

まち学習では、総合的な学習の時間に類似した学びが意識されており、それらは4点に分けられる。1つ目は、「体験的な学び」、2つ目は「ホリスティックな学び」、3つ目は「協働的な学び」、4つ目は「問題解決学習的な学び」の4点である¹³。

① 体験的な学び

まち学習で展開される「たんけん・はっけん・ほっとけん」の参加型学習を指しており、子ども達が学校外へ出かけ、まちのあちらこちらを体験し、場所を探し、不思議な探検をすることである。そこで「見て」「触って」「感じて」など頭と体を使って学びを深めていく。そのようにまちに身を置き、身体を動かして学習することは、自主的な学習を深め、自身の体験を重要視するものである。様々な方法で発表・表現し、時には学校の先生や地域のまちの先生からの評価を受け入れながら、参加・体験的な学習を展開していくことが質の高い学習へ繋がっていく。

② ホリスティックな学び

繋がりのある学習を指しており、カリキュラムにおいて教科の横断的学習を目指しているものである。まち学習のように社会科や図画工作、家庭科などあらゆる枠組みを超えて、それぞれの教科でのまちや空間に対する系統的な学びを意識している。そうした場面や問題を通じて、まちを考え、客観的な視点でまちを作り、あらゆる過程や体験を踏まえてまとめ、自らの知識に繋ぎ、強化していく役割を担っている。

③ 協働的な学び

教師と子ども、教える側と教わる側といった単方向学習ではなく、双方向学習が求められていることを指している。グループ学習や異年齢集団としての学びの集団を通し、自主的な体験を元に発言したり、違いを認め刺激し合ったりすることで、楽しい授業の展開へと繋げていく。そうした現場において学校関係者だけではなく、NPOや地域の方々といった「まちの先生」たちの存在が開かれた学校へと変える重要な役割となり、深みのある学習へと繋がっていく。

④ 問題解決的な学び

問題に対して改善するための方法や手段、道筋に気付き、考え、行動していくことである。総合的な学習の時間は「気づき、調べ、考え、変える」という体験的で問題解決的な学習展開がプロセスとして欠かすことができないものであり、これは総合的な学習の時間だけではなく、まち学習でも同様に考えられる。

¹³ 前掲・曲田(2005)

2-4 まち学習における景観学習の可能性

北原(2005)¹⁴によると、学校教育の現場におけるまちづくりは、地域やコミュニティの中で大人も子ども関係なく「まち」についての理解を深め、学ぶことの必要性が謳われたことで登場したとされる。どんなに発想力豊かな子どもがまち学習に参加しても、ワークショップや地域計画の現実化をしていくことは困難だと予想される。しかし、即効的な効果がみられる以上に重要なのは、子ども達がきちんとしたまちづくりマインドを持ち、地域にとっての問題や必要なものを前向きに議論できる住民と活動した経験が、10年後20年後に、その地域へ影響を与える長期的な効果を期待することだと述べている。そうして培われた、まちづくりマインドがまちに影響を与え、実践的なまちづくり学習・活動へ展開し、持続可能なまちづくりへ繋がっていくと考えられ、取り組まれ始めた。

まち学習には「総合的な学習の時間」「各教科」「まち探検」「環境教育」「地域学習」「景観学習」などがあり、こうしたまち学習を通し、児童は地域に触れ合う機会をつくっていく。例えば初対面の人にあった時も外見や行動を観るように、児童もまちと関わり始める時じっくりとまちを見て、雰囲気を感じ、地域を知っていくが、子ども達は取り巻く環境は以前のようにまちで遊ぶ習慣はなく¹⁵、子ども達を取り巻く環境は変化している。加えて、人との関わりも希薄化している現状である。そうした現状を踏まえ、まず「観る」という事に着目していくとまち学習の中でも「景観学習」が当てはまる。景観学習とはまちの風景や人、建物、自然といった身近な景観を軸にした学習であり、地域の実態や発達段階に合わせ発見的学習や地理的学習を活用し、その地域を景観という視点から学んでいく授業展開で構成されている。地域の実態等は県や地域で異なるため、授業を展開する団体や学校で教材や授業手法は異なっていることも予想される。しかし、景観は子ども達の住む地域すべてに見られるものであり、身近な題材であるため地域理解がしやすい。また学校教育においても総合的な学習の時間並びに、社会科や国語、図工など横断的に学習を展開することができる可能性を秘めている。そこで本研究では「景観学習」に着目し研究を進めていく(図2)。

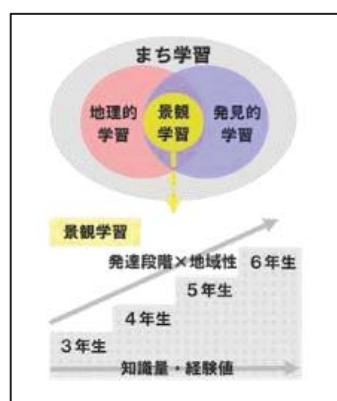


図4 まち学習における景観学習の領域

¹⁴ 前掲・北原(2005)

¹⁵ 前掲・株式会社日本総合研究所(2005)

3. 「景観学習」に関する先行研究の分類

小・中・高校生を対象とした景観学習に関する研究について本研究の範疇に入ると考えられる先行研究論文を 2000 年以降の日本建築学会論文集を基に抽出する(表 2)。

(1)郭東潤(2005)

「まち学習による景観まちづくりへの可能性と展望
- 千葉市におけるビデオスタジオを通して -」

【目的】中学生を主体としたまち学習である「ビデオスタジオ」を対象に、3 年間の運営・実施への取り組みを考慮し、その教育成果と効果、課題を明らかにする。また、参加中学生を対象にした「ビデオスタジオアンケート」から実践的なまちづくり教育としての有効性の検討と共に、今後の景観まちづくり教育への可能性・展望を示唆することを目的とする。

【結論】まち学習としての成果として、3 年間のビデオスタジオの成果と課題について運営的側面・手法的側面からまとめると、運営的側面の成果として、持続的な開催で多様な主体による運営体制の構築があげられる。このうち、2004 年度には中学校の総合的な学習の時間にまち学習として取り組む試みによって新たな主体として教育関係者とのかわり方について検討を行った。この背景としては現運営体制による参加募集では教育機関や中学生がまち学習の目的や主旨を十分に理解できないという課題が過去の反省から指摘されたからである。手法的側面では、参加中学生チームが映像を用いて普段と違う観点からまち学習を行うことによって、景観を含んだ地域に対する関心度の向上が明らかとなった。また作業を行うことで自己表現や他人とのコミュニケーションの向上が有効であった。さらにまち学習からまちづくり実践教育としての展開するためには多様な主体が参加可能な手法、テーマ、長期的な目標設定が今後の課題としてあげられる。

(2)戸田舞(2008)

「子供を対象とした景観まちづくりワークショップのモデル設計その 1
- 景観まちづくりワークショップ設計の目的と方法 -」

【目的】景観まちづくり学習の先駆けとして、学校教育の中で活用できる子どもを対象として「景観まちづくりワークショップ」のモデル設計を行うことを目的とする。

【結論】筆者が企画、設計、実施に携わってきた 2005 年度、2006 年度「小学校景観出前授業」の 2 年間の実施を検討し、それを基に子どもを対象とした「景観まち WS」のモデル設計を行った。2005 年では第 1 回目はまち歩きとガリバー地図 WS、第 2 回は世界の建築物と景観、第 3 回は建築と風景のデザイン、第 4 回は町並み景観計画づくり WS である。2006 年では第 1 回はまち歩きとガリバー地図づくり WS、

第2回は建築と風景デザイン、第3回はまち歩きとガリバー地図作り、第4回はまちなみ景観計画づくりWS、第5回はまちなみ景観発表会である。これらの実施内容から景観まちWSのモデル設計に向けて見直しが行われた。

(3)大瀧 英知(2009)

「岩手県大船渡市、釜石市、軽米町、奥州市江刺区における景観学習の取り組み」

【目的】学校教育現場においても総合学習の中で「まち学習」などによる地域を題材にした学習メニューが求められている所に着目し、岩手県釜石市唐丹町、大船渡市三陸町、軽米町、奥州市江刺区で総合学習メニューに景観学習をモデル的に導入し、将来の景観まちづくりの担い手を育成することを目的に進められた。

【結論】こうした活動から景観学習の取り組みにおいては対象年齢に応じた学習プロセスを考慮し、対象とする地域のまちづくりの成熟度を地域に精通する団体と議論して設定を行い、学習メニューを検討する方法が確立することが出来た。

低学年から高学年になるにつれて主体性実践レベルが高くなり、まちづくり活動が成熟している地域ほどまちの特徴を生かしたメニュー展開が可能になる。この方法で景観学習を実践することが学童や地域にとって効果的な活動になると考えられるとした。

(4)延原 理恵(2011)

「住環境リテラシー育成のための授業実践研究

：高等学校家庭科における景観まちづくり学」

【目的】 家庭科住教育領域が教えにくい理由の一つに、生徒の興味関心を持たせにくいことがよくあげられる。そこで、生徒にとっての家庭科における住領域の位置づけや内容による興味関心のベクトルを把握し、授業課題を探ることを目的としたアンケートを実施した。

【結論】授業を通し、住環境の範囲の捉え方が「近所や町内会」から「市町村全域」や「自宅のある府県全体」へ広がった。またまちづくりの取り組みや活動への参加について実行可能なことを単一解答で尋ねて、授業前後で比較したところ、授業前は半数以上が「自分の中で考えて見る」であったが、授業後は「自分の住む地域をよくすることから始める」や「学校で仲間と出来る活動を考えて取り組む」の回答が増加した。また景観やまちなみの変遷、まちづくりに関する住民の取り組みに関しては授業でも取り入れていることから、住環境について興味のある項目で高い割合となった。

(5)遠藤 克則(2011)

「景観まちづくりにおける景観教育のあり方に関する研究 (その 2)

「景観まちづくり学習」における協働経緯および協働者」

【目的】地域特性に対する共通認識を形成し、景観まちづくりへの寄与する景観学習を導くために、その端緒となる教育機関・地域住民・行政等の協働による景観教育のシステムを明らかにすることを目的とし、対象校(5校)を調査対象とし、近年見られた景観学習との協働内容及び協働者の役割について文献・ヒヤリング調査を行った。

【結論】景観学習の協働事業にいて牛久市で見られた①「まちづくり事業との一環による景観学習」、上越市にみられた②「行政による児童の意見を具体化した景観学習」、江戸川区・熊本市の2区市で見受けられた③「教育機関がプロモーターを担う景観学習」のうち、①③は協働による景観教育推進の上で、そのきっかけに有効であるとした。しかし、②は児童の意見だからといって吟味せず理想像と解釈することがないよう主体となる行政等が各々の地域の景観と規制を認識しておく必要があるとした。それに伴い、景観や都市計画を専門とした有識者の協力が希求であることから、行政や地域住民、教育機関の三者が協働した景観教育を行うことで、地域に特化した景観まちづくりへ寄与することが考えられることを明らかにした。

(6)永井 浩貴(2011)

「景観まちづくりにおける景観教育のあり方に関する研究 :(その 1)

「景観まちづくり学集」における活動内容」

【目的】「景観学習」の実態を捉えるべく、教育機関・地域住民・行政等の協働による景観教育に着目し、活動内容を明らかにする。

【結論】景観学習を実施した42校から行政機関及び地域住民に特徴がみられた5校を対象とした。協働による景観教育の活動内容において、学習成果として「模型」や「景観マップ」などを企画作成していることが一貫して捉えられた。また「牛久小学校」「中根小学校」の2校においては景観や都市計画を専攻している大学教授や大学生との協働による景観教育が行われ、景観における学術的な視点を取り入れた活動内容が捉えられた。しかしながら上述とした2校を除く3校においては、行政職員や景観団体との意見交換が行われているものの、児童の景観認識への依存する作品が見られたとした。また活動における困難点に「外部との連絡調整」という実施者の意見が全対象にみられた。これらより、景観認識における学術的な視点や景観教育を担う主体が必要であるとした。

(7)安里直美(2015)

「沖縄の地域風土に根差した風景学習の実践研究

- 小学生における風景学習の取り組み -」

【目的】沖縄の風景学習の実践において、対象校の地域特性や取り組みを整理し、その意義と課題を明らかにすることを目的とする。

【結論】筆者が専門家や景観整備機構として参画した計画業務や学習活動から得た知見を整理し、外部観察のみでは伺えない関係者の意識や感想の機微を補足した。学習展開としては、まず地域の良さにふれる段階として「まち歩き」、次にインタビューや資料検索を通して児童の理解を広げる「調べ学習」を行い、続いて学んだ成果を去年も自身の言葉で表現し、壁新聞や動画、絵地図、歌劇、パンフレット等に「まとめる学習」を行い、最後に「伝える学習」として発表会を実施した。また、社会科授業の一環として「探検学習」を行っている学校での学校ごとの学習環境に照らし合わせた教師の裁量により、学齢に応じた表現力や感性を育む学習が実施された。学校現場においては児童の気付きのみならず、教師からの声として「最初は戸惑ったが児童と一緒に学ぶことが出来た」「風景を自然、文化、地域力と創造的に捉えられた」など教師自身の学びに関する反応が多いことが伺えた。2年間の試みから教師を中心に風景学習への理解の深まり、地域を題材にして、児童の「気付き」や「主体的な学び」「感性」を大切にした発展学習が定着しつつあることが明らかとなった。

表 2 景観学習における先行研究一覧

NO	論文題目	主要著者	年	特定地域 実践	特定地域 協働	役割	風景
1	まち学習による景観まちづくりへの可能性と展望 -千葉市におけるビデオスタジオを通して-	郭東潤	2005	○			
2	子供を対象とした景観まちづくりワークショップのモデル設計その1 -景観まちづくりワークショップ設計の目的と方法-	戸田舞	2008	○			
3	岩手県大船渡市、釜石市、軽米町、奥州市江刺区における 景観学習の取り組み	大瀧 英知	2009	○			
4	住環境リテラシー育成のための授業実践研究 高等学校家庭科における景観まちづくり学習	延原 理恵	2011	○			
5	景観まちづくりにおける景観教育のあり方に関する研究(その1) 「景観まちづくり学習」における活動内容	永井 浩貴	2011	○			
6	景観まちづくりにおける景観教育のあり方に関する研究(その2) 「景観まちづくり学習」における協働経緯および協働者	遠藤 克則	2011	○	○	○	
7	沖縄の地域風土に根差した風景学習の実践研究 -小学生における風景学習の取り組み-	安里直美	2015	○			○

以上の先行研究から明らかとなっている通り、現段階で景観学習に関しては特定地域における実践が主に取り上げられており、景観学習の現状並びに全国的な景観学習における実施体制・支援体制、景観学習における適切な教材の検討はされていない。また、景観学習における地域に対する愛着の実態は明らかとされていない。

4. 景観学習における愛着の定義

愛着について、藤井(2001)¹⁶は「人間と場所との感情的な繋がり」と定義し、Hidalgo, et. al(2001)¹⁷は「人々と地域との間の情緒的な繋がり」と定義している。これらは、おおよそプラスの事柄を想定した定義であるが、景観学習において必ずしもプラスの感情のみが児童の発想を豊かにし、まちに関心を持たせるとは限らない。そのため、筆者は景観学習における愛着を「景色や風景から受け取り形成される主観的感覚」と定義し、景観学習からプラスとマイナス両面の感覚としての「愛着」が児童の中に生まれていくことを明らかにする。

5. 景観学習による愛着の形成がもたらすまち育てへの効果

まち育てとは、住民自身が主体的に行動を起こすことである。景観学習を通して形成された「いいな」と感じることから形成される愛着は景観をよりよく保全し、「いやだな」と感じることから生まれる愛着は悪い景観を直し、整える思いに変わる材料となる。これらの愛着が、まちづくりマインドを育てる引き金となることで主体的な行動を起こす価値観を創出し、まち育てに繋がると本研究では推測する。

¹⁶萩原剛、藤井聡：交通「行動が地域愛着に与える影響に関する分析」

土木計画学研究・講演集 2005

¹⁷ Hidalgo, C. Hernandez, B (2001): Place attachment: Conceptual and empirical question, Journal of Environmental Psychology, 21, pp. 273-281

6. 研究の目的

本研究の目的は①景観学習の現状を明らかにすること、②景観学習における実施体制・支援体制を明らかにすること、③景観学習における適切な教材の検討とそれに伴う学習形態を検討すること、④以上を踏まえ、景観学習における子どもたちのまちに対する愛着の形成を明らかにする。

7. 研究の方法

まず、景観学習の研究状況を明らかにするために、景観学習の先行研究及び論文を基に明らかにする。次に全都道府県、市区町村における景観学習の推進・実施状況を各県庁、市区町村ホームページから整理し、明らかにする。それらを踏まえ自ら企画運営に携わり、現場の実態並びに実践されている地域に根差した授業内容を明らかにするために実地調査を行う。以上を踏まえ、主たる企画運営者へヒヤリング調査を行い、景観学習を実施することにより児童や地域における可能性と課題を明らかにする(表3、4)。

表 3 事業実施日程

対象学校名	日時	内容
黒石市立 黒石東小学校	関係者による検討会議 :2017年5月24日	第1回景観学習における、授業方法とまち歩きルートの検討
	第1回景観学習教室 :2017年7月5日	景観に関する授業とまち歩き
	関係者による検討会議 :2017年8月8日	第2回景観学習における、授業方法と作成物の検討
	第2回景観学習教室 :2017年9月5日	前回の授業をもとにワークシートとガリバーマップの作成
	関係者による検討会議 :2017年10月4日	第3回景観学習における、授業方法と作成物の検討
	第3回景観学習教室 :2017年11月8日	前回の授業を基に、景観新聞の作成
	第4回景観学習教室 :2017年12月14日	景観学習発表会
対象学校名	日時	内容
北上市立 笠松小学校	関係者による検討会議 :2017年4月	景観学習全体の目標及び授業内容の検討(筆者不参加)
	第1回景観学習教室 :2017年6月12日	「学校の周りの好きな景観、嫌いな景観を探そう」…景観に関する授業とまち歩き
	第2回景観学習教室 :2017年6月16日	「景観点検の振り返りとまとめ」…ワークシートの作成とマップの作成
	第3回景観学習教室 :2017年6月21日	「景観学習発表会」
	第4回景観学習教室 :2017年9月15日	「昔の景観を探し行こう」…イントロダクションとまち歩き
	第5回景観学習教室 :2017年9月20日	「昔の景観をイメージしよう」…今と昔の景観をイメージして絵を描いて発見を共有する

表 4 ヒヤリング日程

対象地域	ヒヤリング対象者	日時	対象地域	ヒヤリング対象者	日時
黒石市	黒石市建設部都市建築課 技師 五十嵐 瑛子氏	2017年12月14日	北上市	北上市都市整備部都市計画課 主査 高田朋 氏	2017年6月12日 2017年12月8日
	黒石市建設部都市建築課 主事 佐山陽紀 氏	2017年12月14日		和賀地区交流センター センター長 菊池篤 氏	2017年12月11日
	黒石東小学校 神 氏	2017年12月14日		笠松小学校	2017年12月11日
	黒石市企画財政部 広報情報システム課 課長 太田淳也 氏	2017年9月2 日		特定非営利活動法人 いわてNPO-NETサポート 事務局長 菊池広人 氏	2017年6月13日 2017年12月8日
	黒石市中町こみせ通り 高橋幸江 氏 他	2017年12月14日			

本論

第 1 章 景観学習の全国的展開及び課題

1-1. 都道府県における景観学習の実施・支援状況と課題

1-1-1 都道府県における景観学習の実施状況

都道府県における景観学習の実施状況を調査するために、「独自に景観学習の実施・手引きや副読本の作成をしている自治体」、「景観学習のみを実施している自治体」、「手引き・副読本のみを作成している自治体」、「国土交通省主催の景観まちづくり学習を推進している自治体」に分け整理する。

独自に景観学習の実施・手引きや副読本の作成をしている自治体は、青森県と岩手県で、また景観学習のみを実施している自治体は、石川県、愛知県、奈良県、山口県、鹿児島県である。また、手引き・副読本のみを作成している自治体は、北海道、秋田県、佐賀県で、国土交通省主催の景観まちづくり学習を推進している自治体は、長野県、宮崎県である。未実施の自治体は宮崎県、山形県、福島県、茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、福井県、山梨県、岐阜県、静岡県、三重県、滋賀県、大阪府、兵庫県、京都府、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、沖縄県である。47 都道府県における景観学習の推進状況をまとめたのが図 1 である。

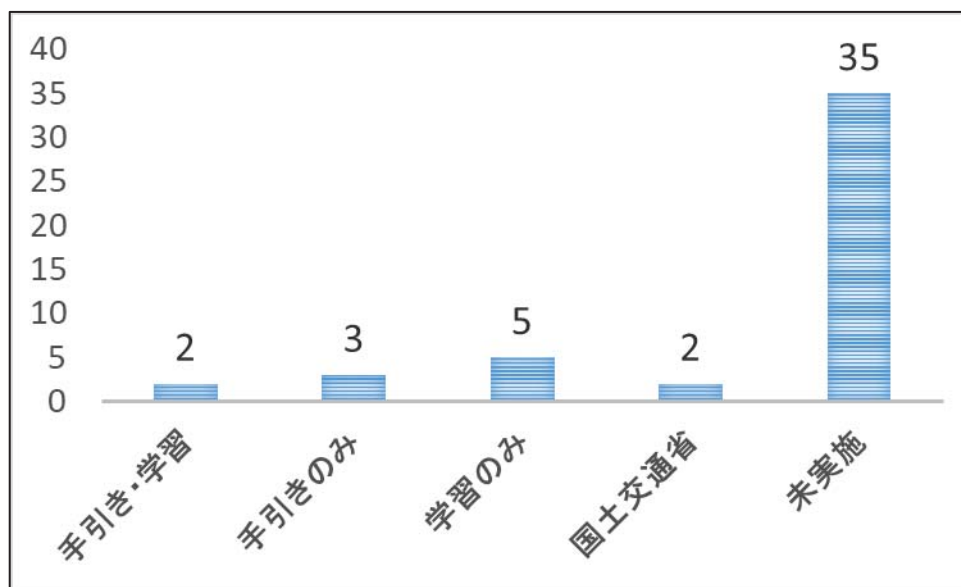


図 5 47 都道府県における景観学習の推進状況

1 - 1 - 2 取り組み都道府県における景観学習の実施目的と支援体制の状況

都道府県において「独自に景観学習の実施・手引きや副読本の作成をしている自治体」、「景観学習のみを実施している自治体」、「手引き・副読本のみを作成している自治体」、「国土交通省主催の景観まちづくり学習を推進している自治体」という枠組みで整理したが、各都道府県における景観学習の取り組み状況は様々である。そこで取り組みをしていた14自治体の活動目的を表1にまとめた。

共通点としては、多くの地域が「地域の将来を担う子ども達に対して郷土の誇りを持ってもらうため」「ふるさとの美しい景観に気づき、守り、育てていくことの大切さを実感してもらうため」など、将来への人材育成が主な目的となっていることが見受けられた。

また、自治体によっては総合的な学習の時間に活用してもらうことを目的としている所や地域の身近な景観に関心を持ってもらうことによって、景観づくりのきっかけに繋げてもらうことを目的としている自治体も見受けられた。

表 5 景観学習における取り組み自治体別の目的

自治体名	景観計画	景観学習 手引き	景観学習	手引き	国交省景観 まちづくり学習	目的
青森県	○	○	—	—	—	これからの青森県を担う子どもたちの景観に対する関心と良好な景観形成への意識をはぐむことを目的としている
岩手県	○	○	—	—	—	小学校において総合学習の時間を利用した景観教育を実施することを目的として「景観学習のススメ」を作成
石川県	○	—	○	—	—	誇りと愛着をもてる美しいまちをつくり、育て、次の世代へ伝えていくために、次の担い手である子どもに対して、身近なまちや良好な景観に対する意識を芽生えさせることを目的としている
愛知県	-	—	○	—	—	誇りと愛着を持つことのできる美しいまちをつくり、育て、次の世代へ伝えていくには、子供の頃から身近なまちや良好な景観に対する関心を持たせ、ひとりひとりのまちづくりや景観に対する意識を高めることが必要であると考え、小学生を対象に、景観まちづくりについて学習してもらい、これからの美しいまちづくりへの意識を持ち、良好な景観を守り育てる行動ができるような人づくりを目指して実施。
奈良県	○	—	○	—	—	特に「景観」に着目したまちづくりについて学習するものである。まちの「景観」を知り、地域に対する誇りや愛する心を養うことを目的としている。
山口県	-	—	○	—	—	将来の山口県を担う子ども達に、ふるさとの美しい景観に気づき、守り、育てていくことの大切さを実感してもらうことを目的としている。
鹿児島県	-	—	○	—	—	「かごしま景観学習」は、本県の個性豊かで魅力あふれる景観の大切さを、次世代を担う子ども達に引き継ぐとともに、郷土に対する誇りを持てる人材を育成することを目的としている。
北海道	○	—	—	○	—	景観学習プログラムは、地域のかけがえのない財産である景観を未来へ引き継ぐ大切さを学んでいくために作成。
秋田県	-	—	—	○	—	景観学習とは、児童や生徒が生活している身近な地域の様々な景観（自然、歴史、文化、都市、生活など）について考えることを通して、自分たちの地域について考えるという地域オリジナルのふるさと体験学習であり、そのスタートである「まち歩き」は身近な地域の観察会となる。まち歩きをすることで、子どもが自分たちの住んでいる地域に対して、愛着や誇りを持ってもらうために作成した。
佐賀県	-	—	—	—	—	地域の身近な景観に関心を持ってもらうことによって、景観づくりのきっかけとなることを目的としている。
長野県	○	—	—	—	○	ひとりでも多くの人が積極的に景観まちづくりに関わるようになってもらうことを目的とした取り組みである。
宮崎県	-	—	—	—	○	ひとりでも多くの人が積極的に景観まちづくりに関わるようになってもらうことを目的とした取り組みである。

1-1-3 都道府県における副読本から検討する景観学習の授業内容と教材の考察

「独自に景観学習の実施・手引きや副読本の作成をしている自治体」、「手引き・副読本のみを作成している自治体」、「国土交通省主催の景観まちづくり学習を推進している自治体」について、各都道府県において取り扱われている教材について検討する。

【独自に景観学習の実施・手引きや副読本の作成をしている自治体】

・青森県における副読本

青森県では「未来へ繋ごう わたしたちの景観」という副読本を発行してあり(図 2)、景観学習に関する内容が多くに含まれている。掲載内容としては、「景観」とはどのようなものかという漠然としてとらえている概念を整理し、青森県内に見られる「素敵な景観」を紹介している。世界遺産に指定されている白神山地をはじめとした、八戸市の種差海岸や佐井村の仏ヶ浦、弘前市における岩木山、つがる市の田園、横浜町の菜の花畑など自然景観について紹介している。他にも歴史的、文化的な景観も紹介しており、弘前市の弘前城、つがる市の高山稲荷神社、むつ市の日本一古いアーチ式ダムなどがある。さらに、まちなみ景観や学校の周りにある景観も取り上げ広い視点からより身近な景観に視点を移すようになっている。素敵な景観を紹介した反面、汚い景観についても紹介し、景観が損なわれる背景も取り扱っている。そうした背景を踏まえ自分たちで何かできないか、アクションプランを紹介している。それらの読み物教材を踏まえ、「わたしの好きな景観」「守りたい景観、残したい景観」「わたしにできること」をクラスで話し合うように促し、「わたしの好きな景観」について自分なりにまとめるスペースを設け、最後のページには景観に関する作文を書けるスペースを取り上げている。この副読本は主に子供向けかつ実践向けであり、学校での使用ができる形で作成されている教材であると言える。

・岩手県における副読本

岩手県では、「小学校における景観のススメ」という副読本を発行してあり(図 3)、景観学習や景観に関する内容が盛り込まれている。内容としてはまず教師向けとして、学習指導要領と景観学習の関連について述べている。そして景観学習のねらい、体験型学習や総合的な学習の時間との関係について、また景観とまち歩きの見方を定義している。その後、景観学習における授業展開、必要な物品等を紹介している。また添付してある景観シートの使い方についても掲載されており、そこでは、景観の言葉の意味や景観の成り立ち、まち歩きのヒントを児童向けに記載している。その後、皆に伝えたい景観として景観の選び方や景観を選択した理由のまとめ方、題名の付け方を説明し、実際に添付の景観シートで実践へと繋がられている副読本となっている。この副読本は前半が教育関係者や教師向けに作られており、後半は実践用に児童向けに作られているので、景観学習を認知していない学校や教育機関に対する理解をもらえる教材になっている。



図 6 青森県 景観副読本



図 7 岩手県 景観副読本

【手引き・副読本のみを作成している自治体】

・北海道における副読本

北海道では学校、教師、教育関係者向けに作られた「景観学習の手引き - テーマは子どもたちがみつける!」と児童向けの「私たちの暮らしと景観」が発行されている。教師向け手引きでは、景観学習プログラムのねらいや総合的な学習の時間と景観学習の時間との関連などについてまとめている(図 4)。また、景観の捉え方や景観の意味、景観はみんなで作ることを伝え、景観づくりの意義を述べている。さらに、景観学習プログラムの構成と使い方について説明しており、景観学習の授業展開例を何点か提示し、実践できるようにしている。実際に景観学習を実施した学校における授業案や他教科との関連を図った横断的な学習も意識されている。加えて、北海道内における景観づくりの取り組み事例も掲載しているため、北海道全域で実践できるようになっている。

児童向け手引きとして作成されている「わたしたちの暮らしと景観—暮らしの中の景観はみんなの宝物—」では、「住んでみたいまちはどんな町」という問いかけによって、北海道内のあらゆる景観を紹介している。また、まちの自然や歴史、文化、産業、交通、素材や資源、いきいきと暮らす風景から感じることを詳しく書くページが設けられており、最後は住んでみたいまちについて論じる展開となっている。続いて、「まちの中の気になる景観を探してみよう」では「私たちの〇〇マップ」を作成することを促している。そしてマップで紹介し合い、暮らしの中の景観についての調べ学習へと移っていく。また、地域の方などに対する取材内容をまとめるページもつけられており、「みんなで住み良い、素敵な景観をつくるには」について考えていく。取材してわかったことを 1 ページにまとめ、チームごとに発表する。住み良いまちの景観について再度考え、自分でできることと、皆でやりたい事を考える。最後に今までの学習を振り返り、感想を記入する。最後のページには「なぜ? なに? をまとめるヒント」と題した参考資料が掲載されている。

・秋田県における副読本 一太郎が無くて開けないでいます。

秋田県のホームページで教材の存在を確認することが出来たが、内容の取得が困難であるため詳細に関しては不明である。

・佐賀県における景観読本

佐賀県では「さが美観物語」を発行している。景観とはこういったものを「美っちゃん」「観くん」と一緒に考えていく教材となっている(図 5)。まず佐賀県にはこういった景観があるのかが紹介されており、有明海ののり養殖や有明の干潟で行われるガタリンピック等が紹介されている。そういった佐賀のあらゆる地形や風景を紹介したのち、「佐賀の美しい景観」づくり地区、景観づくりモデル地区の紹介をしている。そうした景観についての理解を深めつつ、自分自身の身の回りにある景観を観察するよう促している。例えばまちなかに設けられている花壇や整理整頓された歩道にある自転車等、観て綺麗な景観、ルールを守ることによって出来上がる安心する景観等に目を向けるよう伝えている。また、景観を観察する視点として「古くから使われている建物や大きな木」「最近、景観が変わった所」「家のまわりにはどんな色があるのか」「看板」「学校の校歌にはどこがでてくるか」「好きな景観を撮る」「地域景観かるたを作る」などを紹介し、実践を促している。今ある景観を守ったり、良くしたりするにはどうしたらよいか説いている。そこで「地域のルールは地域で決めること」「みんなにもできることがあること」と伝えていた。この教材は読み物であり、実践形式ではない。この副読本を読み、景観に対する視点を得ることが出来る教材だと言える。



図 8 北海道 副読本



図 9 佐賀県 副読本

【国土交通省主催の景観まちづくり学習】

国土交通省では「わたしたちのまち大好きなまち」という学校における景観まちづくり学習の手引きを発行している(図 6、7)。これは東京学芸大学名誉教授の小澤紀美子氏が企画監修を務めたものである。この手引きでは、景観まちづくり学習のススメとして、景観まちづくり学習の概念、意義をまとめ、教科横断的な学習であることを丁寧に説明している。また、景観と景観まちづくりの違いにも触れており、まちづくりに関与してこなかった人達にとっても理解しやすい内容、説明となっている。後半では「実際にやってみよう!」と題し、モデルプログラムの 11 点が紹介されている。内容としては「ひそんでいるぞ!カオ・かお・顔」、「これはどこだ?探してみようまちのパーツ」、「よく見れば、あの場所に」、「まちの色、いろいろ」、「地域カルタをつくろう」、「塀もまちも景観の一部」「看板からまちの風景を考える」、「私たちのまちに言葉の贈り物」、「想いでいっぱいわたしたちのみち」、「校歌の風景を見つめてみよう」、「地域景観プランナーになろう」で構成されている。これらのプログラムは「気付く」「調べる・表現する・発表する」「考える」「行動する」といった段階で構成されている。実際にモデルプログラムを活用した取り組み事例も掲載されていることから、想像しやすく、取り組まれやすい傾向があると考えられる。

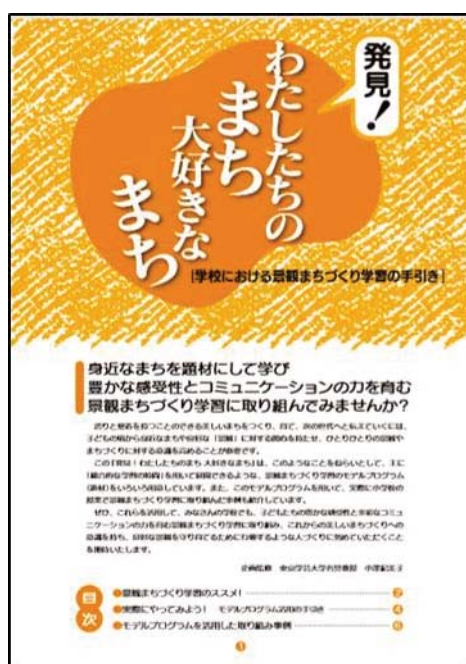


図 10 国土交通省 景観まちづくり学習手引き



図 11 国土交通省 モデルプログラム

以上の教材の相違点をまとめる(表 2)。特徴的なものとして、作成されている副読本並びに手引きは地域的特性を生かした具体的で身近な教材として作成されている傾向があることがわかった。また、すべての県、団体で「景観」に関する概念は多少のずれがあるものの、それぞれの地域としてとらえている景観の概念が分かりやすく明記されており、また景観に関する見方、考え方、捉え方も丁寧に示されていることが明らかとなった。

また授業展開案の点から考察すると、北海道や国土交通省が提示している内容は細かく設定されていることもあり、学校独自で景観学習を実施する場合、即効的に取り組むための教材として用いられやすい傾向があると考えられる。

しかし、学校独自で地域のキーマンや地域的特性を探することが困難な場合がある。そうした場合、やはり岩手県や青森県のように県や市、地域、専門家と協働しながらそれぞれの専門的知識を生かし合い、実施する傾向に促すのも効果的だと考えられる。より児童に地域を知ってもらうため、地域や学校、担当教師の力量や普段抱えている仕事量を考えると、こうした第三者と協働して行う授業体制は現在の学校現場において必要不可欠なのではないかと推測する。

表 6 景観学習における教材の相違点確認表

県名	景観の概念	地域特性	景観のみかた	授業展開案	実践教材	支援体制
青森県	○	○	○	-	○	-
岩手県	○	-	○	○	○	○
北海道	○	○	○	○	○	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	○	○	○	-	-	-
国土交通省	○	-	○	○	-	○

1-1-4 都道府県における取り組みに対する支援制度

各都道府県において取り組みをしていた14自治体における景観学習の実施や手引きや副読本の作成等に対する支援制度をまとめたものが表3である。

特徴としては、ほとんどが景観アドバイザー制度を整えていることである。当制度は、景観や建築の専門家が派遣され専門的な知識を用いて幅広いアドバイスを受けることが出来るもので、費用はほとんどが県で負担する。

また、自治体によっては地域づくり協議会や京の景観パートナーシップ制度が支援を行っているところもある。

表 7 景観学習における支援体制

自治体名	景観学習 手引き	景観学習	手引き	国交省 景観まち づくり学習	支援体制
青森県	○	—	—	—	【景観アドバイザー制度】 県民、事業者、市町村の皆様の景観づくりを支援するため、建築、土木、デザイン、緑化などの専門家を派遣する制度である。この制度を活用することで、魅力ある景観づくりのための計画立案から実施に至るまで、幅広いアドバイスを受けることが出来ます。なお、派遣に要する費用は無料。(県が負担します)
岩手県	○	—	—	—	—
石川県	—	○	—	—	【石川地域づくり協会】 交流会や研修会の実施や、石川県との共催によるシンポジウムの開催、コーディネーターの派遣など、地域づくりに取り組む団体への支援を行っている。 【景観アドバイザーの派遣】 石川県では、県民や事業者、市町による景観形成活動を支援するため、地域からの要請に応じて景観アドバイザーを派遣している。
愛知県	—	○	—	—	—
奈良県	—	○	—	—	【建築士の「まちづくりアドバイザー」】 【なら・まちづくりコンシェルジュ】 奈良県では、魅力ある地域の創出をめざしている。そのためには行政の取り組みだけでなく、地域の皆さんが主体となった活動が欠かせません。そこで、平成19年度に「なら・まちづくりコンシェルジュ」を創設しました(2016年現在10人)。まちづくり団体の活動に役立つ情報の提供などを行っている。
山口県	—	○	—	—	【山口県景観アドバイザー登録制度】 この要綱は、県、市町村、県民及び事業者が取り組む景観形成の活動の支援を図るため、良好な景観の保全、形成及び活用について客観的な判断による的確な助言を行う者を山口県景観アドバイザー(以下「アドバイザー」という。)として登録し、派遣することについて必要な事項を定めるものとする。
鹿児島県	—	○	—	—	—
北海道	—	—	○	—	—
秋田県	—	—	○	—	—
佐賀県	—	—	—	—	—
長野県	—	—	—	○	【景観デザイナー派遣制度】 地域の景観育成活動に助言が欲しいときなど、要請により景観の専門家(景観デザイナー)を派遣する。
宮崎県	—	—	—	○	【景観まちづくりアドバイザー】 県では、住民・事業者・県・市町村等が協働して行う、地域の特性を生かした景観の保全、創出又は活用による魅力ある地域づくりを支援するため、専門的な知識を有する「景観まちづくりアドバイザー」を派遣する制度を設けている。

1-2 1718 市町村における景観学習の実施・支援状況と課題

1-2-1 自治体における景観学習の実施状況

景観学習における現状を明らかとする目的として、全国 47 都道府県の実施状況を明らかにした。次に、全市町村 1718 のホームページを閲覧し、景観学習の実施状況を確認する。

分析方法は、全国自治体で実施が確認された景観学習の実施状況を把握し、実施形態や内容、支援体制、教材を明らかにし、整理する。ホームページにおける検索機能を用いて、「景観学習」「景観教育」「景観まちづくり学習」をキーワードとして抽出した。また、サイト内検索以外にも都市政策課や都市整備課等の景観を取り扱う組織の景観啓発活動等を閲覧し確認し、生涯学習課における市政出前講座、まちづくり講座等においても景観に関する取り組みに関しても抽出を実施した。

しかし、景観学習や景観まちづくり活動においては景観計画における記載のみ、検討中等実施が確認できない市町村に関しては抽出内容から外している。

そして全自治体が設けている市町村ホームページより、学校教育機関において景観学習、景観まちづくり学習の実施状況は表 4 の通りである(表 4)。

学校教育現場を舞台に取り組みされた景観学習の実施状況の結果としては、1718 市町村中、31 市町村で景観学習の実施の確認がされた。主に市での取り組みが多く見受けられ 29 市(旭川市、青森市、八戸市、黒石市、北上市、一関市、牛久市、さいたま市、川越市、立川市、調布市、新潟市、長野市、名古屋市、長岡京市、広島市、福山市、岩国市、松山市、高知市、福岡市、久留米市、宮崎市、高鍋市、鹿児島市、垂水市、薩摩川内市)、町での取り組みは 1 町(芽室町)であった。また村での取り組みは 1 村(中礼内村)である。

これらの取り組みは国土交通省で取り組まれている景観まちづくり学習や各県で取り組まれている景観学習教室、市独自で行われている景観学習教室などが混在している。今回明らかにした市町村の取り組みを主催者別に考察する(表 5)。

国土交通省主催の景観学習に取り組んでいる市町村は 4 市(横浜市、新潟市、松山市、福岡市)である。また県で実施している景観学習に取り組んでいる市は 1 市で(岩国市)、市町村主催で取り組んでいる自治体は 26 市町村(旭川市、芽室町、中礼内村、青森市、八戸市、黒石市、北上市、一関市、牛久市、さいたま市、川越市、立川市、調布市、逗子市、長野市、名古屋市、長岡京市、広島市、福山市、高知市、久留米市、宮崎市、高鍋市、鹿児島市、垂水市、薩摩川内市)である。

1718 市町村の中で景観まちづくり学習や景観学習に取り組んでいない自治体も多いが、学校現場ではなく公共施設や地域を活用して市が子ども向けに景観に関する取り組みを実

施している自治体もある(表 6)。多治見市では「景観塾」を実施、西宮市では「まちなみ発見隊」として実施しており、また、船橋市では「まちなみデザイン教室」、「まちづくり体験教室」を行っている。このように単発ではあるが児童に対し景観に触れる機会を作っている自治体が少数ではあるが確認された。

また、親子で景観に触れる機会は作っている自治体もある。釧路では「親子バスツアー」、可児市では「親子教室」、大津市では「古都おおつ景観アドベンチャー」を実施している。

また、景観と類似しうる風景を専門的に取り扱っている市もあり、学校現場において安芸市では「風景プログラム学習」、うるま市では「風景学習」を実施している。

そして、地域という大きなくくりで佐賀市では「ふるさと学習」を実施している。

各自治体の取り組みは多岐にわたるが、1718 市町村という全体の母胎数から見ると取り組んでいる自治体は少ない現状であることがいえる。

表 8 全市町村における景観学習の実施状況一覧

NO	県名	自治体数	実施している市 (市総数)	実施している町 (町総数)	実施している村 (村総数)	実施合計数	自治体名
1	北海道	179	1(35)	1(144)	1(15)	3	旭川市、芽室町、中札内村
2	青森県	40	3(10)	0(22)	0(8)	3	青森市、八戸市、黒石市
3	岩手県	33	2(14)	0(15)	0(4)	2	北上市、一関市
4	宮城県	35	0(13)	0(21)	0(1)	0	
5	秋田県	25	0(13)	0(9)	0(3)	0	
6	山形県	35	0(13)	0(19)	0(3)	0	
7	福島県	59	0(13)	0(31)	0(46)	0	
8	茨城県	44	1(32)	0(10)	0(2)	1	牛久市
9	栃木県	25	0(14)	0(11)	0(0)	0	
10	群馬県	35	0(12)	0(15)	0(8)	0	
11	埼玉県	63	2(40)	0(22)	0(1)	2	さいたま市、川越市
12	千葉県	54	0(37)	0(16)	0(1)	0	
13	東京都	39	2(26)	0(5)	0(8)	2	立川市、調布市
14	神奈川県	33	2(19)	0(13)	0(1)	2	横浜市、逗子市
15	山梨県	27	0(13)	0(8)	0(6)	0	
16	新潟県	30	1(20)	0(6)	0(4)	1	新潟市
17	富山県	15	0(10)	0(4)	0(1)	0	
18	石川県	19	0(19)	0(8)	0(0)	0	
19	福井県	17	0(9)	0(8)	0(0)	0	
20	長野県	77	1(19)	0(23)	0(58)	1	長野市
21	岐阜県	42	0(21)	0(19)	0(2)	0	
22	静岡県	35	0(23)	0(12)	0(0)	0	
23	愛知県	54	1(38)	0(14)	0(2)	1	名古屋市
24	三重県	29	0(14)	0(15)	0(0)	0	
25	滋賀県	19	0(19)	0(6)	0(0)	0	
26	京都府	26	1(15)	0(10)	0(11)	1	長岡京市
27	大阪府	43	0(33)	0(9)	0(1)	0	
28	兵庫県	41	0(29)	0(12)	0(0)	0	
29	奈良県	39	0(12)	0(15)	0(12)	0	
30	和歌山県	30	0(9)	0(20)	0(1)	0	
31	鳥取県	19	0(4)	0(14)	0(1)	0	
32	島根県	19	0(8)	0(10)	0(1)	0	
33	岡山県	27	0(15)	0(10)	0(2)	0	
34	広島県	23	2(14)	0(9)	0(0)	2	広島市、福山市
35	山口県	19	1(13)	0(6)	0(0)	1	岩国市
36	徳島県	24	0(8)	0(15)	0(1)	0	
37	香川県	17	0(8)	0(9)	0(0)	0	
38	愛媛県	20	1(11)	0(9)	0(0)	1	松山市
39	高知県	34	1(11)	0(9)	0(6)	1	高知市
40	福岡県	60	2(28)	0(30)	0(2)	2	福岡市、久留米市
41	佐賀県	20	0(10)	0(10)	0(0)	0	
42	長崎県	21	0(13)	0(8)	0(0)	0	
43	熊本県	45	0(14)	0(23)	0(8)	0	
44	大分県	18	0(14)	0(3)	0(1)	0	
45	宮崎県	26	2(9)	0(14)	0(3)	2	宮崎市、高鍋市
46	鹿児島県	43	3(19)	0(20)	0(4)	3	鹿児島市、垂水市、薩摩川内市
47	沖縄県	41	0(11)	0(11)	0(19)	0	

表 9 取り組み主体別にみる市町村一覧

事業主体	市町村名
国土交通省	横浜市、新潟市、松山市、福岡市
県	岩国市
市町村	旭川市、芽室町、中礼内村、青森市、八戸市、黒石市、北上市、一関市、牛久市、さいたま市、川越市、立川市、調布市、逗子市、長野市、名古屋市、長岡京市、広島市、福山市、高知市、久留米市、宮崎市、高鍋市、鹿児島市、垂水市、薩摩川内市

表 10 自治体で取り組まれている学校教育現場以外での子どもに向けた景観教育

自治体名	景観計画 策定状況	事業名	対象	取り組み内容
多治見市	○	景観塾	小学生	<p>運営主体：風景づくり研修会の開催等、運営を業務委託し実施</p> <p>目的：美しい風景づくりを推進するにあたり、市民の風景づくりへの意識を高めていたため、市内の景観を発見する機会の提供や、景観に関する講座を受講する機会を提供し、市民参加の風景づくりに携わる方々（風景づくりサポーター）を育成していこうとするもの</p> <p>事業内容：「地域景観の把握」、「風景づくりの提言」、「風景づくりの活動」、「人材育成」の4つを柱を推進。</p> <p>1.地域景観の把握…一年を通じて市内の景観観察や風景づくりに関する研修会等に参加し知識を深めると共に、多治見市の風景に関する情報を収集し現状を把握</p> <p>2.風景づくりの提言…収集した情報を検証し市へ提言</p> <p>3.風景づくりの活動…風景づくり体験塾（緑の勉強会） カラー講座（色彩の勉強会） 子ども景観塾（カラーキッズ、グリーンキッズ） 景観先進地の社会見学 景観観察ウォーキング等を開催</p>
西宮市	-	西宮まちなみ発見クラブ	小学生	<p>目的：まちなみ発見クラブロゴ景観に関する情報の共有や意見交換を通じ、西宮のまちなみについて考え、美しい西宮のまちなみづくりを目指すクラブである。まち歩きや企画会議を通じ、自分たちの住むまちの、知っているようで知らないことなどについて学習したり、情報発信を実施したりする。</p> <p>構成：市内在住・在勤・在学の方がメンバーになっており、自主的に企画・運営を行い、市が事務局としてバックアップする形で活動。</p> <p>活動内容：市内のこどもたちを対象にした「こどもまちなみ発見隊」の企画・運営 ・まちあるき ・まちなみ発見マップの新規コース作成 ・パネル展 ・美しい景観の写真撮影</p>
船橋市	○	まちなみデザイン	小学生	<p>概要：小学生を対象に、家の模型をつくって、まちなみのデザインについて学ぶ機会として、「まちなみデザイン教室」を開催。建物やまちなみの印象を決めるのは、外壁のデザインや色彩が大きな影響を与えている。自分がデザインした建物がまちなみにどのような影響を与えるのか、また自分たちが好きなように建物をつくとどういうまちなみが形成されるのかを学ぶ。</p> <p>内容：1.まちなみのテーマを選ぶ…いくつかあるまちなみのテーマから、自分がつくる模型のテーマを選ぶ。 2.模型の作成…模型の展開図を組み立て、外壁のデザインを考えて自分なりの家をつくる。 3.まちなみの作成…模型の家を並べて、ひとつのまちなみをつくる。</p>
		まちづくり体験教室	小学生 幼稚園	<p>概要：模型を使った体験型講座（ワークショップ）を開催。市職員が講師として出向き、都市計画について学習する機会を提供。</p> <p>目的：1.自分たちの住んでいるまち（市や地域）を意識し、まちづくりを身近に感じる。 2.住みよいまちづくりには、都市計画（まちのルール）が必要であることを理解する。『みんなで作ったルールを、みんなが守っていくことで、みんなの住みやすいまちとなる。』というフレーズを講座の結びとしている。</p> <p>実施形態：小学校だけでなく、こども会などの有志団体にも出向き、講座を実施。講座児童人数は、1班5～6人の班編成で最大6班（30～36人）まで対応。</p> <p>実施例：1.テーマ・班決め…講座実施の前に事前準備として、班編成及び班ごとにまちのテーマを決める。 2.まちづくり体験キットの説明…市職員がまちづくり体験キットの使い方を説明。自由な発想でまちづくりができるよう、たくさん模型や背景図を用意。 3.ワークショップ…早速、模型を使ってまちづくり体験を実施。 4.発表…各班が作ったまちの発表を実施。</p>
釧路市	○	親子で景観バスツアー	親子	<p>開催概要：景観意識の普及啓発のため、景観バスツアーを実施。景観賞を受賞した13件の建物や団体などを紹介した。</p> <p>バスツアー目的地：東光薬品工業株式会社釧路工場、釧路桜ヶ岡商店街振興組合、株式会社六花亭釧路春探店、北海道釧路工業高等学校、竹老園東家総本店（前庭）、旧五十嵐邸、ふくしま医院、NTT DoCoMo 釧路ビル、釧路信用組合本店、釧路第一商店街振興組合、幣舞橋、釧路センチュリーキャッスルホテル、折り紙建築を用いた活動</p>

可児市	○	親子教室	親子	平成23年度 景観まちづくり施策の取組状況について日時、開催のみ確認。
大津市	○	古都おおつ 景観アドベンチャー	子ども・親子	概要:大津市では、先人から受け継いだ景観を子どもたちの世代に引き継いでいくため、市民の皆さんと一緒に大津の景観づくりに取り組んでいきたいと考えている。そのため、本市では次代を担う子どもたち到大津のすばらしい景観を見て感じてもらう機会として、「景観アドベンチャー」を実施している。(例えば、親子でびわ湖バレイ山頂からの景観を観察していただくとともに、「親子景観学習」として、現在と昔の大津の景観の違いをスライドにて紹介。)
安芸市	-	景プログラム	小学校	目的:『歴史と文化にふれる歩みづくり懇話会』では、“昔の風景”からその場所を探し、今の様子を写真で撮影するというもので、そのことを通じて、「昔から残っているもの」「変わったもの」を探し、「残していきたいもの」「なぜ変わったのか」などを考え、風景・景観や地域に対する意識を高めてもらうことを目的に『風景学習プログラム』を実施。
うるま市	○	風景学習	子ども	目的:風景づくりサポーターとは、現在やこれからの時代・地域を担う人材(子供たち)のまちなみ景観や地域の美化に対する関心や意識を高めることにより、自身が住んでいる地域に愛着と誇りを持たせることを目的とした沖縄県実施による事業。 内容:子供たちを対象とした風景学習や地区再発見まーい(まち歩き)等
佐賀市	○	ふるさと学習	小中学校	目的:佐賀市立小中学校では、「佐賀市の目指す子ども像」のひとつ「佐賀に誇りと愛着をもつ子ども」の育成を目指しふるさと学習を実施。 内容:佐賀市作成の郷土学習資料『さがの人物探検99+you』を活用した授業実践、ふるさと学習支援事業を活用した体験・見学活動に加え、各学校では、地域の特色を活かしたフィールドワークや地域の方々とのふれあい活動など様々な取組を実施。

1-2-2 取り組み自治体における景観学習の支援体制状況

景観学習、景観まちづくり学習の取り組みが見られた 31 市町村中、景観計画を策定しているのは 27 自治体であった(表 7)。その中で、支援制度に関して市町村ホームページから確認したところ主に景観アドバイザー制度や景観アドバイザー派遣制度が多く見られ、少数としてまちづくりアドバイザー、都市デザインアドバイザー、講師派遣制度などが見受けられた。景観アドバイザー制度やそのほかの支援体制においても「検討中」「検討する見込み」等の実施や設置が明らかではないものは今回対象から外している。

景観アドバイザー制度は 7 市(さいたま市、立川市、調布市、名古屋市、福岡市、久留米市、薩摩川内市)、景観アドバイザー派遣制度は 3 市(旭川市、逗子市、鹿児島市)、講師派遣制度は 1 市(北上市)、まちづくりアドバイザー制度は 1 市(川越市)、都市デザインアドバイザーは 1 市(広島市)で確認された。

これらの取り組みの中で学校教育現場に対応した記載が目立ったのは北上市の講師派遣制度(授業(総合学習、図工、社会、国語)や地域づくり活動の一環として取り組む交流センター合いに申請を受けて市から講師(景観アドバイザー)を派遣する)であった。このように学校現場の授業を考慮した内容であることは、学校現場における実践への支援に大きく寄与していると考えられる。

しかし 1718 自治体における取り組みの中で市町村独自の助成金を取り扱っている自治体はなかった。新潟県長岡市では「一般財団法人 都市文化振興財団景観まちづくり学習助成事務局」¹⁸が主催している「景観まちづくり学習助成事業」の取り組みを周知しているなど第三者である機関からの支援の推進が見受けられた。内容としては、国土交通省主催である「景観まちづくり学習」を支援するため費用の助成を行っており、対象は小学生と中学生である。事業参加の条件としては(1) 国内の小・中学校(国立・公立・私立を問わない)主に小学 3 年生から 6 年生、中学生を対象とすること、(2) 本事業の趣旨を理解し、良好な景観形成を担う人材育成を考え、積極的にモデルプログラム(題材)に取り組み、必要に応じて報告書や写真等の提出、ヒアリング等に協力することの以上 2 点であった。助成金額は、1 校につき 10 万円(15 校程度)に対応している。ここで取り上げている一般財団法人都市文化振興財団は、「景観まちづくり学習」に取り組みの助成金事業のため、助成を希望される学校は、国土交通省の景観まちづくり教育のホームページに掲載されているモデルプログラム「景観まちづくり学習のススメ!」の中から、授業や総合学習の時間等において実施するプログラムを選択しなければならない。全国各地で実践するための授業内容になっているため、地域独自の特色を生かした内容として取り組まれるかは教師自身の実践力にかかっていることは明らかである。

以上のことから、景観学習の支援体制が整っていない現状が明らかとなった。

¹⁸ 一般財団法人 都市文化振興財団景観まちづくり学習助成事務局
<http://www.toshibunka.or.jp/josei.html>

表 11 景観学習、景観まちづくり学習に取り組む自治体における支援体制の状況一覧

県名	自治体名	景観計画策定状況	支援体制の有無	内容
北海道	旭川市	○	景観アドバイザー派遣制度	旭川らしい景観づくりを推進するため、景観に関する専門的な知識と経験を有する方を、市民や企業、団体などの要請に応じて「景観アドバイザー」として派遣。アドバイザーは9分野(造形、ストリートファニチャー、建築、緑、あかり、道路、橋、色彩、屋外広告物)の7名で、申請者の希望に応じて派遣。
	芽室町	×	-	-
	中札内村	×	-	-
青森県	青森市	○	-	-
	八戸市	○	-	-
	黒石市	○	-	-
岩手県	北上市	○	講師派遣制度	授業(総合学習、図工、社会、国語など)や地域づくり活動の一環として取組む場 交流センター 合に、申請を受けて市から講師(景観アドバイザー等)を派遣
	一関市	○	-	-
茨城県	牛久市	○	-	-
埼玉県	さいたま市	○	景観アドバイザー	
	川越市	○	まちづくりアドバイザー	事業内容・都市景観形成地域における地域景観形成基準の適 正な運用と良好な景観形成の進行管理を目的に、実 施者となる地元協議組織 へ専門家を派遣
東京都	立川市	○	アドバイザー制度	景観に関する専門的な知識を有する景観アドバイザーにより、景観計画区域内で行われる事業に対して、協議や相談などにより景観計画の主旨を十分に反映させるための助言や住民主体の景観づくりに対するアドバイスなどを行うための体制を作る。
	調布市	○	景観アドバイザー制度	景観計画区域内で行われる事業に対して景観計画の趣旨を十分に反映させるための助言や、住民主体の景観づくりに対するアドバイスなどを行うため、景観に関する専門的な知識を有 する方々等で構成した景観アドバイザー制度を設ける。
神奈川県	横浜市	○	-	-
	逗子市	○	景観アドバイザー派遣制度	景観形成に関する市民活動において、アドバイスを行う専門家派遣制度。建築家、造園家、カラーコーディネーター、歴史的建造物の保全活動に関わる専門家など、豊富な知識を持った専門家から直接アドバイスを受けることが出来る。
新潟県	新潟市	○		新潟市では「水辺と田園が光る四季美しいまち・にいがた」の実現に向けて、建築物や工作物、広告物等のデザインについて、周辺環境に調和させるにはどのようなことに配慮したら良いか、などの観点から専門家によるアドバイスを行っている。
長野県	長野市	○	-	-
愛知県	名古屋市	○	景観アドバイザー制度	良好な都市景観の形成を図るため景観アドバイザー制度を設けており、建築物や広告物のデザイン、都市景観の整備等に関する相談を受け付けている。主な相談内容(建築物の新築、増築、改築する際の外観のデザイン、色彩について、門、塀、車庫などのデザイン、緑化などの修景について、広告物の大きさやデザイン、色彩について)
京都府	長岡京市	○	-	-
広島県	広島市	○	都市デザインアドバイザー	目的 広島市都市デザインアドバイザー会議は、景観形成上重要な建築物又は土木構造物のデザインについて、景観づくりへの貢献の観点から検討を加え、広島らしい個性的で魅力のある街づくりに寄与することを目的として設置。 対象建築物 (1) 本市が建築する建築物のうち、次の各号に該当し、新築、増築、移転、又は大規模なデザインの変更を伴う改修工事を行うものとしています。ただし、「ひろしま2045:平和と創造のまち」対象事業、競技設計の対象となるもの及び設計、工期等に特別な制約をうけるもの並びに極めて小規模なものは除く ア 全市を単位に設置する建築物、イ 区を単位に設置する建築物、ウ 学校(小学校、中学校を除く。)、エ 前各号に掲げる建築物のほか、特に美観的な配慮を必要とする建築物、 (2) 市街地再開発事業等の本市の補助制度を活用して新築する建築物であって特に美観的な配慮を必要とする建築物 対象土木構造物 本市が建設する土木構造物のうち、特に美観的な配慮を必要とする道路の新設・改良工事、又は橋りょう等の新設・架替・改修工事を行うものとしている。ただし、競技設計の対象となるもの及び設計、工期等に特別な制約をうけるもの並びに極めて小規模なものは除く。
	福山市	○	-	-
山口県	岩国市	○	-	-

愛媛県	松山市	○	-	-
福岡県	福岡市	○	福岡市都市 景観アドバイザー	福岡市都市景観アドバイザーに意見聴取する対象施設の考え方 ・1類：公共性が高く地域の中核となる施設(駅、地域交流センター等) ・2類：アイストップとなる立地や超高層建物など地域のランドマークとなる施設 ・3類：数次に亘る継続的開発行為等(住宅団地、大規模商業・業務施設等) ・4類：既に形成されている周辺地域の景観的要素と著しく異なる、又は著しく阻害するおそれがある計画 ・5類：歴史・伝統地区の歴史的景観を保全・形成するため、特に、配慮が必要となる計画
	久留米市	○	久留米市景観 アドバイザー制度	建築、土木、色彩、屋外広告物、京町(京町周辺景観重点地区)の各分野における専門家が、皆様からの建築物や工作物、屋外広告物等に関する景観上の相談に対し、助言(アドバイス)を行う制度。
高知県	高知市	○	-	-
宮崎県	宮崎市	○	宮崎市景観 アドバイザー制度	周辺景観に影響を与える大規模な建築物や公共施設の計画、地域のまちづくり方針の策定等において、景観づくりにおける様々な実務経験や専門知識を有するアドバイザーが助言(アドバイス)することにより、美しく魅力ある景観づくりを行なうことを目的とした制度。 景観アドバイザーの派遣対象(周辺環境へ影響を与える大規模な建築物、公共施設等の色彩・デザイン等に関する事項、景観形成上、配慮が求められる建築物、工作物、広告物等の色彩・デザイン等に関する事項、市民、事業者等が行う景観まちづくり活動に関する事項、その他景観形成に必要な事項)
	高鍋市	○	-	-
鹿児島県	鹿児島市	○	鹿児島市景観 アドバイザーの派遣	地域の景観づくりを応援するために、専門的な助言や指導を希望されるグループや団体に景観アドバイザーを派遣。 (1)景観形成に関する理解を深めるための勉強会等で指導・助言 (2)良好な景観形成の指導・助言など
	垂水市	×		
	薩摩川内市	○	景観アドバイザー	※景観学習に派遣されていることが確認された。

1-2-3 自治体オリジナル教科書・副読本から検討する景観学習の授業内容と教材の考察

市町村独自で教材を作成した自治体は無かった。しかし、横浜市では教師向けに景観を切り口とした教材提案をしている指導書の作成に取り組んでいることが明らかとなった。地域の個性を活かした魅力的な景観づくりを推進しており、国土交通省が実施している景観まちづくり助成事業において、横浜市内で多くの学校が選定され、総合的な学習の時間等での取り組みがされている。そうした取り組みから総合的な学習の時間や社会科の授業で「まち探検」等を実施する際に、「景観」を切り口にまちを見ることで、子どもたちにもっと自分たちのまちを好きになってほしいという思いから、教師向けの手引きの作成に至った。作成された手引き「“景観”を切り口にまちに出よう！」は教師が総合的な学習の授業を検討する手助けとなる役割を目指している物である。この教師向け手引きは景観まちづくり助成事業に取り組んだ学校の先生のヒアリングや報告書等の内容をもとに作成している。

ただし、この手引きは教師用教材のため関係者以外の教材公開は困難であり、検討することが出来なかった。

1-3 本章のまとめ

第1章では目的①景観学習の現状を明らかにすること、②景観学習における実施体制・支援体制を明らかにすること、③景観学習における適切な教材の検討とそれに伴う学習形態を検討すること、以上3点に対応した調査を進めた。

まず全国47都道府県並びに全市町村1718の傾向から見てきた景観学習の現状を整理した。景観学習を実施しているのは47都道府県中9県、1718市町村中31市町村といった結果からわかるように、非常に実施自治体が少ないことが明らかとなった。

また、各都道府県において取り組みをしていた14自治体における支援制度をまとめた結果14自治体中6自治体で「景観アドバイザー制度」「都市デザインアドバイザー」「まちづくりアドバイザー」が確認された。さらに、市町村では、景観アドバイザー制度は7市、景観アドバイザー派遣制度は3市、まちづくりアドバイザー制度は1市、都市デザインアドバイザーは1市確認された。

さらに教材に関しては、都道府県において「独自に景観学習の実施・手引き・副読本の作成している自治体」は2県、「手引き・副読本のみ作成している自治体」は3県、「国土交通省景観まちづくり学習を推進している自治体」は2県という結果となり、市町村では教員向けの教材が1市から確認された。

全国的な取り組みを調査してみると非常に取り組みが少ないことが明らかとなった。こうした結果の背景として予想されることは以下の3点である。

1点目は教材の普及があげられる。取り組み自治体ほとんどが景観学習に関する教材を用意していない状況にあり、使用される副読本だけではなく、ゲストティチャーといった地域に根差した人物の発掘も課題である。

また、2点目として景観学習自体が普及していないこともあげられる。

3点目として、景観学習における体制の捉え方が「学校が独自で景観学習に取り組むことを望む自治体」「市や県と協働で景観学習に取り組むことを望む自治体」の2つが見受けられた。しかし現状として学校独自で取り組む自治体というのは国土交通省における景観まちづくり学習の支援制度等を生かしていかなくは実施が難しい傾向にあることが予想される。しかし、実施プログラム内容が全国に対応したつくりではあるが、地域に根差した教材にするためには教師の力量や知識、フットワークが求められるのは明らかであり、いきなりノウハウのない教師が実践することは難しい。

そうした現状を考えると、まず学校は市や県と協働し支援を受けながら、専門家の知識を生かし、地域と繋がっていく事が学習内容の充実につながるのではないかと予想する。そうしてノウハウを得ながら、学校が独自で景観や地域に対する学習を実践的に行う方法を模索する必要があるのではないだろうか。

そこで、第2章からは現場における景観学習の実態を明らかとしていきたい。

第2章

市職員を中心とした景観学習の実践 - 黒石市の実践研究から -

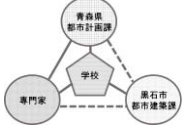
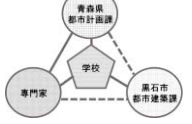
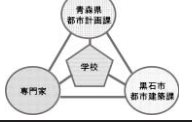
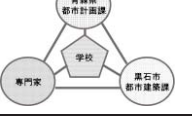


2 - 1 黒石型景観学習の概要

2-1-1 黒石における景観学習設立の経緯と取り組み状況

青森県県土整備部都市計画課都市計画・景観グループが景観学習を実施しており、現在も取り組みが継続されている。「青森県を担う子どもたちの景観に対する関心と良好な景観形成への意識をはぐくむこと」を目的に掲げ、景観の専門家である景観アドバイザーが小学校へ派遣され、授業を実施するものであるが、黒石市は、景観学習に参加するという体制で2009年から景観学習を始めた。

黒石市における景観学習の実施体制としては、2009年から2012年までは青森県県土整備部都市計画課都市計画・景観グループ主催、2013年から2015年は青森県県土整備部都市計画課都市計画・景観グループと黒石市建築部都市建築課の協働で景観学習を実施した。その後、2016年からは青森県の景観アドバイザー制度を活用しながら、黒石市建築部都市建築課が独自で景観学習教室を開催しており、現在も継続して実施されている(表1)。

表 12 黒石市における景観学習の展開の経緯

年	主催	活用制度	実施内容	関係主体の関連図及び変遷
2009-2012	青森県 県土整備部 都市計画課 都市計画・景観グループ	-	・講義 ・ちまち歩き※グループでデジタルカメラを1台持ち写真を撮影 ・「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」を景観シートにまとめ	
2013	青森県 県土整備部 都市計画課 都市計画・景観グループ	-	・講義 ・ちまち歩き※グループでデジタルカメラを1台持ち写真を撮影 ・「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」を景観シートにまとめ ・11月にリンクステーションホール青森で発表会を実施 ・リンゴ祭会場で成果を展示した。	
2014	青森県 県土整備部 都市計画課 都市計画・景観グループ 黒石市建築部都市建築課	-	・講義 ・ちまち歩き※グループでデジタルカメラを1台持ち写真を撮影 ・「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」を景観シートにまとめ ・11月9日黒石市で青森県都市政策課主催の景観フォーラムが開催され、景観計画並びに景観条例等の概要説明を行った。	
2015	青森県 県土整備部 都市計画課 都市計画・景観グループ 黒石市建築部都市建築課	-	・講義 ・ちまち歩き※グループでデジタルカメラを1台持ち写真を撮影 ・「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」を景観シートにまとめ ・12月に参観日で発表会を実施	
2016	黒石市建築部都市建築課	景観アドバイザー制度	・講義 ・ちまち歩き※グループでデジタルカメラを1台持ち写真を撮影 ・「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」を景観シートにまとめ ・12月に参観日での発表会を実施 ・黒石市主催の景観シンポジウムでの発表を実施	
2017	黒石市建築部都市建築課	景観アドバイザー制度	・講義 ・ちまち歩き※グループでデジタルカメラを1台持ち写真を撮影 ・「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」を景観シートにまとめ ・ガリバーマップの作成 ・12月に参観日での発表会を実施	

黒石市では、2015 年 8 月に第 5 次黒石市総合計画を具体化する計画として、黒石市都市計画マスタープランとの整合を図り、景観法第 8 条に基づく計画として黒石市景観計画を策定した。この景観計画は、黒石市の景観の特性や課題を踏まえた上で、これからの景観づくりの方向性や指針を定めたものであり、景観形成基準や景観重要建造物・景観重要樹木の指定など、景観法に基づく諸制度を含んだ諸施策を総合的に示すものである。また、住民にとっての真の住みやすさや豊かさを再確認し、黒石市固有の自然や歴史・文化に彩られ、新しいものとの調和や個性や資源を生かした地域らしい景観に取り組み、住み続けられる環境を持った「あずましの里づくり - 自然・歴史・文化に彩られ住み続けたいわたしのまち 黒石 -」を基本理念とした。この基本理念を踏まえ、黒石市では基本目標として「くらし・生業の基礎である自然・田園環境を守り、育む景観づくり」「風土や四季を大切にする、彩り豊かな景観づくり」「生業を振興し、伝統や風格を生かした、活力ある景観づくり」「地域の成り立ちや資源を生かし、身近な生活環境を豊かにする景観づくり」「共有、参加、協働により、みんなで積み重ねる景観づくり」を設けた。それに伴い基本方針として「骨格となる景観づくり」「まとまりを生かした景観づくり」「資源等を生かした景観づくり」「市民が育む景観づくり」を定めた。

そうした基本理念や基本目標、基本方針を基に、黒石市はこれまで歴史・文化をはじめとして、景観学習や普及啓発活動に取り組んできた(表 2)。

表 13 黒石市における景観に関する主な取り組み一覧

テーマ	取り組み・団体名	備考
歴史・文化	文化財保護法に基づく文化財の指定	
	重要伝統的建造物群保存地区の指定と黒石市歴史的景観保存条例に基づき周辺景観の保全	
景観学習普及啓発	景観学習教室の開催	青森県景観学習教室を市内小学校で実施
	水田を活用した農業体験(米っ子くらぶ)	黒石商工会議所が主催
	くろいし魅力百選の選定	
	景観シンポジウムの開催	
	あずましい景観写真の募集	
	小さなまちかど博物館の認定	
景観づくり活動	浅瀬石川クリーンの会	
	こみせ保存会	観光ボランティアガイドを実施
	横町十文字まちそだて会	黒石まち歩きツアーの開催 店舗の改装 くろいし食と文化のものがたり等の開催

2-1-2 黒石型景観学習実施目的

黒石市における景観学習の目的は景観計画で定められた「共有、参加、協働により、みんなで積み重ねる景観づくり」という基本目標から、「市民が育む景観づくり」の基本方針に基づき実施されている。

その中でも景観づくりを学ぶという点に特化しており、「地域の誇りと愛着が持てるまちをつくり、育て、次の世代に継承するためには子どもの頃からの地域やまちの景観に対する関心を持ち、意識を高めるとともに、景観学習等の実践の継続と発展すること」¹⁹と示されている。

2-1-3 黒石型景観学習の実施体制

2016年以降の黒石市における景観学習は、主に「行政」「学校」「大学」が協働する体制となっている。各々の主な役割は、「行政」が企画・運営・立案や日程調整、地域住民への協力要請、「学校」が提案されてきた授業内容に関する内容の検討や授業の実施、「大学」が検討された授業に対するアドバイス、指導、調整等である。そして授業補助として大学生や大学院生が授業に加わり、生徒一人ひとりに細かな支援を行っている。

黒石型景観学習の授業実施に至る主な体制の流れとしては、まず、行政が大学と小学校、行政の日程調整を行うと共に、授業の方向性を作った上で授業案を学校現場に持ち寄り、学校と行政が授業の検討を行う。そこで児童生徒の様子や実態を踏まえて、よりスムーズな授業になるよう試行錯誤する。

そして、検討を重ねていくうちに疑問や不安等が発生した場合、大学と協議を重ねた上で授業内容の確定へと至る。その後、授業補助である大学生に連絡し、授業時の支援の仕方等の調整を行う。

授業の実施は指導のプロである学校が行い、行政は授業で使用される物品等を用意し、大学は授業サポートとして加わる。

そして授業実施後の進捗状況や児童の様子に合わせ、次の授業展開を後日また行政と学校で検討し次回へ繋ぐ展開となっている。

¹⁹ 黒石市都市建設部都市建築課(2015)、「黒石市景観計画」

2-2 黒石型景観学習の展開

黒石東小学校における黒石型景観学習の経緯とねらい

黒石東小学校では、黒石市が景観学習を取り入れた 2009 年から景観学習に取り組んでいる。景観学習は総合的な学習の時間「東小かがやきタイム」の内容は以下の通りである。

第 3 学年では郷土理解「われらりんごたんけんたい(45)」、郷土理解「灯籠会に参加しよう(10)」、情報「伝えたい私の気持ち(15)」であり、「りんご」や「灯籠」といったまちの主な産業やイベントに着目し、課題の把握並びに追及し発表するとした年間活動計画となっている。

第 4 学年では郷土理解「すみよいまち(40)」、郷土理解「福祉について知ろう(20)」であり、「まち」全体を意識し、自ら課題を見つけ、興味を持った内容に対して調べ学習を行い、住みよいまちにするために自分たちで何ができるか考え、アウトプットする年間活動計画となっている。

第 5 学年は環境「守ろう地球を！(20)」、郷土「かがやく人黒石(50)」であり、第 4 学年で町全体に着目したことを生かし、次は人へ着目する展開となっている。郷土で働く職人や仕事に目を向けるとともに、そこで興味を持った同士でグループを組み、働く人について調べ、さらに疑問に思ったことを追求し、自分たちの活動のまとめ「かがやく人発表会」を行う年間活動計画となっている。

第 6 学年は郷土「黒石を元気にしよう！プロジェクト黒石名物(40)」、国際理解「世界へのジャンプ 1/194(30)」であり、第 6 学年では児童自らが特産物や観光資源、文化、歴史、郷土芸能などを詳しく調べ、ふるさと黒石を元気にするために商品開発を行い、開発した商品を製作活動、製作の宣伝活動を行い、自らの活動を発表する。そしてまちから世界へと視点を広げ、国際的な視点に広げる意識を行っている。

以上のように着目点を広げながら展開する内容となっている。そのため景観学習は第 4 学年における郷土理解「すみよいまち」の単元に最適な内容となっており、導入当時から第 4 学年に導入された。今年度は全 40 時間で授業を実施し、単元の評価基準に関しては以下 4 点とした。

- | |
|---|
| <p>(1)これまでの経験や校外学習を基に、郷土の課題を発見することが出来る。
(課題設定の能力)</p> <p>(2)活動の内容、手順、時間等を計画することが出来る。(課題解決能力)</p> <p>(3)いろいろな人と触れ合ったり、いろいろな場所に行ったりして、相手の立場を考えながら自分なりの追求をすることができる。(ものの考え方・学び方)</p> <p>(4)様々な方法から自分に合ったものを選び、相手にわかりやすく表現することが出来る。(主体的・創造的な追及的態度)</p> |
|---|

以上 5 点を評価基準として掲げており、それらを達成に向け、合同学習は全 4 回、その他の作業時間は小学校独自で授業を実施した。(第 3 学年から第 6 学年における年間活動計画は以下の(表 3、4、5、6)である。

表 14 黒石東小学校における第 3 学年 年間活動計画

平成 29 年度 第 3 学年「東小かがやきタイム」年間活動計画

月	単 元 名	学 習 活 動	単元の評価規準
4	われ れ ら り ん ご た ん け ん た い	☆黒石市の有名な物を見つけ、 発表し合おう。〈1〉	☆自分達の住んでいる地域や、そこ で働く人に興味を持つことができ る。 (課題設定の能力)
5		○われらりんごたんけんたい (1) りんごについて知っている ことを話し合おう。〈2〉	○われらりんごたんけんたい (1) りんごについて知っているこ とを発表し合うことにより、 課題を発見できる。 (課題設定の能力)
6		(2) りんごの花や受粉につい て調べまとめよう。 (授粉体験) 〈8〉	(2)～(5) りんごの成長や収穫を実際に見 聞きたり、体験したりするこ とにより、自分の課題を追求・ 発展できる。 (課題解決の能力)
7		(3) りんごの実の成長の仕方 を調べまとめよう。 (実すぐり) 〈8〉	
8		(4) りんごを赤くするしくみ を調べまとめよう。 (葉取り) 〈8〉	
9		(5) りんごの収穫について調 べまとめよう。 (りんごの収穫体験) 〈8〉	
10		(6) りんごについてわかった ことを絵や文にまとめ、 発表しよう。〈10〉	(6) 調べたことを新聞にまとめ、 みんなにわかりやすく発表す ることができる。 (主体的・創造的な追求的態度)
11		◆灯籠会に参加しよう (1) 灯籠の下絵をかこう。〈7〉	◆灯籠会に参加しよう (1) (2) 自分の好きな下絵を選び、仕上 げることができる。 (課題解決の能力)
12		(2) 灯籠を作ろう。〈3〉	
1		(3) 灯籠会に参加しよう。 (時間外)	(3) 地域の行事である灯籠会につ いて、理解を深める。 (自己の生き方)
2	郷土理 解 45 時 間	●伝えたいわたしの気持ち (1) 見学したり、訪問したり する時のインタビューの 仕方を覚えよう。〈3〉	●伝えたいわたしの気持ち (1) 学んだことをもとに、的確に マナー良く質問や挨拶などが できる。 (自己の生き方)
3		(2) 伝えたり調べたりするた めのいろいろな方法を知 ろう。〈5〉	(2) 情報機器の使い方を知り、利 用することができる。 (学び方・ものの考え方)
4		(3) お世話になった方々に、 お礼の手紙を書こう。〈3〉	(3) お礼の手紙の書き方を知り、 正しく書くことができる。 (学び方・ものの考え方)
5	情 報 15 時 間	(4) パソコンで自分のことを 伝える名刺を作り、友達 にプレゼントしよう。〈4〉	(4) 名刺の役割を知り、楽しく手 作りして友達との交流に役立 てることできる。 (課題解決の能力)

表 15 黒石東小学校における第4学年 年間指導計画

平成29年度 第4学年「東小かがやきタイム」年間活動計画

月	単元名	学 習 活 動	単元の評価規準
4	郷土理解 『すみよいまち』 (四十時間)	◎すみよいまち(40)	◎すみよいまち
5		(1) 黒石市のよさについて自分の知っていることをそれぞれ発表し合い、さらに紹介したいことについて課題をもとう。(8)	(1) これまでの経験や校外学習を基に、郷土の課題を発見することができる。(課題設定の能力)
6		(2) 同じ興味を持った者同士でグループを組み、紹介したい内容について調べよう。(10)	(2) 活動の内容、手順、時間などを計画することができる。(課題解決の能力)
7		(3) 中間発表を開き、自分たちの活動を見直そう。(4)	(3) いろいろな人と触れ合ったり、いろいろな場所に行ったりして、相手の立場を考えながら、自分なりに追求することができる。(ものの考え方・学び方)
8		(4) 自分たちの活動をまとめ、発表会を開こう。(14)	(4) 様々な方法から、自分に合ったものを選び、相手にわかりやすく表現することができる。(主体的・創造的な追及的態度)
9	福祉 『福祉について知ろう』 (二十時間)	(5) 黒石市をもっとすみよくするために自分たちができることを考えよう。(4)	(5) 調べたことを基に、自分の生活の中で確かめたり、生かしたりすることができる。(自己の生き方)
10		◇福祉について知ろう(20)	◇福祉について知ろう
11		(1) 福祉とはどういうことなのかを知り、もっと詳しく調べていきたいことを話し合おう。(2)	(1) 福祉について興味を持ち、課題を発見することができる。(課題設定の能力)
12		(2) 同じ興味を持った同士でグループを組み調べよう。(6)	(2) 活動の内容、手順、時間などを計画することができる。(課題解決の能力)
1		(3) 今まで活動してきたことを見直そう。(2)	(3) いろいろな人と触れ合ったり、関わりをもった相手の思いを感じ取ったりしながら、自分なりに追求することができる。(ものの考え方・学び方)
2		(4) 高齢者疑似体験、アイマスク体験、車椅子体験などを通して学んだことや今まで調べたことをまとめよう。(8)	(4) 学んだことや調べたことを、相手にわかりやすく表現することができる。(主体的・創造的な追及的態度)
3		(5) 今までの活動を振り返り、自分たちにできることは何かを考えよう。(2)	(5) 今までの活動を振り返り、自分たちができることを考えることができる。(自己の生き方)

表 16 黒石東小学校における第 5 学年 年間指導計画

平成 29 年度 第 5 学年「東小かがやくタイム」年間活動計画

月	単元名	学 習 活 動	単 元 の 評 価 規 準
4	守ろう 地球を！ 環境 20 時間 人かがやく街 黒石 郷土 50 時間	○守ろう 地球を！	○守ろう 地球を！
5		(1) 学習してきたことや、見聞きしたことをもとに、今どのような環境問題が話題になっているか考え、その中から自分の課題を見つけよう。 (2)	(1) 広い視野に立ち環境問題に興味や関心を持ち、必要感をもって自分にあった課題を見つけることができる。 (課題設定の能力)
6		(2) さまざまな方法で情報を集め、資料を整えよう。 (6)	(2) 課題を解決するために、情報機器を利用したりして、粘り強く追及することができる。 (課題解決の能力)
7		(3) 集めた情報をもとに、「今、自分たちにできることは何か」を考え、発表し合おう。 (4)	(3) 様々な情報を関連づけて考え、環境について自分なりの考えをもつことができる。 (学び方・ものの考え方)
8		(4) 学習したことを生かし、環境に配慮しながら『バケツ稲』作りをしてみよう。 (稲の世話・観察) (8)	(4) 学んだことを生かし、稲から米にする方法を自分なりに考えて、実行することができる。 (自己の生き方)
9		◎人かがやく街 黒石	◎人かがやく街 黒石
10		(1) 郷土で働いている人の職業や仕事に目を向けよう。 (10)	(1) これまでの経験や見聞をもとにして、見通しをもって郷土の課題を発見することができる。 (課題設定の能力)
11		(2) もっと詳しく調べていきたいことを話し合おう。 (4)	(2) 自分なりの課題を設定し、快活に向けて方法、時間、まとめ方などの見通しをもつことができる。 (課題設定の能力)
12		(3) 同じ興味をもった同士でグループを組み、働く人について調べよう。 (14)	(3) 必要な情報を収集したり、友達のことを取り入れたりして、より広い視野から自分の考えをもつことができる。 (課題解決の能力)
1		(4) 中間発表会を聞き、自分たちの活動を見直そう。 (4)	(4) 追及過程を振り返り、自己評価することができる。 (学び方・ものの考え方)
2		(5) さらに疑問に思ったことについて調べよう。 (4)	(5) 様々な調べ方、まとめ方の中から適切なものを見つけ出し、工夫して追及することができる。 (主体的創造的な追及的態度)
3		(6) 自分たちの活動をまとめ、『かがやく人発表会』を聞こう。 (14)	(6) 郷土には誇りをもって仕事に取り組んでいる人がいることに気づき、学んだことを自分の生活や地域の中で生かそうとしている。 (自己の生き方)

表 17 黒石東小学校における第 6 学年 年間指導計画

平成 29 年度 第 6 学年「東小かがやきタイム」年間活動計画

月	単元名	学習活動	単元の評価規準
4	黒石を元気にしよう！プロジェクト黒石名物 郷土 40 時間	○黒石を元気にしよう！ プロジェクト黒石名物 (1)ふるさとを元気にできる特産物や観光資源、文化、歴史、郷土芸能など特別なものを見つけて詳しくしらべて見よう。 (15)	○黒石を元気にしよう！ プロジェクト黒石名物 (1)生活の中から必要感をもって自分にあった課題を見つけることができる。また、解決方法、時間、まとめ方などの見通しをもつことができる。 (課題設定の能力)
5		(2)見つけた特別なものでふるさと黒石を元気にするための商品開発をしよう。 (10)	(2)課題を解決するために、方法を工夫したり商品内容を比較関連づけたりしながら粘り強く追究することができる。(課題解決の能力・学び方ものの考え方)
6		(3)開発した商品の製作活動と商品の宣伝活動をし、自分たちの活動をまとめ、発表しよう。 (15)	(3)多くの情報の中から必要な情報を取捨選択し、知識や技能、既習経験を生かして問題を解決することができる。 (主体的創造的な追究的態度)
7			(4)学んだことを自分の生活や地域の中で生かそうとすることができる。また、伝える相手を意識して、調べた内容を効果的に表現することができる。 (自己の生き方)
8			
9			
10			
11		◎世界へジャンプ 1/194 (1)世界地図を見ながら既習事項や日常生活の中で外国に関して知っていることや疑問に思うことなどを発表し合い、調べたい国や調べたい内容を考えよう。(4)	◎世界へジャンプ 1/194 (1)日本(黒石市・函館市)は、外国とのつながりがあることに気づき、自分にとって価値ある適切な課題を設定することができる。(課題設定の能力)
12		(2)自分たちが立てた課題に沿って、各種資料やインターネット・書籍・インタビュー・見学などで詳しく調べてみよう。(14)	(2)世界の国々に興味関心をもちながら、意欲的に課題を追究することができる。(課題解決の能力)
1		(3)国際交流員の方を招き、交流会をしよう。(4)	(3)交流会を通して、互いの国を理解し合うことの楽しさと大切さに気づくことができる。 (主体的創造的な追究的態度・学び方ものの考え方)
2		(4)諸外国のことを調べたり、国際交流員の方と交流したりして学んだことをまとめ、発表しよう。(8)	(4)世界の人々との相互理解や協力について考えたり、これからの日本や自分たちの果たす役割について考えたりすることができる。(自己の生き方)
3			

黒石東小学校地区における地域の実態

黒石市における人口は 34045 人(2018 年 1 月現在)であり、黒石東小学校が含まれる東・中部・西部地区は公共施設、商店街、住宅地等の都市機能が集積する中心地区で、土地利用の割合に着目すると、8 割が宅地を占め、農地は 1 割程度である。

地区内における地域資源としては重要伝統的建造物群保存地区、黒石よされ祭り(写真 1)、黒石ねふた祭り(写真 2)がある。



写真 1 黒石よされ



写真 2 黒石ねふた

出典：一般社団法人黒石環境協会、<http://kuroishi.or.jp/>

都市マスタープラン(2010)²⁰における地区住民まちづくり評価によると「住み良さと今後の居住意向」としては、東・中部・西部地区では「住み良い」と答えた人が 18.7%、「まあ住み良い」と答えた人が 40.0%であり、「住みにくい」「あまり住みたくない」「どちらとも言えない」と答えた人は合わせて 40.2%となった。定住意向については「ずっと住み続けたい」「当分住み続けたい」と答えた人は 64.8%、「転居したいが予定が無い」と答えた人は 14.1%となった(図 1)。

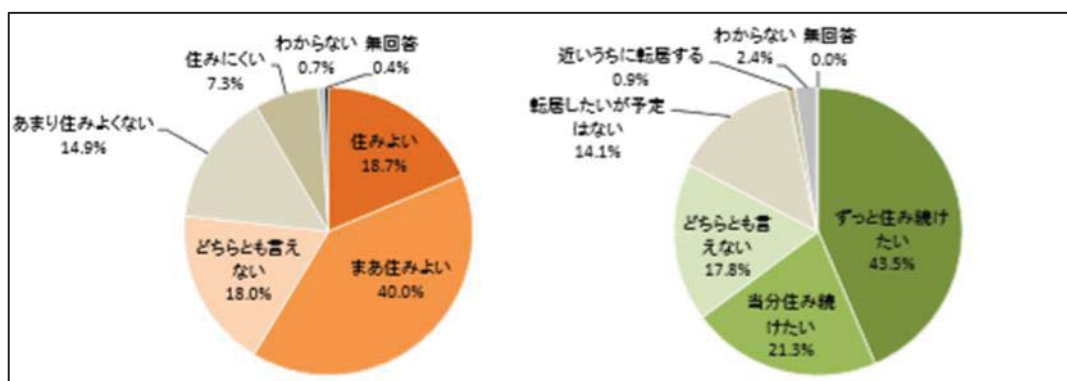


図 12 住み良さと今後の居住意向

出典：黒石市都市計画マスタープラン

²⁰黒石市建築部都市建築課(2010)、「黒石市都市計画マスタープラン」
http://www.city.kuroishi.aomori.jp/Administrative_Info/Ad_Toshi_plan.html

また住環境満足度では、満足度の高い項目と満足度の低い項目がほぼ半数である。プラス評価の項目として最も満足度が高かったのは「山・川等の自然環境の豊かさ」であり、次いで「ゴミ収集・処理状況」「近所同士の交流がある」であった。その反面、「まちの賑わい」「余暇を楽しめる催しや機会、施設」「公園・子どもの遊び場の充実」で満足度が低くなっている(図 2)。

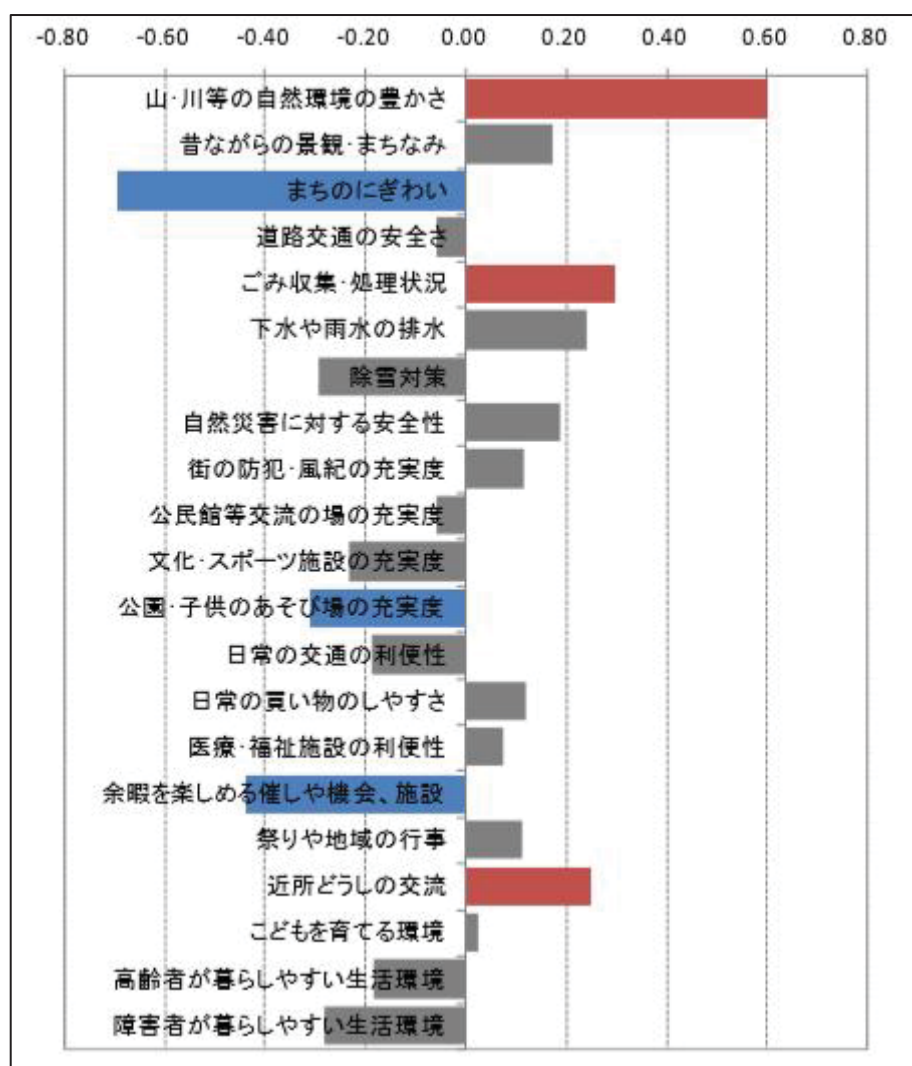


図 13 住環境での満足度

出典：黒石市都市計画マスタープラン

そして、市民自身が自慢できる物、将来に残したい物としては、奉り・催しは「黒石よされ」「黒石ねふた」「旧正マッコ市」、自然風景は「中野もみじ山」「青荷温泉」「虹の湖」「東公園の桜」、特産物としては「リンゴ」「地酒」「こけし」、文化財としては「重要伝統的建造物群保存地区」「中野神社」「高橋家住宅」、文化・観光施設は「りんご研究所」「浄仙寺」「津軽こけし館」とされている。以上から少子高齢化が著しい反面、地域資源に溢れた地域であることが、地域住民の意識からも読み取れる。

黒石東小学校における第4学年に関する児童観

(第4学年担任ヒヤリングより)

黒石東小学校4学年に在籍する児童は40名(男子15名、女子25名)で、児童の特徴は、どの学習に対しても非常に意欲的であり、何事に対しても追及できるところであるという。また、学力の高い児童も多く在籍しているため、調べ学習の進捗もスムーズであり、児童が独自で疑問を持ち、意欲的に取り組む姿が見受けられる学級である。取り掛かりも早く、自ら学習を進めることができる児童は自主的に学習させているが、そうした児童ばかりではないため、比較的手のかかる児童や調べ学習が苦手な児童に対しては指導や支援が必要とされる。グループ学習については、40人という多い学年でもあるため、実施しても教室の中では活動場所が限られてしまうが、少ない機会ながら実施はしているため、児童自身はグループ学習に慣れていると推測される。

(事前調査より)

黒石在住40名の児童が黒石市に対してどういった想いを抱いているか、どういった暮らしをしているのか把握し、分析するために調査を実施する。

そこで黒石東小学校4学年へワークシートを用いて調査を実施し、意識の実態を調査する。調査の概要は(表7)の通りである。

表 18 調査概要

調査方法	授業対象者へのワークシート調査
調査対象	黒石東小学校第4学年40名(2017年7月時点)
調査日時	2017年7月4日
回答人数(回答率)	40名(100%)

調査項目としては、2017年7月時点における対象学年の黒石市に対する想いや暮らし方を把握するために(表8)のように設定した。

表 19 調査項目

調査項目	黒石に対する想い 休日の遊び場 まち並みに対する関心 景観に対する認識
------	--

(1)黒石に対する想い

児童に実施した事前アンケート(図 3)からわかるように、児童のほとんどが黒石に対して「好き」という感情を抱いている。その理由としては「ねぷたや色々な行事があったり、こみせ祭りがあるから。」「災害もない、お米とリンゴがおいしい、とにかく安全だから。」「静かな所もあるし、賑やかな所もあっていいから。」「なぜ好きかというと、私の暮らしているところだから。」等が挙げられた。「少し好き」の理由としては「遊ぶ場所が無いけど、狭いから友達に結構会えるから。」「黒石市は狭いし、そんなに自分が好きな所もないから、嫌いというわけではない。」「私の東新町のねぷたが黒石で一番古くて、残っているのがすごいと思ったから。」等があげられた。「少し嫌い」「嫌い」その理由としては「物がすぐに無くなりやすいから。」「リンゴなど有名なのは結構あるけど、もう少し緑が少なく、建物が多い場所が好きだから。」であった。

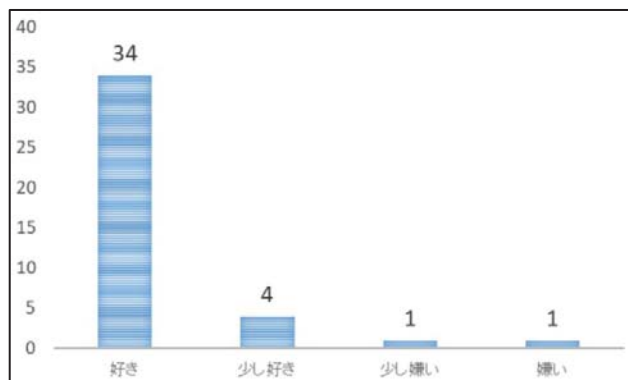


図 14 黒石市に対する想い

(2)休日の遊び場

また、児童が普段遊ぶ場所を調査したところ、児童の 35 人が「自分の家」「友達の家」を選択した。続いて 14 人が「学校」「店」を選択し、「公園」や「広場」が 6 人であった。また、その他を選択した人の中では「遊べない」「いとこの家」「おばあちゃんの家」等の理由もあげられた(図 4)。この調査の結果から、児童の多くが外出する機会が無いと推測される。また、室内での遊びでも自宅や友人の自宅といったように、不特定多数の他者との交流は少ない傾向にあると考えられる。

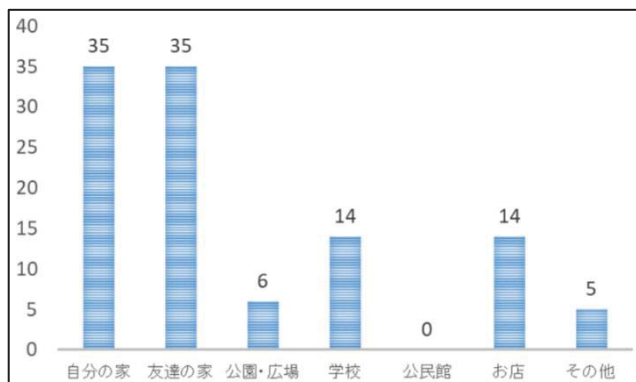


図 15 児童の遊び場

(3)まち並みに対する関心

そして、児童の町並みに対する意識を調査したところ、「いつも見て歩く」は4名、「時々見て歩く」は30名、「観ないで歩く」は6名だった(図5)。この結果から4学年におけるまち並みに対する意識は低い傾向であることが分かる。景観学習を通してまちに出るきっかけやまちを見るきっかけを作り、地域への関心を持つことが望まれる。

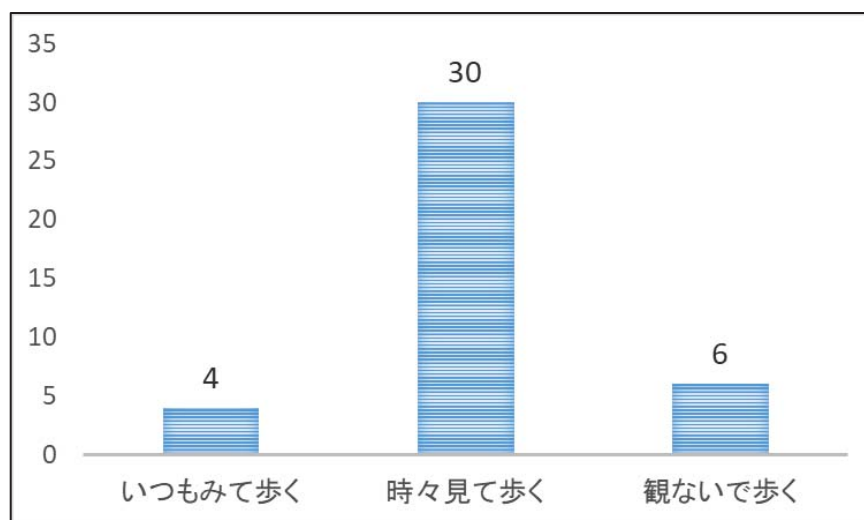


図 16 街並みに対する関心

(4)景観に対する認識

まち並みの調査に付随し、景観に対する認知に関しては7人が景観という言葉を知っていたが、残りの児童からは認識されていないことがわかった(図6)。その理由として、景観という言葉は第4学年では学習範囲ではない漢字が取り扱われていることもあげられるが、景観を意識して生活するきっかけが今までなかったことも一因だと推測される。

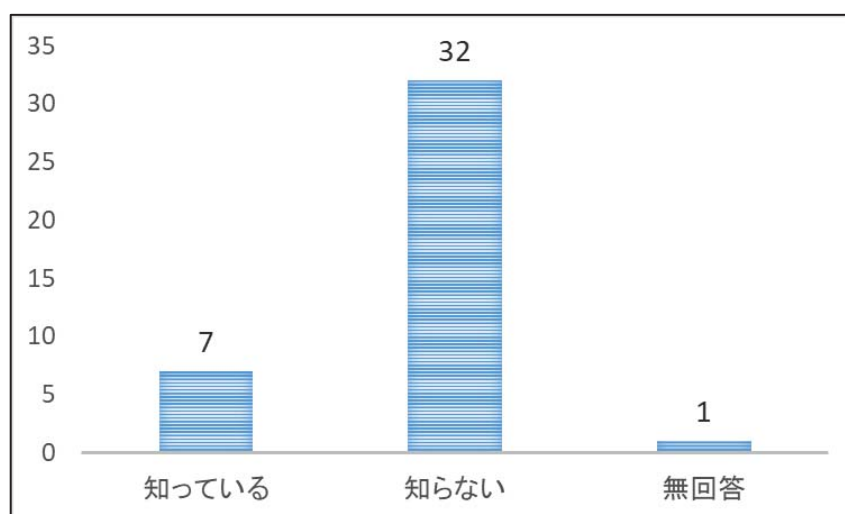


図 17 「景観」の認知度

実施日程

第4学年における合同授業の内容並びに日程は以下の通りである(表9)。

表 20 黒石東小学校における景観学習・検討会議実施日程

対象学校名	授業・検討会議回数	日時	内容
黒石市立 黒石東小学校	関係者による検討会議	2017年5月24日	第1回景観学習における、授業方法とまち歩きのリートの検討
	第1回景観学習教室	2017年7月5日	景観に関する授業とまち歩き
	関係者による検討会議	2017年8月8日	第2回景観学習における、授業方法と作成物の検討
	第2回景観学習教室	2017年9月5日	前回の授業をもとにワークシートとガリバーマップの作成
	関係者による検討会議	2017年10月4日	第3回景観学習における、授業方法と作成物の検討
	第3回景観学習教室	2017年11月8日	前回の授業を基に、景観新聞の作成
	第4回景観学習教室	2017年12月14日	景観学習発表会

2-3 黒石東小学校における黒石型景観学習の実践

2-3-1 第1次の授業の流れ

第1次授業では、児童に対して「景観について考える」こと「まちを歩くこと」に重きを置き、景観について理解させ、体感的にまちを知ることをねらった授業を実施した。第1次の授業展開における主な児童の活動及び反応例、教師の支援については以下の表8にまとめた。なお、ここでの講師は弘前大学教育学部教授の北原啓司氏、市職員は黒石市建築部都市建築課、学校は黒石東小学校を示し、大学生は授業補助として授業に携わっている弘前大学教育学部住居学研究室である。

表 21 黒石東小学校景観学習における第1次の授業展開

主な児童の活動と反応	教師・市職員・補助員の支援
【講師】 ○景観に関する講義を聞く。 ・目で見る。から景観なんだと思う。 ・足で見るから、景観の観なんだと思う。 ・景観は心で見るんだと思う。 ・景観は心もそうだけど、頭で考えて見ると思う。	【講師】 ○馴染みのない言葉であるため景観という漢字からどんなことが考えられるか、身近な物や自分自身の考えを自由に答えさせ、景観に対する感覚や価値、意味を理解させた。 ○同世代が撮影した「同じアングルでもタイトルが違う写真」を見せ、友達を同じ写真をとっても違う思いや意図をもって撮影することが重要であることを伝え児童に自主性を与えた。
【市職員】 ○カメラを一人一台カメラをもらう。	【市職員】 ○一人一台カメラを持たせ、各グループに大学生を1人ずつ配置させ、児童の安全を守ると同時に、児童のより深い学びや発見促し、まちに対する関心を持たせる。
【補助員】 ○カメラと観察板を持って班ごとに並び、担当大学生と自己紹介をする。 ○実際にまち歩きを行う。 ・はじめて観るところがあつてこみせ通りがもっと好きになったのもっと好きになりたいです。 ・じっくり見るとなんだか「この町っていいなあ」と思いました。 ・普段は車などで早く通りすぎる道でも注意してよく観ればいろいろな面白い景観がたくさんあるということがわかりました。	【大学生】 ○互いに自己紹介を行った。 ○うまくカメラの操作ができない児童やどのような景観を撮影していいかわからない児童に対して、どんな場所を取りたいのか話を聞き支援する。 ○グループでの移動となっているが、全員が観たい所や行きたい所に行けるよう、喧嘩等が起きた時に仲介役として入り、授業が円滑に進むよう支援を行った。
【学校】 ○どんなものを撮ったか確認してみよう。 ・高橋家の床 ・かくじ広場の銅像 ・カエルのモニュメント ・こみせ通り ・杉玉 ・松の湯	【大学生・市職員・学校】 ○どんな写真を撮ったか確認しつつ、きちんと自分の名前が書かれている名札を撮影しているか確認を行った。 ○児童の中で撮影したデータを全て削除してしまった児童がいたため、後日の動きを市役所と学校、大学生で確認した。

通常の授業時間は45分であるが、今回の景観学習は180分の連続授業として行った。まず、児童が景観について考えられるように、授業内容は専門家からの景観の講義を行いインプットの時間を設けた。「景観」という言葉を認知していない児童がクラスの大半を占めているため、まず北原氏は景観とはどんなことを指すのか考えさせるきっかけとして、「景観」という漢字に着目して説明を行った(写真3)。その上で、好きな景観や気になる景観、嫌いな景観について、過去の景観学習で実際に児童が見つけた景観を用いながら紹介をした。

その後、インプットした内容を基に実際に一人一台カメラを持ち、まち歩きを実施した(写真4、5、6)。その際、各班5〜6人で1グループを作り、そこに授業補助として大学生が同行した。児童は講義の内容に出ていた「好きな景観」「気になる景観」「嫌いな景観」を意識しながら、まちで独自に見つけた景観をカメラにおさめた。授業補助を行っている大学生がどんな景観を撮りたいのか声をかけながら行うことで、個性溢れる写真の撮影をすることができていた。講義で講師が事例として紹介していた「同じ写真に見えても、撮る人の背景で、意味が変わる」ことを理解したことから、友達と同じ場所から写真を撮ったとしても着目している所や思いがそれぞれ違うことを意識して撮影を行っている姿が見受けられた。また第1次の最後は、次時で自ら撮った写真をカテゴリー分けすることを伝え、学習への意欲を掻き立て、各々のモチベーションを上げていた。



写真3 景観に関する講義



写真4 まち歩き



写真5 まち歩き



写真6 まち歩き

2-3-2 第2次の授業の流れ

第2次では、自分が撮影した写真から「好きな景観」「気になる景観」「嫌いな景観」を選択し、その写真を選んだ理由を考えた。そして撮影した写真の場所を地図で確認し、その上で紹介したい一枚を紹介した。第2次の主な児童の活動と反応及び教師の支援は表11にまとめた。

表 22 黒石東小学校景観学習における第2次の授業展開

主な児童の活動と反応	学校・市職員・大学の支援
【学校】 ○前時の内容を確認する。 ・好きな景観 ・嫌いな景観 ・気になる景観 ○先生から今日の授業目標を聞く。 ○ガリバーマップを確認する。 ○ワークシートの書き方の説明を聞く。	【学校】 ○前時の内容を確認した。 ○黒板に今回の目的を掲げて、常に児童自身が目的を意識させた。 ○使用する教材について説明した。
【大学】 ○班に分かれて、どの写真を撮ったのか確認した。 ○自分で選んだ好きな景観、嫌いな景観、気になる景観を選択した理由を考えてワークシートに記入した。	【大学】 ○「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」を一枚選ばせ、ワークシートに選んだ写真を貼り、記入させることで、自分自身が選んだ理由を明確にさせる。
【大学生】 ○選んだ写真を持ちその写真を撮った場所に貼る。 （その場所に、好きな景観の写真は「赤」、気になる景観の写真は「黄」、嫌いな景観の写真は「青」のシールを貼ってください。）	【市職員】 ○巨大なガリバーマップを作成し、自分自身がどこでどのような写真を撮ったか再確認すると同時に、友達がどこでどんな写真を取り、それはどのような理由から選んだのか気付かせた。 【大学生】 ○迷っている児童の支援を行った。
【大学生】 ○グループごとに、友達の選んだ写真を「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」にグルーピングし、模造紙を完成させる。 ○完成したら、それぞれの選んだ景観をグループの仲間に紹介しよう。	【大学生】 ○一人ひとり選んだ景観の写真と理由を書いた付箋を添えて、グルーピングしてまとめさせた。同じ場所、似たような写真なのに考えていることや思っていることが違う事に気付かせた。 ○グループ内で発表を行い互いの発見を見つめ合う時間にした。
【学校】 ○全体の前で今日まとめた内容を発表しよう	【学校】 ○班ごとにガリバーマップの上に立ち、発表を行った。声の小さい児童に対してはマイクを用意し、発表に取り掛かった。撮った場所の上に立たせ、場所の理解と発表内容を同時に記すように促した。

通常の授業時間は45分であるが、今回も景観学習は180分の連続授業として行った。まず、第一次でインプットした講師の講義内容とまち歩きをした時にどんなことを見つけたのかを想起させる時間を設けた。グループごとに作業に入る前に、全体で本時の手順を確認し、全体ボードに掲げた。

その後、グループに分かれ、「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」を探し出し、それぞれワークシートに写真を添付し、その写真を選んだ理由を記入した(写真7)。

そして、市役所が作成したガリバーマップで2グループずつ大学生や市職員の支援を受けながら、主に自分がみんなに紹介したい写真を、好きな景観ならば赤、嫌いな景観ならば青、気になる景観ならば黄の、自分の名前を記入したシールを添付して貼り付ける作業を行った。実際にそれぞれが思い思いに撮影した写真に合わせ添付しているシールを見てみると、同じ場所だとしても好きな景観、気になる景観、嫌いな景観が混在していることが分かった。そのためこの作業は、お互いの発見を児童自身が相互に理解することを助けるものであることが分かる(写真8)。

その後、選んだ写真をグループごとに一人ひとり発表し合い、選んだ3つの写真とその写真を選択した理由を書いた付箋も添えてグルーピングする(写真9)。そしてグループごとに模造紙を一枚完成させ、全体でそれぞれの発見した景観を発表し合った(写真10)

また第2次の最後は、次の授業では自ら撮った写真について調べ学習をすることを伝え、次時の学習への意欲へと繋いでいた。



写真7 ワークシートの作成



写真8 ガリバーマップの作成



写真9 模造紙の作成



写真10 発表会

【児童が見つけた景観 - 好きな景観 - 】

児童の好きな景観は以下のような特徴が見られた(図 7)。大項目別に見てみると「物」は 14 名、「建物」が 11 名、「庭」が 6 名、「自然」は 4 名、「生き物」が 2 名、「物と建物」が 2 名、「風景」が 1 名であった。ここでの自然というカテゴリーは、人工物や人の手が加わってない物とする。

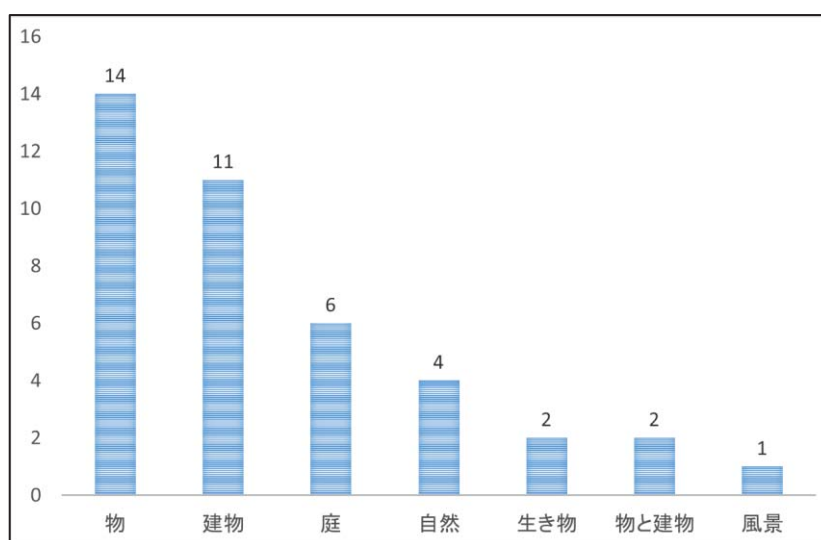


図 18 好きな景観

大項目別にみた児童の好きな景観は表 12 から 18 に示した通りである(表 12 から 18)。

表 23 「物」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
物	松の湯交流館の松の木	大きな松の木	選んだ理由は、大きくて電線よりも大きくてカッコいいからです。 みどりも目立っていてすごいからです。
	ギター	カッコいい	選んだ理由は形がカッコいいし、使っている色が黒と茶色でとってもカッコいいから選びました。感じたことは木で作られていてちょっと昔にできたものだと思います。
	杉玉	大きい景観	大きくふさふさしていて気持ちよさそうだからです。
		大玉景観	選んだ理由はお酒が出来たという意味で決めました。感じたことは変な笑観たいのでこんなに大きいのを作っていてすごいと思いました。
	看板	昔のことが書かれた看板	選んだ理由は昔のことがわかりやすく書いていてとてもすごいと思いました。
	車	綺麗な景観	選んだ理由は見た目がカッコいいからです。感じたことは車が綺麗に並んでいるのでいいけれど、いつ使ったりするのが不思議に思います。
	酒作りの道具	UFOみたい	UFOみたいで面白い形だからこの写真を選びました。酒屋さんにこんなものがあるんだなと思いました。それとこんなのでお酒を造るんだなと思いました。
	ピアノのモニュメント	音楽の景観	理由はいしで出来ているピアノや名前と顔が彫られていた石を見て、昔に活躍した人が彫られていてすごいと思ったからです。感じたことはどんなことをした人なのか気になりました。そのことを調べてみたいとおもいました。誰が作ったのかも気になりました。
		ピアノの景観	理由はピアノが好きで、石でピアノを作っていてすごかったからです。ピアノの黒鍵に書いてある人は死んだのかかわからないけど、生きていれば是非あってみたいです。
	自販機	-	いろいろな飲み物があって好きです。コーラがあるのがとてもうれしい。いろいろなジュースがあるからいい。いろはすのブドウがアクエリアスとか綾鷹とかあるからいい、ドデカミンもあるのがいい。色とりどりでカラフルですごいいい。
	花	自然を感じる景観	理由は塀と道路の間の土に色とりどりの花が咲いていて綺麗だと思ったからです。それに自然を感じるのだからさらに気に入りました。感想は、このまま黒石市が自然であふれる綺麗な黒石市になってほしいです。そしてこの自然が犯罪などで汚れずにいてほしいです。
	かくじ広場の絵	綺麗な景観	個店通りの有名なお店などが描かれていて綺麗なのでこの景観を選びました。
	お寺の柳	さわやかな木	この写真を選んだ理由ははが綺麗に下向きになっていて、色が緑いろだからです。あと、葉の数がおいからこの写真にしました。
	こいよされのモニュメント	面白い景観	真ん中のリンゴにハートの穴が開いていて面白い景観だなと思いました。よさを踊っているのが面白いです。

表 24 「建物」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
建物	寺	-	僕が撮った写真は寺です。なぜかと言うと、高級な寺だと思ったからです。
		立派な景観	好きな理由は前に立っている立派なもんがかっこよくて中には木が寺の周りを囲んで中の寺が上部そうで門みたいに立派だからです。周りの「さく」もすごくここを選びました。木の色もそれぞれが違ったので綺麗でした。
		夜ライトアップしたら絶対綺麗な景観	この写真はお寺です。なぜ私がこの写真を撮ったかという夜ライトアップしたら絶対綺麗だと思ったからです。夜ライトアップしたらもっときれいだと思ったのでこの写真を撮りました。
	門	何の門かなあ	昔からあるから、これを選びました。昔からあるのに、壊れそうじゃないから。
	こみせ駅	-	選んだ理由はこういう形で残しているのを選びました。また、これからこのように残して行きたいです。
		こみせ駅	奥行のある木造だから。
	玉霊	綺麗な景色	このお店は何十年経っても綺麗で汚れていないのすごいいいと思いました。
	松の湯交流館	綺麗な景色	選んだ理由は昔風でも綺麗に建てられていて中に入ってみると昔は銭湯だったみたいで昔風がまだ残っていて私は昔風が残っているのはとってもいいなと思って選びました。
	高橋家の床	なにこれ景観	いつもと違う地面だから選びました。凸凹していたので選びました。
	民家の壁	面白くてきれいな景観	綺麗な模様になっていて、この模様が面白いから好きな景観にしました。壁に折り紙の鶴が居るので面白いいいと思いました。
	消防署	好きな景観	選んだ理由は昔から作られていた消防署がかっこいいのでこの景観にしました。

表 25 「庭」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
庭	高橋家の花	高橋家の庭	花が綺麗でイキイキしていて、色合いがいいので選びました。
		異例な庭園	選んだ理由は花がいっぱいで、しかも綺麗で色や大きさが色とりどりでいいなあと思ったからです。草や木も立派ですごいいいと思いました。広くてこんなにわがほしいと思いました。
		綺麗な景観	選んだ理由は高橋家の庭に花が咲いていて、いいと思いました。近くにもたくさん花が咲いて綺麗だったので撮りました。
		花いっぱい の景観	選んだ理由は花がうっばいで綺麗な景観だったので選びました。感じたことは花がいっぱいで綺麗だなと私は感じました。一生懸命育てたと感じました。
		綺麗なお花 水しぶき	高橋家がすごく綺麗で撮りました。理由は雨が降った後の花が綺麗で、調べました。水しぶきはきれいなので、写真を撮りました。でも花の下にあるしぼんでいる花も綺麗です。
	高橋家の庭	-	選んだ理由はとても清潔感があってゴミなどが無いから選びました。感じたことはとても心地良かった事です

表 26 「物と建物」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
自然	花	ここに1つだけ の花	選んだ理由はこれが1つしかなくてピンクですごくかわいいしすごく不思議だったので選びました。感じたことは、ここに1つしかないというのが不思議だと思いました。
		綺麗な花	綺麗な花でとても綺麗だったので選びました。綺麗に咲いていて、とてもすごくかわいいので選びました。なぜ好きになったのかわかりません。
		ここに1つだけ のバラ	なぜこの写真を選んだかというと、ここに1つしか咲いていないし、とてもかわいいからです。どんなバラよりも綺麗です。けれども次の日に通ってみたらバラが跡形もなくなっていました。
	竹藪	綺麗なけやぶ	私がこの写真を選んだ理由は私は自然が好きだからです。こんな感じに緑が豊かだからです。感じたことは崇徳綺麗で自然らしいからです。

表 27 「自然」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
生き物	鯉	綺麗な景観	水はきれいではないけど、この鯉がうれしそうに泳いでいて仲間の鯉もいっぱいいたのでいいと思います。
	生き物	不思議な葉っぱの向こうに何かがあるのかな？	選んだ理由は私はたまにそこを通っていて、この葉っぱの向こうにかわいいトイプードルのかわいい子犬がたまにワンワンと吠えているから少し面白いから好きな景観にしました。

表 28 「生き物」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
物と建物	三重の塔と木	綺麗…景観	風情があるし、三重塔と柳が合っていて何とも言えなく綺麗だからです。
		-	柳のバックに三十の塔が聳え立っていてカッコいいと思ったからです。

表 29 「風景」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
風景	お寺の風景	綺麗な景観	綺麗な風景でしかも私の言っているお寺なので、とっても良かったと思います。通る機会があまりないので、撮れてよかったです。

【児童が見つけた気になる景観】

児童の気になる景観は以下のような特徴が見られた(図 8)。大項目別に見てみると「物」は 31 名、「建物」が 5 名、「庭」が 1 名、「自然」は 1 名、「水路」が 1 名、「天候で出来た物」が 1 名であった。ここでの自然というカテゴリーは、人工物や人の手が加わってない物とする。

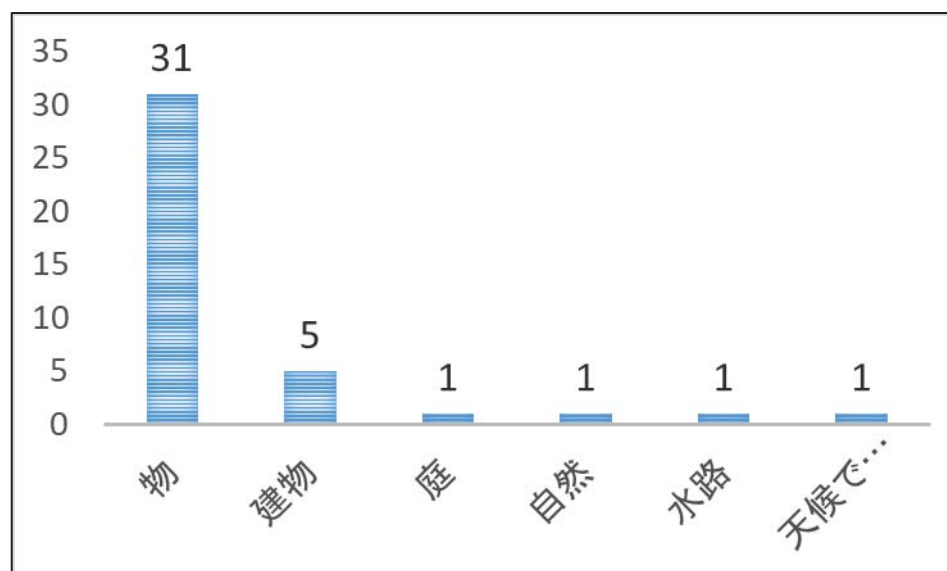


図 19 気になる景観

大項目別にみた児童の気になる景観は表 19 から 24 に示した通りである(表 19 から 24)。

表 30 「物」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
物	看板	はてなセンター	選んだ理由はセンターだけ書いていてセンターの前に何も書かれていないので気になる景観にしました。
	古い物	古そうなものがたくさんある	選んだり理由は小さな銅像や古い白黒写真などが棚に置いてあったので、気になりました。感じたことは、偉い人やすごいヒトのような人の銅像や写真などがあることです。
	杉玉	-	なぜこの写真にしたかという、酒を造ってその酒をどこにやるのかわからないので気になる景観にしました。もっと調べていきたいです。
		何である？ 何でできてる？	理由は鳴海酒造？のシンボルのような杉玉のような杉玉のようなもの。見た瞬間にいろんな疑問を思いました。何である？何で出来ている？大きさ、重さはどのくらい？色々思ったので、気になる景観にしました。改めてみると色々な疑問が浮かんでくるなあ。
	人形	気になる景観	頭が大きいので頭がいいと思いました。
	ピアノのモニュメント	不思議な人達	選んだ理由は昔の人たちが色々乗っていてとても不思議です。ここにあるのがとても不思議です。
		この人たちはだれかなあ	知らない人がいっぱいいるから。兄弟みたいな2人がいるから。
		-	何のために作られているのかがとても気になったから気になる景観にしました。
		石の景観	理由はこれが何のためにあるのか気になるからです。いっぱい字があってすごく気になります。石を掘って文字を書いているのはすごいです。
	楽器	-	気になる理由はここの部屋にはトランペット、クラリネットとか様々な楽器が置いてあるのか気になったから、この写真を撮りました。
	酒樽	-	選んだ理由は好きでもなく嫌いでもなく、こんなに大きいのが気になったので選びました。
		大きなたる	選んだ理由は大きなたるを何に使うのかきになった。感じたことはお酒は〇でくむと思ったことです。
		気になるとかん	なるみまおさんのお店の中にあるド缶が綿h氏は気になりました。中にお酒が入っているかはわかりませんが、私はお酒が入っていると思います。まおさんの家はお酒のお店なのでそう思いました。
		不思議な景観	選んだ理由はこのド缶が何に使われているのかわかって気になったから選びました。感じたことはお酒のお店だから、お酒を造っているド缶だと感じました。
		二度見したくなる景観	2mくらいありました。梯子を上って何をするのかなあと思いました。少し赤くて目立ちそうでした。二度見したくなる景観でした。
	柳	なんでこんな形？	選んだ理由は普通の木の形じゃなくて、花火みたいな形をしていて不思議だなと負ったので選びました。感じたことは木のはががたくさんあることです。
	着物	気になる	この着物は綺麗だけどなにか不思議だったから。
	松の木	やねから突き出ている松の湯	選んだ理由は屋根を突き抜けている松の木がすごく伸びていて面白かった。感じたことは北原先生が考えたことだとおっしゃっていた。面白いなあと思いました。
	恋よされのモニュメント	何のためにあるのか	理由はよさを踊って銀のリングを持っているけど、どういう意味で建てられたのか知りたいです。だれがどんな理由で建てたか気になりました。感じたことは、なぜここによさを踊っている像があるのか気になりました。
	たぬきの置物	たぬき	高橋家にあつて草の中から田向の置物がなぜかあったのが気になるし、何か話しているような気がしたから。
	棒	なんだ？このぼう	私たちはなぜ？撮ったかという、この上の写真の中の坊が気になったので撮りました。今でも不思議です。不思議なあ？ずっと気になって聞けばよかったと思います。
	車	-	どちらの家の車なのかすごく気になる。ナンバーから1515それにくろの色。向こうの家の地面が黒だから分かれています。だから車は向こうのなのかなと思いました。
	こけし	-	こけしみたいな形なのに、なぜ顔や体の模様などが書いていないのか、気になるから選びました。
	白と緑の玉	丸いものが浮かんでいる	これは鳴海酒造店でとった写真のだけど、写真を撮って見てみたら白い球のようなものが浮かんでいて、白だけでなく緑色の玉も写っていたことが不思議です。
	小さな家	あんなにちっちゃいお家があるの？	なんてこれを選んだかというと、人のお家でもない詩、高いと事にこのちっちゃいお家みたいなものがあったので、ねずみが住めそうなお家でもとても面白いです。
	蛇口	分からない景観	これは何に使うのか、どうしてここに蛇口を置いたのかわからないから気になる景観にした。なんとなく気になる。なにもかもわからない。
	柳	大きな木	長い長い葉っぱ、なぜこんなに長いのか気になるよ。でも電信柱と同じです。木が長いのが気になる。
	お風呂の板	温泉	選んだ理由はライオンの下の板は何だろう？と思ったからです。

表 31 「建物」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
建物	高橋家	なぜここは踏んではいけないのか	なぜここは踏んではいけないのか不思議に思ったので気になりました。
		気になる地面	ごつごつしてて、こういうごつごつしている地面はあまりないので見れてよかったです。
	民家の壁	どうやってつくったんだろう	私たちはすごいと思ったので選びました。つるの折り紙を綺麗に再現しているのですすごいと思いました。そういう職人さんがいるんだなと思いました。
	壁	何でここだけ？	なぜここだけ壁が出来ているの？と思いました。
	松の湯交流館の囲炉裏	気になる景観	松の湯の建物の中に砂みたいなのがあって不思議だと思って撮りました。

表 32 「庭」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
庭	花	-	花が綺麗だからです。

表 33 「自然」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
自然	花	中林の前に1本のバラ	中林の駄菓子屋さんの真ん前に、一凛の花が咲いていました。とっても不思議でこのバラ1本しが咲いていなかった。このあと見に行ったらありませんでした。

表 34 「川・水路」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
天候で出来た物		水がこうなったのわかるけどこの形何？	私がこの写真を選んだ理由は人魚のような形をして、あまり見かけられない写真なのでこの写真を選びました。感じたことは不思議な形という感じられました。

表 35 「川・水路」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
川・水路	水路	綺麗な川	なぜこの景観が気になるのかというと綺麗だけど、好きでもないし、嫌いでもないからです。感じたことはずっと見ていると、川のせせらぎが聴こえてきそうです。

【児童が見つけた嫌いな景観】

児童の気になる景観は以下のような特徴が見られた(図 9)。大項目別に見てみると「物」は 25 名、「建物」が 8 名、「川・水路」が 6 名、「人」は 1 名であった。

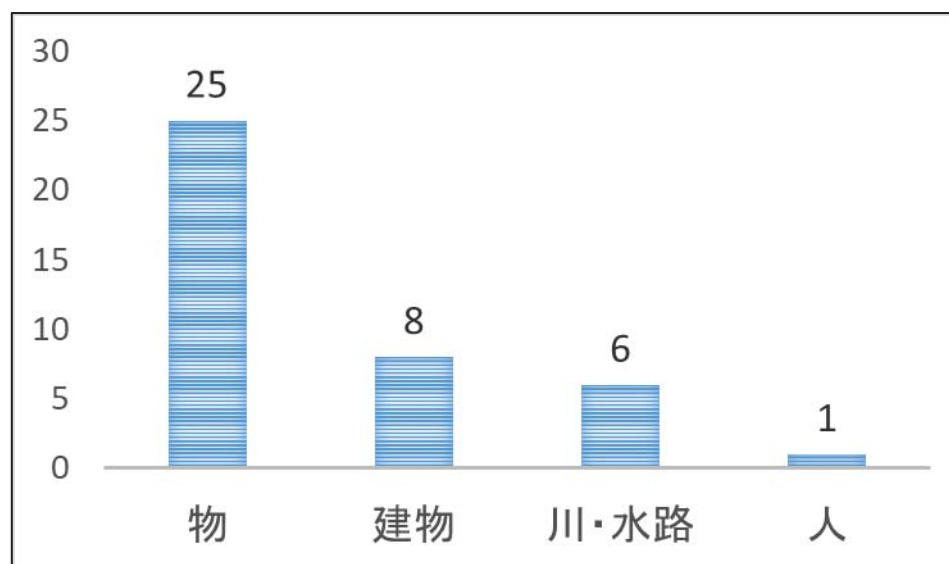


図 20 嫌いな景観

大項目別にみた児童の気になる景観は表 25 から 28 に示した通りである(表 25 から 28)。

表 36 「物」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
物	衫玉	大きい衫玉	選んだ理由は大きくていいけど、色が目立っていいないので嫌いです。右のは小さいけど色が目立っているのが好きです。
	モニュメント	寒くて苦しそう	選んだ理由はとても寒そうでとても苦しうでしかも今にも倒れそうだからこれを嫌いな景観にしました。感じたことは親と子どもと一緒にいていてカッパのようなもので寒さから守っているのだと思います。
		きもちわるい	はだかで気持ち悪いから絵が美しかったです。なぜ裸?! どうしてなにも着ていないのかわかりません。裸で気持ち悪かったので選びました。
	ゴミ		なぜこれを嫌いな景観にしたかというと、汚いモノや空っぽのペットボトルとかがあるので嫌いな景観にしました。
		穴にゴミ	ゴミをポイ捨てするのはダメなので、嫌いな景観に選びました。
		汚いゴミ	選んだ理由はきれいな黒石にゴミがたくさんあるのが嫌いです。感じたことは、ゴミが道路に落ちていないことはいいけれどゴミを減らしてほしいです。
		コーンが歩道に割れている 嫌いな景観	理由は道にコーンの壊れたかけらが落ちていて、危ないと思ったからです。道に危ないものがあると危険だし道を歩きたくなるので嫌いな景観にしました。感じたことはコーンを片付けて待ちウイ綺麗にしたいと思いました。
			使ったティッシュが道路に捨てていてとても嫌だったから嫌いな景観に選びました。
			小石や枯れ葉が落ちていて清潔感が無かったからこの写真を嫌いな景観に選びました。
		いやだなあ この景観	なぜ私がこの写真を撮ったのかという汚いと思ったからです。これは中にお地藏様が入っている。したの写真です。お地藏様が上に居るのになぜゴミを入れるのかなあと思いました。
		汚い景観	トレーがきたなくて落ち葉が捨てていなくてトレーが整頓されていなかったのが撮りました。
		汚い景観	散らかっていて見た目が良くないから嫌いな景観です。
		ポイ捨て 「ダメ」だよ 嫌いな景観	私がこの写真を選んだ理由は「どぶ」にゴミを捨てるのはダメだから呼びかけをしてこのようなゴミを減らしたいと思ったので、この写真を選びました。
		汚い景観	ポイ捨てするのはよくないなと思いました。どうして捨てるのかなと思いました。汚い景観で嫌な感じがした。
		ゴミステーションの 袋が木に のかかっている	とっても嫌な写真で、植物は生きているのに、ゴミを入れる袋を植物の上にのせていてとっても心が嫌になってきます。
	神棚	ふしぎな	嫌いな理由はとても暗くて不思議に思ったからです。神社みたいな所が怖いからです。
	石	きたない 「あらってあげれ ば」	汚くてかわいそうだから嫌いな景観に選びました。お寺の人が洗ってあげればいいのになと思いました。
	車	らそうになっている	選んだ理由は大きな隙間が空いていて落ちそうだからです。感じたことは車のタイヤが落ちそうになっているからすごくイライラします。
		落ちそうな車	落ちそうな車だけど、写真では落ちそうな車じゃないけど、落ちそうな車で、怖かったので、嫌いな景観にしました。
			落ちそうでもイライラするので嫌いな景観です。直せよとおもってしまいました。
	つぼ	大きな穴	大きなツボがあってすごい深さがありそうで中に入ると出れなさそうだからです。
			なんか怖いからです。深そうだし、貞子が出てきそうだからです。
	絵	古いと思って しまった景観	理由は個店通りにあるかくじ広場の休憩スペースの屋根近くにある絵ですが、歴史を感じるのはいいものの、気が少し傷ついて古さを感じるので、嫌いな景観にしました。
	ビン	はちのす	すごく気持ち悪いし、中が暗そう。こんなに重ねているとガラスだから割れそうになる。結構黒の隣の縁が落ちそうで怖いし、結構嫌いなものになりました。
	かえるのモニュメント	かえる	選んだ理由はカエルの銅像が壊れそうだから嫌いな景観にしました。

表 37 「建物」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
建物	外観	くさだらけ	まわりに草しかないから汚い。草をなくしたらたぶん綺麗。
		怖い景観	草だらけで汚いし、こわいから嫌いな景観にした。古そうでここはつかえるのか？とりたい。リニューアルしたい。
	スナック街	廃墟みtainな景観	嫌いな理由は、周りのコンクリートにヒビがあったり、下にもヒビが入っていて他の所は明るいのに、ここは暗くてクモの巣とかがさくからんでいて、やっているのかわからないのですごく不気味だったので、この写真にしました。
		しみみりした景観	理由は少しくらい人通りが少ないからです。夜には結構明るいそうです。
	廃墟		選んだ理由は雑草などがぼうぼうと生えていて、どう見ても空き家なので、この広い敷地をもっと役に立たせてほしいと思いました。
		つぶれそうな家	今にもつぶれそうでとてもお化けが出てきそうで、自信が起きたらすぐに壊れそうなのできらいです。見栄えも悪くてとても怖いです。
	高橋家	壁や扉が汚れていて汚い	理由は古いから華美が生えていてとても汚いから。
	塀		塀が壊れていて汚いし、直してほしい。それに家が汚い。草がいつばい生えている。塀が崩れている。地割れているようなのでお直してほしい。

表 38 「川・水路」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
川・水路	用水路	流れが速い	落ちそうで、流れが速くて落ちたら助からないと思うし、サクもボロボロなので嫌だからです。サクを直してほしいです。
			落ちそうだから。流れが速いから。子供が落ちそうだから。
		汚い久川	選んだ理由は、こみせはすごくいい場所なのに、汚い川があるから選びました。
		どぶ	選んだ理由はこの川が汚いし、壊れそうな予感があるからです。感じたことは、もうちょっと川の水をきれいにしてほしいことです。
	水路	寂しい景観	鯉が一匹でなんか寂しそうだから。みずが濁っているからです。
	川	濁っている川	よくこの川に食べ物のゴミやペットボトルが落ちているのを見たことがあります。あと濁っているので私はこの川を嫌いな景観に選びました。

表 39 「人」一覧

大項目	小項目	タイトル	理由・内容
人		人がはいつてきて撮れなかった	この写真を選んだ理由は、この人の後ろにあるものを撮ろうと思ったらこの人が入ってきたので全然取れなかったの嫌いな景観にしました。

2-3-3 第3次の授業の流れ

第3次では、第2次で「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」を選択した写真から、さらにその中で自分が調べたいと思った景観を選び、調べ学習を行い、調べた事や考えたことについて新聞を作成した。第3次の主な児童の活動と反応例、教師の支援については、表29に示した通りである。

表 40 第3次の授業計画

主な児童の活動と反応	学校・市職員・補助員
【学校】 ○授業のねらいを確認する。	【学校】 ○黒板に今回の目的を掲げて、常に児童自身に目的を意識させた。
【大学】 ○大学生に書いておいた下書きの添削を行ってもらう。 ○終わった人から模造紙に下書きを始める。 ○書き終わったらマジック書きや写真貼りなどを行う。	【大学】 ○選んだ景観について各自調べ学習を行ってきたことを基に、新聞の下書きをしているため、誤字脱字や内容が読み手に伝わりやすいのか、内容の信憑性について確認した。 ○一人ひとりの進捗状況に合わせて声掛けや、手伝いを行い、少しでもスムーズに作業が進むよう支援した。
【学校】 ○全体で各班ごとに発表を行う。	【学校】 ○司会進行を行いスムーズに授業が展開するようになった。 【市職員】 ○発表する児童の作品を持ち発表の手伝いを行った。 【教授】 ○児童一人ひとりに対してコメントをし、児童に新しい発見や知見を与えると同時に、やる気を向上させた。
○次時の活動内容を聞く。	【学校】 ○次時の活動内容を伝え次の授業への見通しを立てさせた。

第3次では、グループごとに分かれ、個別景観新聞を作成させた。一人ひとりが選んだ景観について、児童自身で調べ学習を行っているため、その内容について事前に各自記事を下書きし、その内容について大学生が誤字脱字、内容、読みやすさを確認した(写真11)。

また児童の中にはなかなか記事が書けない児童もあり、適切な補助が必要なため、大学生には、好きな景観、気になる景観、嫌いな景観についてどのように指導するのかを担当と市職員からある程度の方向性を指示している。好きな景観について記事を書く場合は、その景観を今後守り続けるために何をしたら良いかを深めさせることを意識させ、また気になる景観に関しては、なぜ気になるのか、どうすれば好きな景観になるのかを考えてもらえるように、また嫌いな景観ではなぜ嫌いなのか、どうすれば好きな景観になれるのかを考えるよう促した。各々が個人で作業を行い、写真の貼り方やグラフの書き方、見せ方、タイトルや見出しの書き方等それぞれ試行錯誤しながら作成した。

最後に、第3次のまとめとして、本時で作成した所までを全体発表を行い(写真12、13)、その際に専門家から班ごとにコメントがあり、児童の次へのモチベーションの向上や目標や課題を明確にさせることができた。



写真 11 新聞の添削



写真 12 作成した新聞の発表



写真 13 講師からのコメント

2-3-4 第4次の授業の流れ

第4次では、第1次から第3次までの活動を基に作成してきた景観新聞の発表会を、保護者並びに地域住民、市職員の前で行った。第4次の主な児童の活動と反応例、教師の支援については、表30に示した通りである(表30)。

表 41 第4次の授業計画

主な児童の活動と反応	学校・市職員・補助員
【学校】 ○今日の目標を確認する ○お父さんお母さんに自分が見つけた景観の場所をガイバーマップを使って紹介する。	【学校】 ○黒板に今回の目的を掲げて、常に児童自身が目的を意識させる。 ○ガリバーマップを中央に設置し、場所を保護者や地域評議会の方、市役所の方等聞き手が分かるようにした。
【学校・市職員】 ○それぞれのブロックに分かれて発表する。	【学校・市職員】 ○大人が一人つくことで新聞を張り替えたり、司会する役割になることで進行をスムーズにし、児童に発表に専念してもらう形にした。
【学校】 ○来てくださった保護者や市役所、大学の方々に感謝の合唱を行う。 【市職員】 ○樋口課長の話聞く。	【学校】 ○児童が発表しやすいように、児童の日ごろの成長を伝え、感謝を込めて歌うことを伝えた。 【市職員】 ○感謝の言葉と共に、景観学習を行って見えた児童の成長を称え、これからまちに出て活動することへの期待を伝えた。

第4次では、発表会当日は参観日でもあり、30人以上の保護者が参観に来ていた。そのため、どんな場所で撮影した景観なのかを伝えるために発表前に保護者を招き、ガリバーマップを活用して教えた。児童全員が見つけた景観を多くの保護者が関心をもって確認していた(写真14)。

紹介後は3グループに分かれて、ポスターセッション形式で発表を行った。一人当たり3分の時間で発表を行い、質疑応答を実施した。各班にはTTの先生や市職員が付き、新聞の張り変えや司会進行を行うことで、質疑応答や発表をスムーズに展開していた。1人一度は必ず質問をしたり、感想を述べたりするようにしている普段の姿勢が発表会でも見受けられ、活発な発表会となっていた(写真15、16)。

また、授業の終わりには今回の授業に携わった市職員や大学、地域住民に向けた合唱を披露し、感謝の気持ちを伝えていた(写真17)。



写真 14 ガリバーマップを確認する保護者



写真 15 景観発表会



写真 16 景観発表会



写真 17 お礼の合唱発表

2-4 黒石東小学校における景観学習の可能性と課題

本節においては黒石型景観学習における可能性と課題を明らかにするために調査を行う。まず、黒石東小学校 4 学年児童全員に毎回の授業終了後、授業に対する感想を取り、地域に対する関心度、授業教材に対する意識や技能、地域の特性に対する理解や知識などを図ること、次に児童の保護者から景観学習に対する意識を図ること、最後に企画関係者から景観学習の企画運営に関しての実態を確認することの以上 3 点から、黒石型景観学習の可能性を模索し、課題を明らかにしていく。

2-4-1 児童の感想からわかる黒石型景観学習の実態

景観学習に関する感想文の記載に対し「関心・意欲・態度…気付いたこと、関心を持ったこと」「思考・判断・表現…考えたこと、工夫したこと」「技能…できたこと、〇〇したこと」「知識・理解…分かったこと、理解したこと」の 4 観点に沿って、それらの記載が見られた文や単語を抽出した。それらの記載状況並びに解答例から本授業における実態を明らかにしていく。

・関心・意欲・態度

第 1 次では 20 の記載が確認された。フィールドワークを通して初めて知ったことや見たこと、気付いたことが多かったことが要因であると考察される。第 2 次では 16 の記載が確認され、主に教材に対する関心が高まっていたことが確認できる。それと同様に、第 3 次においても 13 の記載が確認され、ほとんどが教材に対する意識や関心を確認された。第 4 次では 4 の記載が確認され、来年度に対する意欲や他児童の発表や成果物から刺激を受け意欲が高まったことが分かった。このことから、関心・意欲・態度からわかることとして、授業を重ねるにあたり、児童が持つ感想には「まち」という本心的な部分に対する関心や意欲は弱く、教材に視点が移っていることが明らかとなった。

・思考・判断・表現

第 1 次・第 2 次では 3 記載、第 3 次・第 4 次では 2 記載が確認された。全体を通し子以降・判断・表現に対等する記載は少ないことから、工夫した点や考えた事に対する意識や関心、印象が薄いことが予想される。

・技能

第 1 次では 13 の記載が確認された。カメラを操作したことや上手に写真を撮ったこと、講師のアドバイスを基に景観をみつけることが出来たことなど、フィールドワークから自

身の技能に対する意識や認識が確認された。第2次では21の記載が確認された。主に、ガリバーマップやワークシート、模造紙の作成に対する技術や作業に意識が向けられており「できた！」という達成感から感想に多くの記入がされたと予想される。第3次でも同じく21の記載が確認され新聞作成に対する意識がほとんどである。そして、第4次では技能に関する記載は31記載であった。これらの技能に対する記述を見ると、作業に対する関心や意欲が見られる傾向にある反面、地域に対する関心が薄いことが分かる。

・知識・理解

第1次では20の記載が確認された。主に、フィールドワークを通し地域理解したことや講師の説明した「景観」についての解釈等に関連することが書かれていた。第2次では2の記載が確認され、児童同士における気付き合いから理解に発展したことや、講師である北原氏のアドバイスが児童の理解を掴めたことが分かった。第3次では7つの記載が確認され、ほとんどが個人個人に対して講師である北原氏のアドバイスが児童の意欲のみならず、理解、次の時間に対する目標を設定させたことが明らかとなっている。まだ第4次では記載は見られなかった。これらのことから、第一次から第4次にかけて知識・理解に対するウエイトが少なくなっていることが確認されている。調べ学習において、知識、理解が深められ、印象付けられる予想があったが、そうではないことが明らかとなった。

以上のことから、景観学習において児童が意識を向けた主な傾向は、教材や作業内容であることが推測される。いかに教材と本質であるまちに対して意識を向け関心を高めながら地域学習を実践していくのが課題として挙げられるのではないだろうか。

2-4-2 児童の景観学習前後における地域に対する関心の変化

景観学習以前と実施後では、黒石に対する関心に変化が見受けられた(図 10、11)。実施以前は「好き」「少し好き」を選択する児童が 38 名おり、「少し嫌い」「嫌い」を選択する児童が 2 名いた。しかし、景観学習後「少し嫌い」「嫌い」を選択する児童は無くなり、すべての児童が「好き」「少し好き」と回答している。

しかし、「好き」の割合が減ったことが確認され、「少し好き」選択した児童の理由として「嫌いな景観が無くなると好きになる」「ゴミが落ちているから」「もう少し便利になったら」等があげられた。これらの理由から景観学習を行ったことで黒石市の良い点、悪い点を自ら明らかにし、児童自身が黒石に対する理解を以前より深め、そして関心を持つきっかけになったことが推測される。

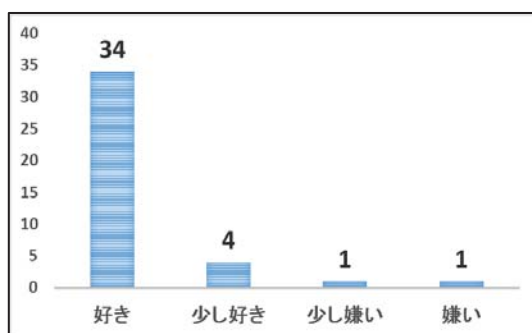


図 21 景観学習以前の黒石に対する意識

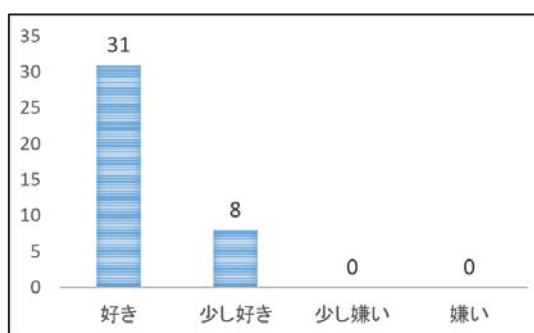


図 22 景観学習後の黒石に対する意識

また、景観に対する認識も景観学習以前は「いつも観て歩く」を選択している人が 4 名だったのに対し、景観学習後は 11 名、「時々観て歩く」は 30 名だったのに対し 28 名、「観ないで歩く」が 6 名だったのに対し 0 名と、景観に対する関心が高まったことが分かる(図 12、13)。

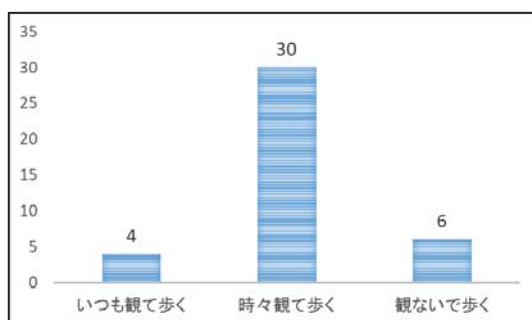


図 23 景観に関する意識

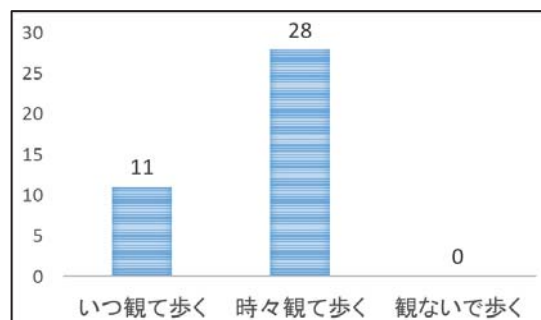


図 24 景観に対する意識

2-4-3 保護者アンケートからわかる黒石型景観学習の実態

調査を進めていくにあたり、保護者並びに地域住民との繋がりや連携、相互理解が重要になってくるという推測から、黒石在住 36 名の景観学習を受けた児童の保護者に対して景観学習に関する意識や児童と保護者のまちとの繋がりを把握し、分析することとした。

そこで黒石東小学校 4 学年の保護者へアンケートを用いて調査を実施し、意識の実態を調査する。調査の概要は並びに、調査項目は以下の通りである(表 31、32)。

表 42 保護者アンケートの調査概要

調査方法	授業対象者の保護者へのアンケート調査
調査対象	黒石東小学校第4学年保護者36名(2017年12月時点)
調査日時	2017年12月14日
回答人数(回答率)	36名

表 43 保護者アンケートにおける調査項目

調査項目	景観学習に対する想い 景観学習を通して家庭における児童との会話 日常における児童と保護者の地域との接点や繋がり 景観学習におけるサポートの範囲
------	--

(1)景観学習に対する想いについて

「面白いところに視点を置いていた」「この数か月間街並みについての学習ももちろんですが、自分の中の疑問を見つけたり、それを解決するために、人に聞いたりする勇気も身につけたのでは。と頼もしく感じていました。まとめる力もついたと思いました。」「見やすく綺麗に模造紙にまとめていてとても良かったです。もっと大きな声だともっと良かったです。」「自分の好きな所をよく調べて、まとめることが出来ていた。これから、こうなって欲しいとか、自分が生まれた黒石をもっと好きになってくれたらいいと思いました。」という感想が寄せられていた。

しかしその反面、発表会に対し「発表内容は素晴らしいものでしたが、プレゼンテーションに問題があったのではないかと思います。発表者の声が小さくて何も聞こえませんでしたし、話すスピードも速かったです。周囲もうるさかったです。せっかくのいい機会なので内容がしっかり伝えられるように工夫してあげたらよかったと思います。とても残念です。子ども達が作成したポスターがとても良く出来ていたの、それを会場内に貼っておき、作成者は質問に答えるという形でよかったのでは。」「声が小さかった」といった厳しい意見も見受けられた。

双方のコメントからもわかるよう、景観学習に対する批判的な意見ではなく「よりよくす

る」ための意見であることは確かであり、期待していることは明らかである。

(2)景観学習を通して家庭における児童との会話について

景観学習を行うことが家庭内においてどういった変化があったか調査したところ、20 の家庭で景観学習に関する会話の話題があったことが明らかとなった(図 14)。会話内容としては、児童が実際に景観学習に関する内容を説明したり、明日に控えた景観学習への期待を伝えたり、持ち物の用意のために話題が出たりしたという。会話の内容は以下のような項目が見られた(表 33)。そういった会話から、保護者の中にはまさに愛着を深めていたことを確認している方や、児童と一緒に地域に出向いてくれた方も見受けられた。

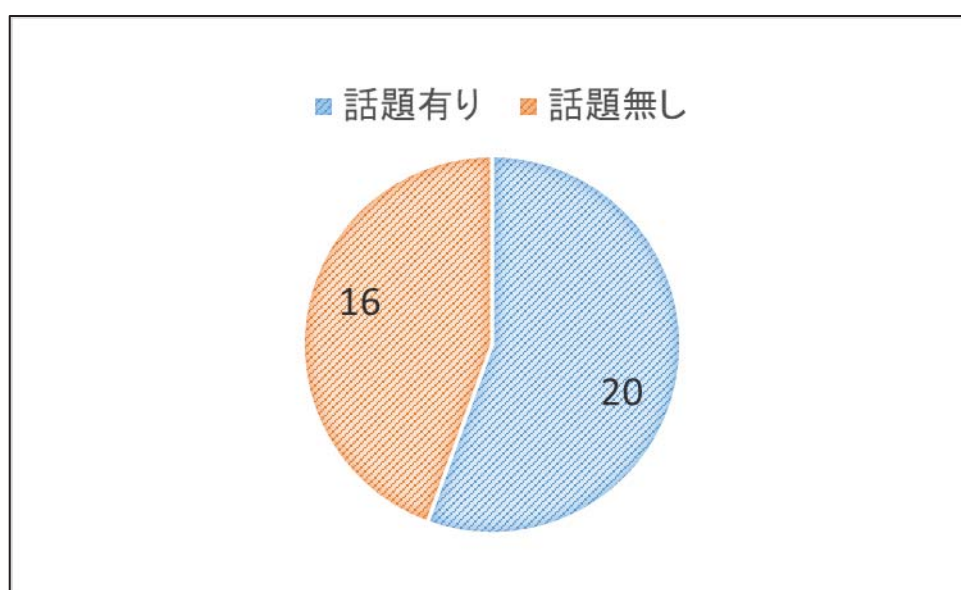


図 25 家庭における景観学習に話題

表 44 保護者の記入内容

家庭における景観学習の会話
景観学習の度に子どもからその内容を聞きました。実際に行ってみたりもしました。
休日にお友達とこみせに取材に行くと言って出かけたことがありました。自分の住んでいる町に愛着を深めてくれていました。
ガリバーマップの上を歩いたことについて、大きくて楽しかったと話してくれていました。
娘から写真を見せてもらって話をしたことはあります。(竹)
前日に「明日景観学習だ、楽しみだ」など話していました。どんなふうにとめるのか楽しみにしていました。
こみせ通りの良いところ、悪いところなどを親子で話し合っていた。
しっかり見ててという事。
こんな所見に行ったよ、先生からこんな事言われたよ、など、楽しそうに教えてくれました
話は聞いていましたが、内容は内緒でした。
嫌いな景観の具体的な内容。道路狭い。夜道暗い。植栽の見せ方。ゴミの捨て方
地域の色々なことに興味を持ったらしく、色んな施設や成り立ちについて聞いていました。
こみせ通りに行った事、こういう所があったよと伝えてくれて、また行きたいと言っていました。
自分の調べていることについて、どこで調べればいいのか話しました。

(3) 日常における児童と保護者の地域との接点や繋がりについて

子どもと地域に関わる機会について調査をしたところ、22 の家庭が地域に関わっていることが明らかとなった(図 15)。例として「黒石ねふた」「黒石よされ」「こみせまつり」「町内会の行事」「地域イベント」などがあげられた。しかし、参加を積極的にしている家庭もある反面、14 の家庭では参加傾向にないことが明らかとなった。

その背景は様々であり、「時間がつくれない」「仕事の都合で合わない」「遠い所にばかりに目を向けてしまう」「高学年になり一緒に参加する時間が取れなくなってきた」といった理由が目立った。そうした家庭環境からもわかるように、大きなイベントでなくては家庭や地域において地域と関わるきっかけがなかなか作ることが出来ず、日常生活における地域の姿と一緒に目を向けるきっかけが無いことが明らかとなった。

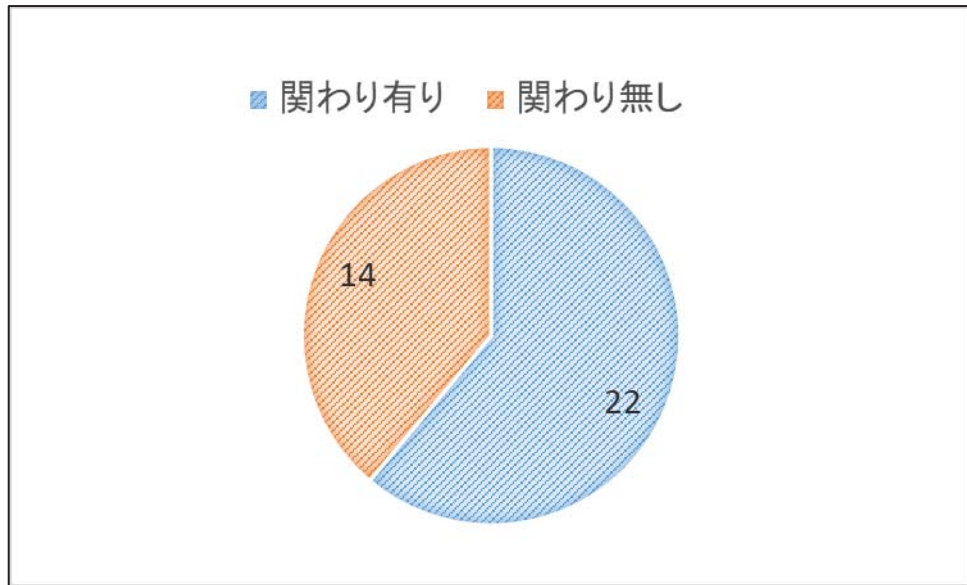


図 26 地域に対する保護者と児童の関わり

(4)景観学習におけるサポートの範囲について

景観学習における授業への参加やのサポートの実態について調査したところ、専門家による講義への参加は 5 名、まち歩きは 10 名、ワークショップ形式の授業補助は 2 名、作成物の補助は 7 名、手伝い不可能が 20 名となった。

参加が可能な家庭の理由として、まち歩きを選択した方は「大人の目線と違う目線で面白いと思ったから」「一緒に黒石について調べたいから」「仕事や家庭の都合にもよるが、時間が合えば手伝えると思います」「子ども達と一緒に掲示したり、手伝ったりするくらいならばできるかなと思うので」といった回答が見受けられた。

しかし、ほとんどの家庭から「時間的に難しい」「時間がつくれない」「仕事が忙しい為、手伝うことは難しい」「月～土まで仕事だから厳しい」といった仕事や家事の忙しさから、学校教育に対する支援や協力が時間的や物理的に難しいことが明らかとなった。

以上のことから、保護者の多くが景観学習等のまち学習に好意的な関心や意欲、期待を持っている反面、家庭内や地域内ではまち学習に参加することが難しく、だからこそ地域学習を学校教育に期待する傾向があると予想される。

そうした実態から、やはり地域のみ、家庭のみでのまち学習や地域学習には限界があることが明らかであり、学校現場を通し皆で協力し合う体制が求められると考えられる。

2-4-4 企画運営者・団体における黒石型景観学習の実態

主たる企画者に景観学習に対する意識をヒアリングした(表 34)。そこから、課題、可能性、並びに景観学習における愛着形成の実態を明らかとする(表 35)。

表 45 ヒアリング対象者一覧

ヒアリング対象者	日時
黒石市建設部都市建築課 技師 五十嵐 瑛子氏	2017年12月14日 ヒアリング実施
黒石市建設部都市建築課 主事 佐山陽紀 氏	2017年12月14日 ヒアリング実施
黒石市企画財政部広報情報システム課 課長 太田淳也 氏	2017年9月2 日 ヒアリング実施
黒石東小学校 神 氏	2017年12月14日 ヒアリング実施
黒石市中町こみせ通り 高橋幸江 氏 他	2017年12月14日 ヒアリング実施

(1)景観学習の課題

景観学習実施において 6 者が述べた共通の課題として 2 点あげられる。1 点目は「教材」、2 点目は「年間計画・目標の共有」である。

市役所の五十嵐氏は「教材があることで効率化がはかれると同時に、次の学年担任への引継ぎが容易になる。しかし、マニュアル化、マンネリ化する危険もある」「年間計画や目標があるとどこに向かっていくべきか分かるので安心。次からはそうしたい。毎回の打ち合わせや調整は市役所にとって負担が大きい」と述べた。それに加え佐山氏は「北原先生もいつも話しているが、まちのストーリーを生かす教材でなければならないから、副読本などを作った時に機械的な授業になり、児童の自由な発想が止まってしまうのが一番怖い。しかし教材があると楽ですね。」と述べている。小学校の神氏も「市役所でこれ！つというような授業も目的に伴った教材を作っておいてもらえると学校での引継ぎも簡単だし、授業の構成がとても楽になる。小学校はたくさんの授業があることから景観学習ばかりに時間をとることが出来ないから。」といった不満を述べた。さらに、地域の鳴海氏は「平等が世の中になっているのは一番成長を妨げていると思っている。景観学習はそうした平等を意識するのではなく、個性・個人の想いや能力に合わせてとことん調べたり、行動を起こしたりすべきだと思う」と述べ、高橋氏は「目的を統一し、共有した上で教材を作成していくこと」と述べた。

以上のことから、景観学習におけるある程度の到達目標や年間計画を設定すると共に、担当学級の学級担任と 4 月の段階、到達目標やそれに伴う教材、進行等について確認する必要がある。

他にも共通課題ではないが「主体者の移行」や「景観学習の実施校の停滞」「教師の意欲」「人材の確保」があげられた。まず「主体者の移行」では、主体者である市役所から課題としてあげられた。佐山氏は「黒石市では景観団体が発足されていないこともあり、全て市役所が景観啓発活動を担っているため、負担が増加している。市が間に入ることで地域住民の主体性は確実に減退している。コミュニティを取り持つのは人であり、市がすることでは簡単に崩れてしまう。」と述べた。

また「景観学習の実施校の停滞」としては五十嵐氏が「周知期間や周知方法も問題があると思うが、黒石東小学校のように総合的な学習の時間に盛り込んでいることで認知されているものの、他の学校では学校長の認識や理解が無い限り実施を実現することは難しい。募集が増えないことから、今年度は募集をせず、毎年実施する黒石東小学校のみに取り掛かった」と述べた。

さらに「教師の意欲」に関しては、五十嵐氏は「教師の積極性が無い時は教材準備が難しく、準備が難航する」と述べ、さらに佐山氏は五十嵐と同様の想いを持った上で「景観団体が発足されていないことから、市が景観に関する全ての取り組みを担っているため負担がすごい。学校や地域団体が構成された組織の存在が必要になってくると思う。市が地域コミュニティの維持をしながら教育にも中心として携わるのは難しい。」と述べた。

次に、神氏からの課題としては「人材の確保」が求められた。「グループ活動やフィールドを生かした体験学習を実施すると、学校の教員だけではどうしても開催が困難だったりする。今年度は TT であり、弘前大学や市の方の協力があつたからよかったものの、人材の確保できなければ実施が不可能になる。地域や保護者も忙しいからお願いするのは難しいので、今後どうしていか考えなければならない。」と述べた。

(2)景観学習実施後における可能性

景観学習実施における可能性として共通にあげられているのは「かくじ広場で遊ぶ児童の増加」であり、それはすべての対象者が報告している。

また他にも、地域の鳴海氏によると「景観学習を重ねるたびに、地域住民自身の受け入れ体制並びに理解の浸透がみられた。」「初年度に比べ学校現場の理解や意識の向上は確実に見える。」と述べた。

また太田氏は「よく親子でこみせ通りを調べ学習したりするのを見かける」「家庭から広報に載った景観学習の写真が欲しいと問い合わせがあつたりする。」「広報に景観学習を掲載することによって学校側が興味を持つようになった。喜んでもらえている」と述べた。

また神氏は「児童の視点が確実に広がった。北原先生からのアドバイスや解説が児童の中に響くみたいで、意欲的に地域を観たり調べたり、外に出るようになった。だからゲストテ

ィチャーの存在は大きいと思う」と述べた。

(3)展望

共通の展望としては「景観学習の普及・拡大」「景観学習の継続化」があげられた。

五十嵐氏、佐山氏は「統廃合に伴い景観学習の普及に力を入れ、小学校のみならず中学校、高校での実施をすることで、黒石に愛着を育むと同時に、自分らしい黒石とのかかわり方を見つけてほしい」と述べた。

また神氏、高橋氏は「景観学習は継続することに意味がある。こんないい授業は続けなくては。」「子どもは地域の宝。今は昔の地域と違うからこそ、少ない地域住民で力を合わせて大事に大事に育てていきながら、次の世代を担う児童が『黒石を守るぞ』と言ってもらえるように力を入れていかないと。」と述べた。

そうした普及や継続活動を展望として述べる4者に対し、鳴海氏は「平等ではなく、個性を生かす景観学習であることを望む。時には競争したり、自分の出来なさを知ったり、友達のすごいところを真似て自分なりに頑張ってみたり、個性を生かす自分らしい活動であってほしいし、自分らしく地域と関わったり、関心を持ったりするきっかけにできるようにしてほしい。」と述べた。

(4)まちに対する愛着の可能性

愛着の可能性に対して、すべての企画関係者が「愛着をもつきっかけになっている」「愛着が育まれている」と述べた。具体的には、五十嵐氏、佐山氏、高橋氏、鳴海氏、太田氏は「実際にかくじ広場やまちに出てくる子ども達が景観学習後は多い。地域に出るきっかけになっている。」とのべた。さらに佐山氏は「まちに自分の意思で出てきて、きっと「遊ぶ所ないな」って思う子どもがほとんどだと思うけど、そういう環境の中でも自分なりに地域の中から愛着を持った遊び場を子供って見つけるんだと思う。それって地域への愛着を育んでることに繋がってると思うんだよね。」と述べた。また、神氏は「学校では景観学習のように地域の良さや楽しさを教えることが出来ない。社会科があるけど、基本的には東西南北、どこに何があるのか、どんなところか、グラフの読み方、そういった学業的な内容がどうしてもテストや学習指導要領を意識するとそうになってしまう。だから絶対子ども達が愛着をもつきっかけになっているのは景観学習だったと思う。」と述べた。さらに太田市は実際に児童から「松の湯のボランティア清掃員になりたい」と話されたこともあり、児童は景観学習で学んだ場所に対し、関心や興味を持ち、愛着を育みつつあると考えられる。

表 46 黒石型景観学習の可能性と課題

	市役所			地域		学校
	五十嵐氏	佐山氏	太田氏	鳴海氏	高橋氏	神氏
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・景観学習における副読本の必要性 ・景観学習担当者の想いにおける学習内容の構成の違い ・担当経験値における進行の困難度 ・学習対象者における目的の設定と到達点への不安、実績の検証 ・景観学習実施校の停滞 ・学校側の積極性 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所内における引継ぎの体制 ・主体者の変更(市役所から第三者へ) ・教師の自主性 ・まちのストーリー性を生かす教材 ・授業全体の計画と到達点の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の景観に対する意識や認識 ・学校現場における景観学習への理解 ・学習教材の充実 ・学びのポートフォリオ化 ・学年を超えた継続的な学習 ・教師に対する景観学習における指導計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者全体での目的の共有 ・テーマの設定 ・児童の自主性 	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携 ・目的の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所における景観学習の目的の統一 ・初めての教員でも景観学習を理解できるプログラム概要教材の提供 ・景観学習における教材の作成 ・まちに対する関心ではなく、作業に対する関心の高さ。 ・人材の確保の必要性。
可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・かくじ広場で遊ぶ児童の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・かくじ広場で遊ぶ児童の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・松の湯や中町で遊ぶ児童の増加 ・親子でこみせ通りを散策 ・家庭から広報に載った写真への問い合わせ。 ・広報に掲載によって学校側が興味を持つようになったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・かくじ広場で遊ぶ児童の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民自身の理解の浸透 ・地域住民にとっても児童が地域に訪れることが地域や子どもに関心を持つことに繋がっている。 ・かくじ広場で遊ぶ児童の増加 ・学校の意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティチャーの存在 ・子どもの視点の変化 ・児童の探求心の育成
展望	<ul style="list-style-type: none"> ・統廃合を契機とした景観学習の普及 ・景観学習からまちづくり学習へ ・児童の声を実現化 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生のみならず中学生、高校生での景観学習の実施 ・統廃合に伴った景観学習の普及 ・他組織との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自由な着眼点の具体化し考える機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・平等を基盤した授業ではなく個性を生かした授業内容への変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続することの価値 ・「子供は宝」だからこそ、黒石に文化財にふれさせ「黒石を守っていこう」という意識に繋ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の継続化
まちに対する愛着の形成の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着をもつための、興味・関心等の心を育むきっかけ ・実際にかくじ広場で遊ぶ児童の増加 ・知る、興味を持つ、遊びに行くという学びが日常生活に繋がりが愛着へ繋がっている ・地域のコミュニティという家と違う楽しさがあることを、地域でしか知れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確実に愛着がついている ・確実に景観学習教室後にかくじ広場で遊んでいる子ども達の増加 ・子どもをまちに引き張り出すきっかけの大きな部分が景観学習 ・遊び場が無いで終わるのではなく、景観学習をきっかけとして遊び場としていい場所を自ら探すきっかけ、町に出るきっかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかで遊ぶ児童の増加 ・得米、松の湯の清掃などのボランティアをしてみたいと言った子どもがいたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちを観るきっかけ ・まちを好きになるきっかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童愛着の形成になっている ・まちに出てくる児童の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・確実に愛着を持ち始めている ・景観学習のようなきっかけが無いと、学校現場において子どもがまちを観ることはない。

2-5 モデル事業の取り組み - くろいし探景キッズの実践 -

2-5-1 くろいし探景キッズ実施目的

黒石市における景観学習の目的は前文でも述べたように、景観計画で定められた「共有、参加、協働により、みんなで積み重ねる景観づくり」という基本目標から、「市民が育む景観づくり」の基本方針の基実施されている。その中でも景観づくりを学ぶという点に特化しており、「地域の誇りと愛着が持てるまちをつくり、育て、次の世代に継承するためには子どもの頃からの地域や町の景観に対する関心を持ち、意識を高めるとともに、景観学習等の実践の継続と発展すること」²¹とされている。

しかし9年実施されてきた景観学習の効果並びに一度景観学習を受けた児童の景観に対する認知度も図られていない。そうした疑問や不安から、今年度はモデル事業の1つとして、景観学習を経験した児童小学6年生有志を対象に「くろいし探景キッズ」の開催へと至った。

2-5-2 黒石型景観学習 - くろいし観景キッズ - 実施体制

本事業における事業は全て黒石市役所建設部都市建築課が担当している。そのため、企画運営、立案、周知活動も市が中心に実施し、参加者の授業補助は、景観学習の際にも協働している弘前大学教育学部住居学研究室の大学生、大学院生に補助員を依頼した。

今回周知活動に用いられた概要パンフレット、教材は以下写真19、20である。



写真 18 くろいし探景観キッズ概要



写真 19 黒石市 景観冊子

2-5-3 参加者の児童観

(事前調査より)

黒石在住名の児童が黒石市に対してどういった想いを抱いているか、どういった暮らしをしているのか把握し、分析するために調査を実施した。

そこで対象参加者へワークシートを用いて調査を実施し、意識の実態を調査する。調査の概要は(表 36)の通りである。

表 47 くろいし探景キッズ事前調査概要

調査方法	授業対象者へのワークシート調査
調査対象	くろいし探景キッズ (2017年8月時点)
調査日時	2017年8月6日
回答人数(回答率)	8名(100%)

調査項目としては、2017年8月時点における対象学年の黒石市に対する想いや暮らし方を把握するために(表 37)のように設定した。

表 48 調査項目

調査項目	黒石市に対する想い 日常の遊び場 まち並みに対する意識 景観に対する認識
------	---

(1)黒石に対する想い

児童に実施した事前アンケートからわかるように、児童の過半数が黒石に対して「好き」という感情を抱いている(図 16)。その理由としては「昔のものがたくさんあるし、様々なイベントがあるので楽しいから。」「こみせで毎年こみせ祭りやスタンプラリー等を行っていて、とても楽しいから。」「家の近くにスーパーマーケット、ツルハなどがあり住みやすいから。」等が挙げられた。「少し好き」の理由としては「遊ぶ所が少ないから、好きではない。」「危険な所があまりないから。」等があげられた。

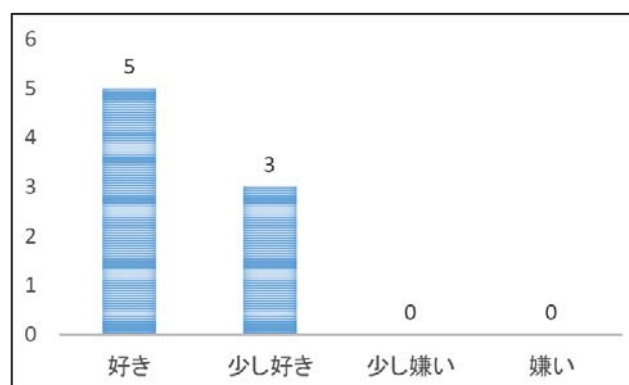


図 27 くろいし探景キッズ参加者の黒石に対する想い

(2)休日の遊び場

児童が普段遊ぶ場所を調査したところ、「自分の家」が最も多く、続いて「友達の家」が選択された(図 17)。続いて「学校」「公園・広場」が選択されている。公園や広場では、以前景観学習で見学した「かくじ広場」と回答している児童が見受けられた。

この調査の反応からわかることとして、児童の多くが外出する機会が無いと推測されるが、人によっては、広場や公園などまちの中で遊ぶ傾向になっていることが分かる。

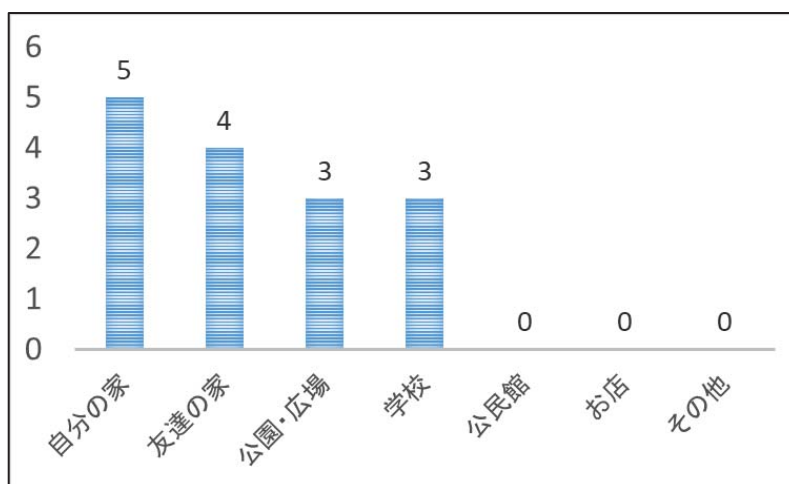


図 28 くろいし探景キッズ参加者の遊ぶ所

(3)まち並みに対する関心

児童のまち並みに対する意識を調査したところ、「いつも見て歩く」は0名、「時々見て歩く」は全体の過半数を占めたが、「観ないで歩く」を選択する児童も少数いた(図 18)。こうした結果から参加学年におけるまち並みに対する意識はやや低い傾向であることが分かる。景観学習を通し再度まちに出るきっかけ、まちを見るきっかけを作ることが望まれる。

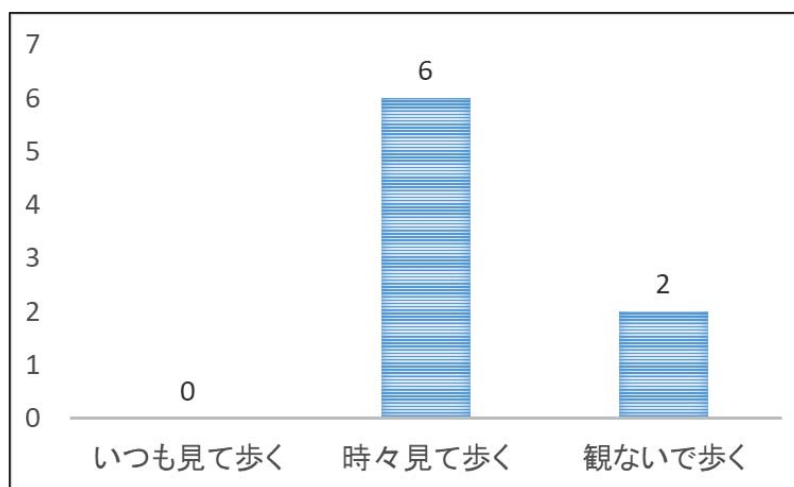


図 29 くろいし探景キッズ参加者の景観に対する意識

(4)景観に対する認識

対象者全員が 2 年前の景観学習に参加していたが、以前学習した「景観とはどういったものか」についてきいたところ全員が「わからな」を選択した。このことから、景観学習での学びが日常生活で生かされていないことがいえる(図 19)。

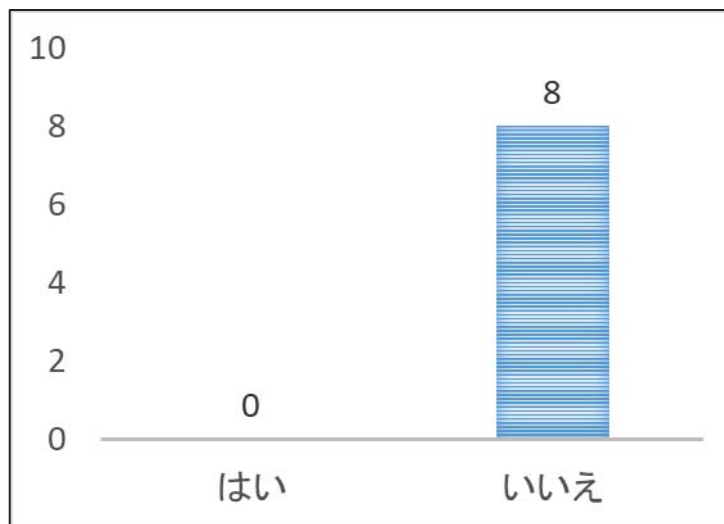


図 30 景観に対する認識

2-5-4 くろいし探景キッズの流れ

まず、参加者に対して「2年前の景観学習でどのような学習をしたか」「景観とはどういうものか」について共有し、カメラを一人一台持たせ、「まち歩き」を実施した。その後、撮影した写真を基に景観シートの作成並びに景観マップの作成に取り掛かった。その後自分が見つけた景観について全体発表を行った(表 38)。

表 49 くろいし探景キッズ 取り組み授業計画

主な児童の活動と反応	教師の支援
【市職員】 ○2年前に習った景観に関する講義の振り返りを行う。	【市職員】 ○2年前の景観学習について想起させ、景観に対する感覚や価値、意味を復習させた。
【市職員】 ○カメラを一人一台カメラをもらう。 【補助員】 ○カメラと観察板を持って班ごとに並び、担当大学生と自己紹介をする。 ○実際にまち歩きを行う。 ・はじめて観るところがあってこみせ通りがもっと好きになったのでもっと好きになりたいです。 ・じっくり見るとなんだか「この町っていいなあ」と思いました。 ・普段は車などで早く通りすぎる道でも注意してよく観れば色々な面白い景観がたくさんあるということが分かりました。	【市職員】 ○一人一台カメラを持たせ、各グループに大学生と市職員を1人ずつ配置させ、児童の安全を守ると同時に、児童のより深い学びや発見促し、まちに対する関心を持たせる。 【補助員】 ○互いに自己紹介を行った。 ○うまくカメラの操作ができない児童やどのような景観を撮影していいかわからない児童に対して、どんな場所を取りたいのか話を聞き支援する。 ○グループでの移動となっているが、全員が観たい所や行きたい所に行けるよう、喧嘩等が起きた時に仲介役として入り授業が円滑に進むよう支援を行った。
【市職員・補助員】 ○班に分かれて、どの写真を撮ったのか確認した。 ○自分で選んだ好きな景観、嫌いな景観、気になる景観を選んだ理由を考えてワークシートに記入した。	【市職員・補助員】 ○「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」を一枚選ばせ、ワークシートに選んだ写真を貼り、記入させることで、自分自身が選んだ理由を明確にさせる。
【市職員・補助員】 ○グループごとに、友達の選んだ写真を「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」を分けた模造紙を分け、景観マップを作成した。 ○完成したら、それぞれの選んだ景観をグループの仲間に紹介しよう。	【市職員・補助員】 ○グループごとに、友達の選んだ写真を「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」にグルーピングさせ、模造紙と景観マップを完成させる。 ○完成したら、それぞれの選んだ景観をグループの仲間に紹介しよう。
【市職員・補助員】 ○グループごとに、友達の選んだ写真を「好きな景観」「嫌いな景観」「気になる景観」にグルーピングし、地図と模造紙を完成させる。 ○完成したら、それぞれの選んだ景観をグループの仲間に紹介しよう。	【市職員・補助員】 ○一人ひとり選んだ景観の写真と理由を書いた付箋を添えて、グルーピングしてまとめさせた。同じ場所、似たような写真なのに考えていることや思っていることが違う事に気付かせた。 ○グループ内で発表を行い互いの発見を見つめ合う時間にした。
【市職員・補助員】 ○全体の前で今日の学びを発表しよう。	【市職員・補助員】 ○発表をさせたら、今日のまとめを行い、授業の整理をする。 ○授業終了後はワークシートを記入し、写真撮影をわせる。

今回の事業は市内 5・6 年を対象とした企画であり、夏休み期間を利用して朝から夕方にかけての単発授業として実施した。周知期間が少ないこともあり、参加者は毎年景観学習に取り組んでいる黒石東小学校から 6 年生 8 名だった。朝 8 時に黒石市内に集まり、車の送迎で山形公民館に集合した。

まず、2 年前に取り組んだ景観学習内容を想起させ、「良い景観」「気になる景観」「嫌いな景観」について市職員から説明を 5 分程度で受け、実際に一人カメラ一台持ち、3 班に分かれて「まち歩き」を行った(写真 20)。各班には補助員として参加している弘前大学教育学部住居学研究室の大学生・大学院生が 1 名から 2 名、市職員が付き添った。そして温湯地区にある「好きな景観」「気になる景観」「嫌いな景観」を 2 時間探した。

次に、自身が撮影した写真を用いて「好きな景観」「気になる景観」「嫌いな景観」を景観シートにまとめた。景観シートは「好き」「気になる」「嫌い」一枚ずつ作成し、続いて景観シートをもとに景観マップ作成した(写真 21、22)。作成時では、まず班ごとに景観ケートの内容を確認し合い、次に景観マップを用いて発見場所を確認し合った。その後、見つけた景観に対してどういった取り組みを行うことが出来るのか考えた。そして最後は発表会を行った(写真 23)。

帰りは、帰りの会を全体で行い、参加賞を一人一人に渡ししながら感想を聞いた。一日で全ての学習を実施するというハードな授業内容にも関わらず参加者は最後まで楽しく活動していた。また、この取り組みは東奥日報取り扱われた(写真 24)。



写真 20 まち歩き



写真 21 景観シートの共有



写真 22 景観マップの作成



写真 23 発表会

気になる場所を見つけては盛んにシャッターを切る児童たち



古里の街 歩いて探検

市が温湯地区で景観学習イベント

東小児童歴史など実感

黒石

古里の景観に親しみ、守る心を育んでもらおうと黒石市は6日、同市温湯地区で街歩き「くろいし探検キッズ」を行った。黒石東小6年生8人が温湯街の古い街並みや建物を巡って写真に収め、暮らしとの関わりなどを考えた。

(本間善幸)

街歩きに先駆け、同市の北山博紀都市建築課長補佐が「ふだんとは違う場所を歩くことで一つでも、(何かを)感じ、発見してほしい」と呼び掛けた。

児童はデジタルカメラを手に3班に分かれて山形公民館を出発。市職員のほか弘前大学教育学部・北原啓司教授の住居学研究室で学ぶ学生が引率に加わった。「目に入るもの、すべて

を景観と想ってください」木や道端の標識、ツバメのとアドバイスを受けた児童。奥のほか、遠く山並み、は寺院や温泉客舎といった古びた建物だけでなく、古

り、シャッター約1時間半た佐藤哉太さん(などの湯0年以上の経験が印象に残った。探検キッズ取り組み。黒石、4年生児

【児童が見つけた景観 - 好きな景観 - 】

参加者の好きな景観は以下のような特徴が見られた(図 20)。大項目別に見てみると「自然」は3名、「物」が2名、「建物」が2名、「景色」は1名であった。ここでの自然というカテゴリーは、人工物や人の手が加わっていない物とする。

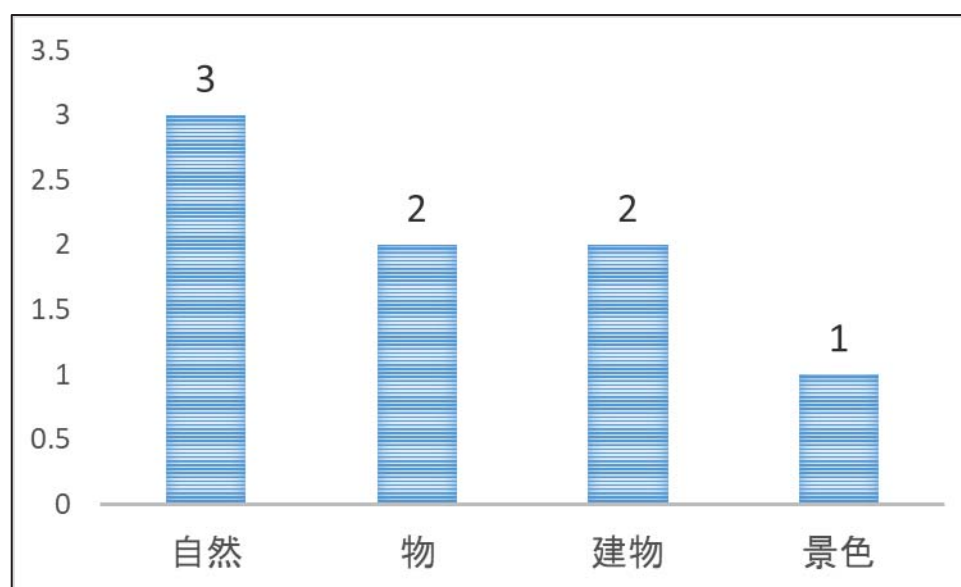


図 31 参加者が発見した「好きな景観」

大項目別にみた児童の好きな景観は表 39 に示した通りである(表 39)。

表 50 参加者が発見した「好きな景観」一覧

景観の種類	タイトル	場所	理由	景観を守るためにできること
好きな景観	いい天気！	橋からの景色	景色がとてもきれいだし、天気もいいのでこれにしました。	景色を守るためにはごみを捨てたりしないことだと思います。そうすることで綺麗な景色をいことが出来ると思うので、これが出来ることだと思います。また、ポスターや看板で注意する看板を作ることでもできると思います。
好きな景観	歴史ある旅館	飯塚旅館	歴史を感じて良いと思ったから。	これからも大切に旅館を使っていくこと。
好きな景観	山の奥の花	橋からの景色の近く	山の奥でも花が咲いているから	好きな景観がもっと知ってもらうためには、周りの風景をよく見て、小さな花などを見つけたらいいと思います。目立つように看板をつけてもいいと思いました。宣伝のポスターなどもいいと思いました。
好きな景観	石割堀	薬師寺	変な形をしている木だけど、綺麗にも見えるきだからです。	今まで通り守る。 注意看板を立てる。(木を切ったらダメという看板)
好きな景観	綺麗な川	紫明橋	太陽の光が川に明るく照らされていて、綺麗に見えたからです。	今まで通り、川や木などを綺麗にしていけばいい。 看板で注意を呼び掛ける。 (空き缶を捨てないように、紙くずを捨てないように等)
好きな景観	木に囲まれている橋	薬師寺	緑に囲まれていて、とても綺麗だからです。	
好きな景観	なんでここにツバメの巣	バス停の近くの家	ツバメとツバメが戯れている所です。	
好きな景観	歴史を感じる看板	公民館を出て、左に曲がった所	温泉がたくさんあるからこそ、この看板が作られたと思ったから。	・温泉は温泉がたくさんあり、黒石景観資産に選ばれている所がたくさんあるので黒石だけではなく、他の市区町村にも温泉の温泉をPRすればいいと思います。 ・ポスターやCMなどを作って広めればいいと思います。 ・温泉の歴史を残すために、温泉の町をもっと美しい街にすればいいと思います。そのためには道に落ちているごみを拾い、ポイ捨てを防げばいいと思います。 ・温泉にはない温泉の種類を作って入ると楽しくなる温泉を企画すればいいと思います。 ・スタンブラリーをして温泉に来る人を増やせばいいと思います。

【児童が見つけた気になる景観】

児童の気になる景観は以下のような特徴が見られた(図 21)。大項目別に見てみると「物」は 3 名、「建物」が 2 名、「自然」が 2 名、「不明」は 1 名であった。ここでの自然というカテゴリーは、人工物や人の手が加わってない物とする。

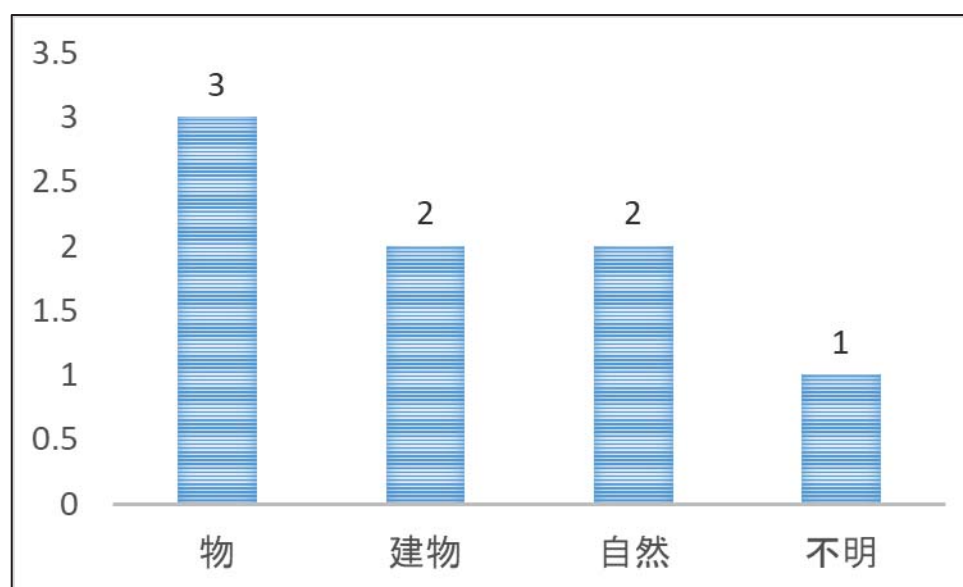


図 32 参加者が発見した「気になる景観」

大項目別にみた児童の気になる景観は表 40 に示した通りである(表 40)。

表 51 参加者が発見した「気になる景観」一覧

景観の種類	タイトル	場所	理由	景観を守るためにできること
物	お釈迦様	延光寺	真ん中の金色のやつが気になります。	
	看板	お寺	なぜこれを作ったのか。	
	この札なに。	薬師寺		
建物	古！	飯塚旅館	何年間も続いているのか？	
	家の隣に寺！	薬師寺	なぜ家の左となりに寺があるのか気になったから。	
自然	緑が無い山	公民館側から見	なんでそこだけ気が植えられていないのか気になった	
	中が空洞になって いる木	薬師寺	なぜ空洞になっているのか気になったから。	
不明	意味不明なもの	薬師寺	なんのためにあるのかわからなかったからです	<ul style="list-style-type: none"> ・意味を調べて納得する。 ・転ぶ人がいないように段差がある所を工夫する。 ・もしも調べて凄い物だったらPRをしたり、その場所に何かを建てる。例えば看板とか。 ・気になる場所の隣の意志に変な草が生えていたので調べてみる。 ・「たこみたいな草」としてPRし、気になる景観としてポスターを作って観光客をドッと集める。 ・観光マップを作り、載せる。 ・スタンプラリーを作ったり、そこでお祭りを開く。 ・観光しながら温泉に入れる施設を作る。 ・気になる景観の形をした旅館を建てる。

【児童が見つけた嫌いな景観】

児童の気になる景観は以下のような特徴が見られた(図 22)。大項目別に見てみると「物」は 6 名、「建物」が 2 名であった。

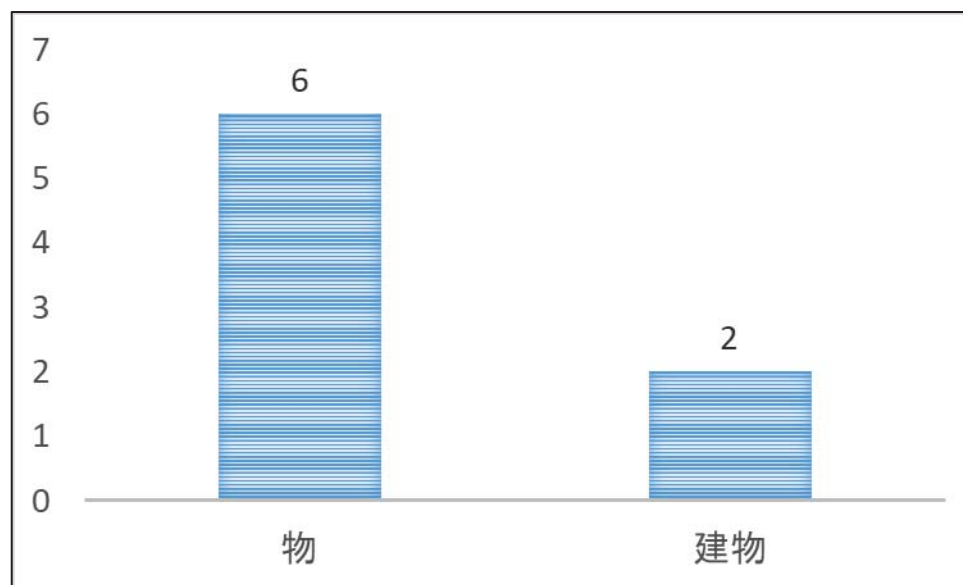


図 33 参加者が見つけた「嫌いな景観」

大項目別にみた児童の嫌いな景観は表 41 示した通りである(表 41)。

表 52 参加者が見つけた「嫌いな景観」一覧

景観の種類	タイトル	場所	理由	景観を守るためにできること
物	バスケットみたいなハチの巣	飯塚旅館	ハチの巣が大きいので、ハチに刺されやすいから嫌いです。	ハチの巣を処分するには、専門の人に電話してハチの巣をとってもらう。そうすると、ハチに刺される心配もないです。これが出来ることです。
	壊れている看板	温湯温泉の駐車場	壊れているから直した方がいいと思ったから。	看板を直すこと。
	穴	浅瀬石川の上の橋	穴があって中に何かが入っていました。なぜ直さないのか。	
	誰も直さない駐車場の看板	温湯温泉の駐車場	壊れているのに誰も直さないから、このままでいいのかな？と思った。	
建物	危ないところ	橋	割れていて、危ないから。	
	へーんなの	容舎	風呂がついてないところ。	
自然	橋の下にある川とお墓	薬師寺	橋の下に川とお墓があって嫌な感じがするからです。	
不明	なんでここに	薬師寺	せっかくの所にハチの巣があるのか。	・ハチの巣を駆除する人を呼べばいい。 ・注意看板を建てる。 ・あまり近づかせないようにロープで囲む。 ・立ち入り禁止にする。 ・黒い服を注意させる看板を建てる。

2-5-5 参加者の景観学習前後における地域に対する関心の変化

景観学習以前と実施後では、黒石に対する関心に変化が見受けられた(図 23、24)。実施以前は「好き」を選択する児童が 5 名、「少し好き」を選択する児童が 3 名であったが、授業終了後のアンケートでは「好き」を選択する児童が 1 名増えた。また、少し好きを選択していた児童は以前、理由としては「遊ぶ所が少ないから、好きではない。」「危険な所が少ないから。」と理由を述べていたが、今回「少し好き」を選択した理由として「黒石の町にも意外と景色が綺麗な所があったから。」「今までは田舎で嫌だったけど、このイベントで黒石の良さを改めてわかったから。」と確実な意識の変化を見せた(表 42)。

また、「好き」を選択した児童の内容も「これまで気づかなかった黒石の良いところに気付けたから。」「黒石にこんな素敵な所があるんだなぁと気付けてとても楽しい。」「景観を通して黒石の魅力を改めて感じる事が出来たから。」といった改めて景観学習を通して景観のみならず黒石を好きになるといった効果を見せた。

確かに、単発学習ではあるものの、着実に地域への関心を再熱させたといえる。

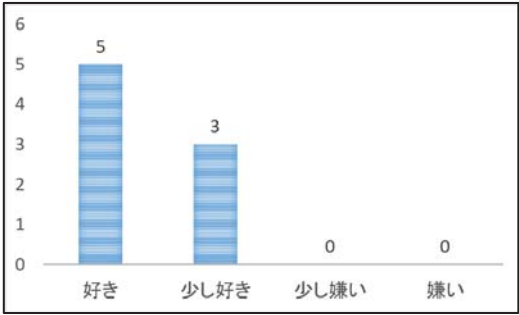


図 34 景観学習以前の参加者の黒石に対する思い

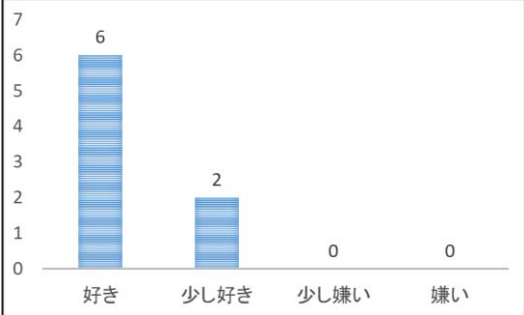


図 35 景観学習後の参加者の黒石に対する思い

表 53 景観学習後のカテゴリ選択理由

カテゴリー	理由
好き	これまで気づかなかった黒石の良いところに気付けたから。
	黒石市をよく見てみると、黒石の良い所を見つけられたから。
	黒石市には色々な所に良いところがあるとわかったのでとても楽しかったです。
	黒石にこんな素敵な所があるんだなぁと気付けてとても楽しいです。
	いろいろな自然に囲まれていて豊かだったから。
少し好き	景観を通して黒石の魅力を改めて感じる事が出来たから
	今までは田舎で嫌だったけど、このイベントで黒石の良さを改めてわかったからです。
	黒石の町にも意外と景色が綺麗な所があったからです。

また、景観に対する認識も景観学習以前は「いつも観て歩く」を選択している人が0名、「時々観て歩く」が6名、「観ないで歩く」が2名であったのに対し、景観学習後は「いつも観て歩く」を選択した参加者が1名、「時々観て歩く」は7名、「観ないで歩く」は0名となった。これらのことから確実に意識や関心の向上がみられた(図 25、26)。

また「いつも観て歩く」「時々観て歩く」と回答した児童に対して、どういった点を意識して観るようになったか回答を求めたところあらゆる所に視点を向けて生活していることが明らかとなった(表 43)。

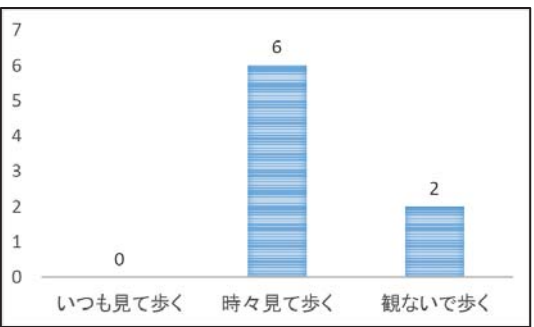


図 36 景観学習以前参加者の景観に対する意識

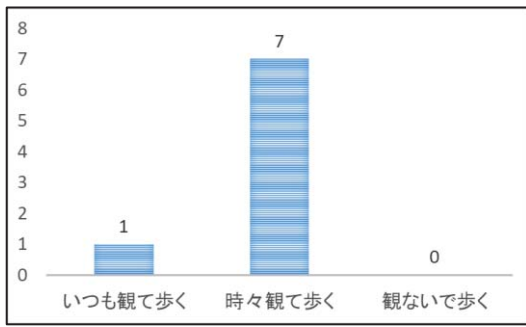


図 26 景観学習後の参加者の景観に対する

表 54 参加者が観る景観の内容

カテゴリー	どんな場所を見て歩くか。
いつも観て歩く	黒石の建物などを観ています
時々観て歩く	黒石の木や生き物を観ています
	建物や植物とかを観ている。
	木とか花とかを観ている。
	黒石の建物などを観ています。
	昔の建物がたくさんあったりしている時「すごいな」などたくさん思ったりします。
	昔の建物がたくさんなので、時々気になったりするので観ています。
	こみせ通りを観ている。
	あまり行かない所にはどういう景観があるのか気になるから

2-5-6 企画運営者・団体における黒石型景観学習の実態

主たる企画者のくろいし探景キッズに対する意識をヒヤリングした。そこから、課題、可能性、並びにくろいし探景キッズにおける愛着形成の実態を明らかとする(表 44)。

(1)くろいし探景キッズの課題

五十嵐氏は課題として 6 点あげた。まず 1 点目の「周知活動」では「今回は市内全小学校を対象に、夏休み中の実施で募集をかけた。募集する際の PR の段階では学校側において比較的好評だったが、最終的な応募は 1 校のみだった。また、親子での参加も期待したが保護者の参加はなかった。今年度の事例を参考に、時期や方法等を再検討し、景観学習教室を経験していない。子どもたちや保護者にも参加しやすい事業としていきたい。」と述べた。

2 点目の「実施地区の歴史・現況の把握のさせ方」としては、当日は調べ学習が無いことから「感じた事」「観たこと」を重視した内容となっていたため知識・理解の点では地域の歴史や現状の把握は抜けていた。そのため、児童の提案内容は非現実的な内容や薄い内容になってしまった。

3 点目の「文科省の観点から、必要だと思われていない」としては、文部科学省の推進ではなくこういった事業は「国土交通省」の管轄であることがあげられる。そして国土交通省の「景観まちづくり学習」を実施すると助成金を活用することが出来るが、学習内容が限られ、地域性を生かした学習ができないため難しいのである。

4 点目の「実施時期」については、今回のような単発授業を開催する際「夏休みが良いのか」「その他が良いのか」「平日が良いのか」「休日が良いのか」児童や保護者のニーズを把握できていないことも課題としてあげられる。

5 点目として「写真の印刷環境の確保」として、今回は山形公民館で実施されたが印刷環境を整えるためにプリンターやインクの確保や作成時間の確保が困難であった。

6 点目の「短時間での掘り下げ」に関しては、2 点目とも関連する内容であるが、単発学習ゆえにインパクトが強い内容のものを実施することで意識してほしい反面、じっくり考え、思いや考えを深めることが困難である。短時間で学習を深めるための手法や教材、技術の向上が求められる。

(2)くろいし探景キッズの可能性

可能性として五十嵐氏は 3 点あげている。

1 点目は「参加児童の発見・関心」である。そこで五十嵐氏は「探景キッズに参加することで、子どもたちからは、同じ黒石市でも自分が暮らしている地区と違うという発見や自分の家の周りの景観も見つけてみたいという感想があったことから、景観に対する興味を持ち、まち歩きをしたいという意識が生まれたのではないかと思う。これらのことから、今回子どもたちが自分で考えた好きな景観にするための方策を、今後、できることから実施していつてもらえるのではないかと思った。」と述べた。

2点目は「参加児童の行動範囲の拡大」である。「自分の地区以外の地区へ出向く機会の増加が期待されると考える」と述べた。

3点目は「価値観や思考の拡大」である。「景観学習を実施することで児童自身が価値観や思考に幅が出ていると思う」と述べた。

(3)展望

展望として五十嵐氏は1点あげている。それは「景観学習の実施地域と参加対象の拡大」である。「今年度は温湯地区で行ったが、浅瀬石地区や上十川地区といったように、年度ごとに地区を変えることで、それぞれの地区の子どもたちが自分たちのまちを知る機会をつくるとともに、今年度の子どもたちのように、自分の暮らしているまちと違うまちを歩くことで気づく違いや良さなどを発見してもらう機会としたい。また、参加する子どもの対象の幅を広げていきたい。ただし、次年度から担当課が変わるため、先行きは不明ですが。」と述べた。

(4)まちに対する愛着の可能性

まちに対する愛着の可能性として五十嵐氏は「黒石市に対する興味を持つ機会の創出」「地域への愛着や誇りを持つきっかけ」「将来の良好な景観を形成する人材の育成」の3点を意識した。「探景キッズを実施することで、黒石市に対する興味を持つ機会を与えられたと感じている。初めて訪れたという子どもにとっては、自分たちのまちとの比較もできる。また、自分たちのまちがある地区における学習となった際には、まちの魅力の再発見ができるのではないと思う。興味を持つことで、地域への愛着・誇りにつながり、将来的に黒石市の良好な景観を形成する人材へと育っていくのではないと思う。」と述べた。

表 55 くろいし探景キッズの可能性と課題

	市役所
課題	①周知活動 ②実施地区の歴史・現況の把握のさせ方 ③文科省の観点から、必要だと思われていない ④実施時期の設定 ⑤写真の印刷環境の確保 ⑥短時間での掘り下げ
可能性	①自分が暮らしている地区と違うという発見と自分の地区の景観への関心の向上 ②自分の地区以外の地区へ出向く機会の増加 ③価値観や思考の拡大
展望	①対象学区並びに参加対象者の拡大
まちに対する愛着の形成の可能性	①黒石市に対する興味を持つ機会の創出 ②地域への愛着や誇りを持つ ③将来的の良好な景観を形成する人材の育成

2-6 本章のまとめ

本章では、第 1 章で明らかとなった景観学習における実態の結果を参考に、都道府県で景観学習に力を入れている青森県、岩手県に注目し、その中から運営体制が異なる青森県黒石市と岩手県北上市を調査対象として取り上げ調査を実施した。

本章においては青森県黒石市の事例から目的②景観学習における実施体制・支援体制を明らかにすること、目的③景観学習における適切な教材の検討とそれに伴う学習形態を検討すること、目的④景観学習における子どもたちのまちに対する愛着の形成を明らかにする。以上 3 点を調査していた。

まず、目的②景観学習における実施体制・支援体制を明らかにするために、自らが企画運営に携わり黒石型景観学習の実施体制を明らかとした。開始当初の 2009 年から青森県県土整備部都市計画課都市計画・景観グループ主催の景観学習に参加し、2013 年からは県庁からのサポートを受けながら協働で景観学習の実施、その後 2016 年には黒石市独自で景観学習を推進している。主な運営主体は「市役所」と「小学校」であり、そのサポートとして「弘前大学教育学部住居学研究室」が携わっている。

目的③景観学習における適切な教材の検討とそれに伴う学習形態の検討に関しては、児童が記述したワークシートを基に考察する。そこから明らかになったこととして、授業を重ねるごとに「まち」に対する意識が薄れ、「作業」に関心が高まっていること明らかとなった。さらに思考力の向上は終始低迷しており、改善が求められる結果となった。

目的④景観学習における子どもたちのまちに対する愛着の形成に関しては、景観学習前後で黒石市に対する想いを調査したところ、景観学習後に「好き」「少し好き」を選択する児童が増加したことが明らかとなった。これは 4 年次における景観学習、小学 6 年生を対象としたくろいし探景キッズで明らかになったものである。実際に「好き」「少し好き」の回答理由からも児童の愛着の変化が見受けられた。さらにワークシートの記載内容から十の愛着が確認されており、幅広いマインドの形成が確認がされた。

しかし、2 年前景観学習を受けたくろいし探景キッズ参加児童全員が「景観」について忘れており、黒石に対しての愛着も授業前は低い傾向にあつが、再度授業を受けたことで、黒石に対する関心や愛着が再度芽生えたことが明らかになった事実から、愛着を育む継続的な取り組みが必要不可欠であると予想する。

黒石型景観学習の課題としては、授業計画、授業目的が定められていないことから市職員が中心となっており、授業者である学校との連携が難しい。さらに、地域への授業目的の共有がなされていない課題がある。また、モデル校以外での実施がされていない。以上の課題から、景観学習における授業計画・目的の設置、景観学習の授業効果を明確にすることから未実施校への理解の普及へ勤めることが求められる。

第 3 章

NPO が中心となった景観学習の実践 - 北上市の実践研究から -

3-1 北上型景観学習の概要

3-1-1 北上型景観学習設立の経緯と取り組み状況

北上市では、2006年から2007年にかけて景観計画が策定され、2008年に北上市景観計画における部会の1つである教育部会において、景観学習に関する取り組みが提案された。景観計画を作成するにあたり、同時期に国土交通省における景観まちづくり学習が実践され始めたこともあり、景観計画の策定段階から北上市独自で景観学習を取り入れていく進展となった。そのため2008年において北上市のモデル事業を実施し、対象学校として黒岩小学校が選定された。その後、2009年には更木小学校、口内小学校、和賀西中学校の3校で実施され、2010年及び2011年には口内小学校と和賀東中学校、2012年には笠松小学校、和賀東小学校、和賀東中学校、2013年には口内小学校、笠松小学校、江釣子中学校、和賀東中学校、そして2014年には笠松小学校、東陵中学校、和賀東中学校で実施され、岩手県県土整備部都市計画課まちづくり担当と北上市都市整備部都市計画課の合同で更木小学校では実施された。2015年では笠松小学校と和賀東中学校で実施され、更木小学校では岩手県県土整備部都市計画課まちづくり担当と北上市都市整備部都市計画課の合同で実施された。2016年では笠松小学校、東陵中学校、和賀東中学校で実施された。2017年では笠松小学校、和賀西小学校、和賀東中学校で実施され、岩手県県土整備部都市計画課まちづくり担当と北上市都市整備部都市計画課の合同で更木小学校では実施された(表1)。

表 56 北上市における景観学習実施一覧表

NO	学校名	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
1	黒沢尻北小学校	○								
2	黒沢尻東小学校									
3	黒沢尻西小学校									
4	立花小学校									
5	飯豊小学校									
6	二子小学校									
7	更木小学校						★	★		★
8	黒岩小学校	○								
9	口内小学校	○	○	○		○				
10	照岡小学校									
11	南小学校									
12	鬼柳小学校									
13	江釣子小学校									
14	和賀西小学校									○
15	笠松小学校				○	○	○	○	○	○
16	いわさき小学校									
17	和賀東小学校				○					
18	上野中学校									
19	北上中学校									
20	東陵中学校						○		○	
21	飯豊中学校									
22	北上北中学校									
23	南中学校									
24	江釣子中学校					○				
25	和賀西中学校	○								
26	和賀東中学校		○	○	○	○	○	○	○	○
合計		3	2	2	3	4	4	3	3	4

凡例) ○: 北上市都市整備部都市計画課

★: 岩手県県土整備部都市計画課まちづくり担当と北上市都市整備部都市計画課の協働

北上市は1995年3月に「北上市景観形成基本方針」で将来における北上市の魅力ある景観についての基本的な考えを掲げた。そこで市民や行政、企業等の各主体が景観への理解を深めると共に、北上市らしい景観を「守り、創り、育てる」ための活動を推進していく事が重要であるとし、人々の意識へ働きかける景観形成施策の推進を図った。また、2001年3月に策定した「北上市総合計画」では、まちづくりの目標の1つに「美しい環境のまち」を掲げ、快適な暮らしができる環境を作るために「心の原風景に訴えるまちづくり」を方針の1つとして位置づけた。

全国の地方自治体においても景観に関する取り組みは積極的に進められており、そうした中で国は良好な景観の保全と形成を促進とすることを目的に、2004年6月に景観法を策定した。この景観法を活用することによって、地方自治体は地域の実情に即した景観形成施策を進めることが可能となり、北上市においては優れた景観を育み、継承し、新たな価値ある景観を生み出すために、2016年10月1日に景観法に基づいて景観行政団体となり、景観計画を策定した。

景観形成の目的としては、北上市民が心にとどめておくべき景観形成の目的として、市は「市民一人ひとりが愛着と誇りを持てる郷土を創る」とした。この目的は、北上市はこれからも未来を担う子ども達を育み、また訪れる人々をあたたく迎ええられるかけがえない故郷であり、景観づくりを通して今を暮らしている人だけではなく、かつて住んでいた人、仕事や観光で訪れる人、北上に関わる全ての人にとってこの北上が心のふるさとなるように、という願いを込めて作られている。景観形成の理念として、「心の原風景に訴える景観をみんなで守り、創り、育てる」とした。そうした基本理念や基本目標、基本方針を基に、北上市では景観学習や普及啓発活動に取り組んできた(表2)。

表 57 北上市における景観形成活動表

景観形成活動名	内容
景観学習	景観形成に対する理解や意欲を高めるための景観学習を行います。
きたかみ景観資産認定制度	地域の景観資源と活動を認定する制度を創設し、地域住民や事業者などによる自主的な活動やルール作りを支援
景観賞	景観の向上に寄与した建築物や広告物、地域の活動等を賞する制度を設立し、広く周知します。
広報活動	広報やホームページを活用した情報発信やフォームの開催などにより、景観資源や地域の活用、制度内容の周知を図ります。

3-1-2 北上型景観学習の実施目的

北上市では、景観に関心を持ち、景観形成を自らの課題と考えることのできる人づくりを目指した学校や地域での景観学習の推進を図っており、その目的として以下の3点である。

一点目は「市域の身近な景観資源について、市民に気付いてもらうこと」、二点目は「子ども達が将来誇れる景観、原風景となりえる景観について知ってもらうこと」、三点目は「自分が住む地域の景観は自分たちの手で守り育てていくという意識を持ってもらうこと」である。

北上市の景観学習における取り組みとしては、景観学習事例紹介や講師派遣、モデル指定、景観人養成講座、写真コンクール、景観フォーラム、副読本以上7点である(表3)。

表 58 景観学習における制度と内容一覧

制度	対象	内容
景観学習事例紹介	小中学校 交流センター	国土交通省が作成した「景観まちづくり学習プログラム」を紹介
講師派遣	小中学校 交流センター	授業(総合学習、図工、社会、国語など)や地域づくり活動の一環として取り組む場合に申請を受けてから市から講師(景観アドバイザー等)を派遣
モデル校指定	小中学校	モデル校での景観教育の実施(講師派遣)によりこうか・課題を検証
景観人養成講座	一般	地域の景観づくりリーダーやまち歩きリーダーを育成するための講座を開催 受講修了後は景観学習サポーターや「きたかみ景観資産」認定の審査委員として活躍
写真コンクール	一般	守りたい景観やお気に入りの景観写真を募集した
景観フォーラム	一般	地域や学校での一年間の取り組みの成果を発表 講演や景観賞の授賞式、写真コンクール応募のあった写真展示なども合わせて開催
副読本	小学校	小学校3・4年生で使用する社会科副読本へ景観について掲載

3-1-3 北上型景観学習の実施体制

2009 年以降から取り組まれている景観学習は、主に「北上市都市整備部都市計画課」「学校」「いわて NPO - NET サポート」が協働する体制となっている。各々の主な役割は、「北上市都市整備部都市計画課」が日程調整や地域住民に対する協力の要請、参加校への周知、「学校」が授業時間の確保、「いわて NPO - NET サポート」が授業の企画・運営・物品の調整、用意である。ここで企画運営を担っている、いわて NPO - NET サポートは北上市から景観計画推進業務委託を受けて景観に関する業務を実施している。

そのため北上型景観学習の主な授業実施に至る体制の流れとしては、12 月や年度の最初に校長会にて景観学習の宣伝を行い、参加表明した学校に対して 4 月から 5 月に NPO と行政が学校側との打ち合わせを実施する。その際、到達目標や学級の実態、景観学習に求める事や要望を学級担任から聞き取り、それを受けてその場で NPO から授業内容の提案を行い、スケジュールを含めて授業計画をつくりあげ、それぞれの学校に適した景観学習の内容を展開していく（表 4）。

表 59 実施体制と内容

年	主催	活用制度	実施内容	関係主体の関連図 及び変遷
2008	北上市都市整備部 都市計画課	景観形成業務委託		
2009	北上市都市整備部 都市計画課	景観形成業務委託		
2010	北上市都市整備部 都市計画課	景観形成業務委託		
2011	北上市都市整備部 都市計画課	景観形成業務委託		
2012	北上市都市整備部 都市計画課	景観形成業務委託	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家(大学)による景観に関する講義 ・デジタルカメラを一人一台もちまち歩き ・景観シート、景観マップの作成 ・どんな景観を撮ったのか疑問や知りたいことを深める ・大人から疑問や笠松地区の歴史について聞く。 ・授業のまとめ(全6回) 	
2013	北上市都市整備部 都市計画課	景観形成業務委託	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOから「景観とは」について講座 ・デジタルカメラを一人一台もちまち歩き ・専門家(大学)による景観に関する講義 ・景観シート、景観マップの作成 ・景観マップから疑問や知りたいことを深める ・地域の大人に疑問や笠松地区の歴史について聞く。 ・授業でわかったことを作文にまとめる(全6回) 	
2014	北上市都市整備部 都市計画課	景観形成業務委託	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家(大学)による景観に関する講義 ・デジタルカメラを一人一台もちまち歩き ・景観シート、景観マップの作成 ・冬の景観点検、好きな景観の共有(全4回) 	
2015	北上市都市整備部 都市計画課	景観形成業務委託	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家(大学)による景観に関する講義 ・デジタルカメラを一人一台もちまち歩き ・景観シート、景観マップの作成 ・景観発表会 ・地域の人から笠松の歴史を教えてください。 ・昔の笠松の歴史を想像して書いてみよう ・今の笠松の景観をかいてみよう 	
2016	北上市都市整備部 都市計画課	景観形成業務委託	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家(大学)による景観に関する講義 ・デジタルカメラを一人一台もちまち歩き ・景観シート、景観マップの作成 ・景観発表会 ・地域の人から笠松の歴史を教えてください。 ・昔と今の笠松の景観をかいてみよう 	
2017	北上市都市整備部 都市計画課	景観形成業務委託	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家(大学)による景観に関する講義 ・デジタルカメラを一人一台もちまち歩き ・景観シート、景観マップの作成 ・景観発表会 ・景観点検を市ながら、地域の人から笠松の歴史を教えてください。 ・昔と今の笠松の景観を描いてみよう。 	

3-2 北上型景観学習の展開

笠松小学校における北上型景観学習のねらいと経緯

笠松小学校では、北上市主催の景観学習に 2012 年から取り組んでいる。景観学習は総合的な学習の時間のカリキュラムに組み込まれており、詳細並びに 4 年間の主な学習内容は以下の通りである。

第 3 学年では「よりよい町(60)」を大きなテーマに掲げ、「きれいな町作戦」の一環として地域探検、景観学習・まとめといった内容が盛り込まれている。「ちびっ子名人」では修行活動やまとめ作業がある。また、校外学習や英語教育等が盛り込まれている。

第 4 学年では「よりよい水(60)」を大きなテーマとし、「尻平川活動」の一環でクリーン作戦、自然調査、尻平川の今と昔、発表会、まとめなどが挙げられる。その他には校外学習や英語教育などが含まれている。

第 5 学年は「よりよい食(60)」を大きなテーマとして掲げ、「おいしい作物を育てよう」の一環で野菜や米づくり体験、おいしく調理しよう、収穫祭、発表会、まとめなどが挙げられる。他にも校外学習などが含まれている。

第 6 学年は「仙台歴史探検隊」として科学、伊達政宗、歴史などを探求し、大きなテーマとしては「よりよく生きる(55)」としている。課題別グループでの体験や調査活動、発表会、まとめ等がある。調査活動内容としては健康や介護、環境や幼稚園、保育園などがある。そして卒業に向けての活動が年度を締めくくっている。

このように、カリキュラム自体が幅広く大きな枠組みで構成されており、学年担任の目指している目標や目的、願いなどで児童に学んでほしい方向性を毎年調整しながら基本的な活動は着目点を町から物や人、自然へ向ける内容の展開となり、最後は自分がよりよく生きるための方向性を考え、学べるように設定である。

これらの内容から検討し、笠松小学校では第三学年の「よりよい町」に景観学習を導入し実践へと至っている(表 5)。

表 60 笠松小学校 年間活動計画一覧

学年	時数	月											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
3年	70	よりよい町【60】 ○きれいな町作戦(地域探検・景観学習・まとめ)・ちびっ子名人(修行活動・まとめ)											
		校外学習【2】											
		英語となかよく【8】 ○ALTさんとなかよく ○英語で遊ぼう											
4年	70	よりよい水【60】 ○尻平川活動(クリーン作戦・自然調査・尻平川の今と昔・発表会・まとめ)											
		校外学習【2】											
		英語となかよく【8】 ○ALTさんとなかよく ○英語で遊ぼう											
5年	70	よりよい食【60】 ○おいしい作物を育てよう (野菜や米づくり体験・おいしく調理しよう・収穫祭・発表会・まとめ)											
		野外活動【10】											
6年	70	仙台歴史探検 (科学・伊達政宗 歴史等)【10】											
		よりよく生きる【55】 ○よりよい生き方を考えよう(課題別グループでの体験、調査活動・発表会・まとめ) 《健康、介護、幼稚園、保育園等》											
		卒業に向けて【5】											

3-2-2 笠松小学校地区における地域の実態

北上市における笠松地区の人口は 45029 人(2018 年 1 月現在)である。笠松小学校が属する和賀地区は北上市の北部に位置する約 167 平方キロメートルの地域であり、面積は市内 16 地区のうち最大で北上市の 3 分の 1 を占めている。奥羽山脈の裾野には田園風景が広がっており、山から湧き出る清流が源となり和賀川や尻平川など自然豊かな川が流れている地域でもある。

国指定重要文化財である「多聞院伊澤家」など、平和街道や笠松遺跡など歴史的遺跡や伝承芸能などの季節ごとの行事も多く、またわんぱく学園や青少年健全育成事業を通し、世代交流や地域間交流が盛んな地域でもある。



写真 25 多聞院伊澤家



写真 26 仙人駅(北上市・大正時代)

北上市都市計画マスタープランにおける和賀地区の分野別方針の中で、和賀地区で掲げる将来像「でっかい自然、あっつい人情、おっきい夢〜清流と緑あふれる和のまち わが〜」を掲げた。また、和賀地区は清流と緑に囲まれた自然あふれる地域であり、人情が厚く、人の和を大切にしている。和賀の「でっかい自然」と「あっつい人情」を大切に、将来を担う子ども達とともに「おっきい夢」を描ける地域を目指している。

笠松小学校における第 3 学年児童に関する児童観

笠松小学校 3 学年に在籍する児童は 17 名(男子 8 名、女子 9 名)で、とても元気で明るいクラスである。学習に対しては意欲的であるが、後先考えず突っ走る傾向もある。新しい勉強が好きな児童が多い。また初めての総合的な学習をととても楽しみにしていた。

また、地域に対する関心が高い傾向にあると教師は感じているが、それは地域における行事へ家庭・家族での参加率が高いことも大きな影響を与えていると推測される。(学年担任ヒヤリングより)

笠松小学校における実施日程

今年度の実施日程は以下の通りである(表 6)。

表 61 景観学習の実施日程

授業・検討会議回数	日時	内容
関係者による検討会議	2017年4月	景観学習全体の目標及び授業内容の検討(筆者不参加)
第1景観学習教室	2017年6月12日	「学校の周りの好きな景観、嫌いな景観を探そう」 景観に関する授業とまち歩き
第2景観学習教室	2017年6月16日	「景観点検の振り返りとまとめ」 ワークシートの作成とマップの作成
第3景観学習教室	2017年6月21日	「景観学習発表会」
第4景観学習教室	2017年9月15日	「昔の景観を探し行こう」 イントロダクションとまち歩き
第5景観学習教室	2017年9月20日	「昔の景観をイメージしよう」 今と昔の景観をイメージして絵を描いて発見を共有する

3 - 3 笠松小学校における北上型景観学習の実践

3-3-1 第1次の授業の流れ

第1次授業では、「学校の周りの好きな景観、気になる景観、嫌いな景観、を探そう」をテーマと掲げ授業を展開した。景観に関する理解を深めさせてから、一人一台カメラを持ち学校周辺を散策した。第1次の授業展開における主な児童の活動及び反応例、教師の支援については、以下の表7にまとめた

表 62 笠松小学校における第1次の授業展開

主な児童の活動と反応	学校・市職員・大学の支援
<p>【NPO】 ○今日の一日のスケジュールを聞く。</p> <p>【講師】 ○景観についての概念を理解する。 ・私は景観は目で見て考えることだと思います。 ・僕は心で見えるものだと思う。 ・私は足で歩いていくから、だから景観の観には足がついているんだと思う。</p>	<p>【NPO】 ○今日の流れを最初に伝えることで児童に一つ一つの作業に集中量を向けさせた。</p> <p>【講師】 ○景観という言葉が、児童には馴染みが無い為、景観をいう漢字を見てわかる事、身近な物や自分自身の考えを自由に述べさせながら景観の意味を伝え、深い理解に繋げた。 ○同じ角度から撮った写真でも、自分自身の考える意図でその景観の意味や価値が異なることを伝えた。 同世代が撮影した写真を用いることで、自分でもできるといった好奇心や向上心を掻き立てた。</p>
<p>【NPO】 ○カメラの使い方を理解する。 ○景観点検をするために学区を歩く。 ・大きなボーリングのピンを見つけた。 ・蜂の巣を見つけた。 ・川が通っていない橋を見つけた。 ・春なのに栗をみつけた。</p>	<p>【NPO】 ○一人一台カメラを用意することで自由に思い思いの景観を収めることが出来るようにした。 ○全体行動で進行するが、撮影時間に関しては十分確保し、児童が自己決定し、自分が撮りたい景観を撮影できるようにした。 ○笠松遺跡や八幡宮等の遺跡や重要な歴史的文化的な地域を通る際は、そうしたものに目を向けれるような発問を心がけた。</p>
<p>【NPO】 ○どんな写真を撮ったかお互い見せ合う。 ・綺麗な紫のお花を撮った。 ・綺麗な音が聴こえたので、川を撮った。 ・山と田んぼが綺麗だったので撮った。 ・忠霊塔がちょっと不気味だったので撮った。</p>	<p>【NPO】 ○一人一枚一番心に残っている写真見せるだけではなくて、なぜその写真を選んだのか理由を添えて説明させるようにした。 ○次回の活動内容を伝え、やる気や意欲を沸かせつつ、次回の活動に対する三通りしを持たせた。</p>

2017年6月12日の授業は連続授業として3コマ続けた165分授業で行った。対象児童が第3学年であり、景観という言葉を知覚できていないことから、まずは弘前大学教育学部の北原啓司教授が「景観のすすめ」という題で講義を行った(写真3)。そこでは、景観の概念の共有と景観点検に向けた視点の話をし、景観をいう漢字からこういったことが連想されるのか、景観とはどんなことを指すのかを児童に想像させながら景観という概念を紐

解いていった。また、実際に同年代の児童が景観学習の際に撮影した写真を見せ、児童自身がどういった景観を撮影したいか、どのような写真を撮ろうかといった景観点検に対する意欲付けも行った。

加えて、同じアングルだがタイトルが違う写真を見せ、同じような写真でも、撮っている人の想いや意思で違う景観となりうることを伝えた。

その後、これらの内容を元に実際に一人一台カメラを持たせた。その際、基本的なカメラの使い方として撮影や削除の仕方などある程度の使用方法、またカメラの持ち方などを伝え、共有した。

実際の景観点検では、全体行動で進行しながらも自由に景観点検できるよう心掛けられており、NPOの菊池博人氏を先頭に、また最後尾をNPOの加藤氏が担当し、児童の安全性を第一に考え進行された。グループで活動するのではなく、一人ひとりが自分自身で考え、自分が本当に撮りたい写真を撮影することを意識させるよう声掛けがされていた(写真4、5、6)。



写真 27 講師による景観のススメ講座



写真 28 景観点検



写真 29 景観点検



写真 30 景観点検

3-3-2 第2次の授業の流れ

第2次授業では、「景観点検のふりかえり」をテーマと掲げ授業を展開した。景観に関する理解を深めさせてから、一人一台カメラを持ち学校周辺を散策した。第1次の授業展開における主な児童の活動及び反応例、教師の支援については、以下の表8にまとめた。

表 63 笠松小学校における第2次の授業展開

主な児童の活動と反応	学校・市職員・大学の支援
<p>【NPO】</p> <p>○前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな景観 ・嫌いな景観 ・気になる景観 <p>○今日の一日のスケジュールを聞く。</p>	<p>【NPO】</p> <p>○前時の復習をすることで内容を忘れてしまっていた児童も想起することが出来る。</p> <p>○今日の流れを最初に伝えることで児童に一つ一つの作業に集中量を向けさせた。</p>
<p>【NPO】</p> <p>○景観シートの作成手順を聞く。</p> <p>○景観のカテゴリーを自分で決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綺麗な景観 ・気になる景観 ・カッコいい景観 ・かわいい景観 ・嫌いな景観 ・好きな景観 <p>○景観シートの作成をする。</p> <p>○みんなに発表したい3枚を決めて印をつける</p>	<p>【NPO】</p> <p>○景観シートを配布し、どこにどんなことを書いたり、貼ったりするのか、黒板を用いて説明を行った。</p> <p>○なるべく自分自身で自己決定するように促した。考えることや創造することが難しい児童には配慮した。</p> <p>○景観シートを作成する際は自分自身で考えて、感性を大切に書いてもらいたいため、行数にこだわらないように指導していた。</p> <p>○大量に書き進めていたこともあり、次回の発表に向けて、発表したい物を印をつけてもらう。</p> <p>○その後NPOのスタッフが子ども達が作成した写真を撮影し、次時の準備に使用できるようにする。</p>
<p>【NPO】</p> <p>○グループ活動を行う。好きな景観の写真を笠松小学校周辺地図に張り付ける。</p> <p>○好きな写真を紹介し合う。</p>	<p>【NPO】</p> <p>○模造紙を各班一枚ずつ用意した。現在の場所と、歩いたルートを全体で確認をした。その後はグループで考えてそれぞれが見やすい、わかりやすいと思うように場所と写真の中身を確認させながら作成をさせた。</p>

2016年6月16日の授業は95分の連続授業で行った。まず前時の振り返りを行い、「好きな景観」「気になる景観」「嫌いな景観」を振り返った。そして、授業のスケジュールを口頭で説明をし、児童に目標を設定させ。

まず、景観シートの書き方を全体で共有するため「氏名」「どんな景観」「写真の添付場所」「選んだ理由」「タイトル」という手順で記入することを説明した。「タイトル」は最

後に一斉に書くためそれ以外の部分を進めるようにした、「どんな景観」は、好きな景観、嫌いな景観、気になる景観だけに縛らず、独自の景観を表現できるよう自由に記述させた(写真 7)。

ある程度の手順を理解した上で作業に取り掛かった。しかしその中で周りに相談する児童が見受けられたが、菊池氏は「自分だけの景観だから、自分で考えてみよう」と声をかけていた。選んだ理由は行数にこだわらず書きたい分書くように指示した。無制限に書くよりもなるべく感性や感覚を大切にしてほしいと菊池氏は毎回伝えていた。また、枚数も自由に設定していたが、多くの児童が追加でワークシートをもらい、多い児童は 10 枚程度書き上げていた(写真 8)。次に、書きあげた景観シートの中から、紹介したい景観を 3 枚選択させ、そのシートに印を付けさせた。

そして、笠松小学校周辺を示したマップに好きな景観を張り付けていった。今回の作業は 4 名から 6 名一組でグループ活動として行い(写真 9)、作成後はグループ内で好きな景観を紹介し合った(写真 10)。作業終了後、次時に行う授業の説明を行い、見通しを持たせた。

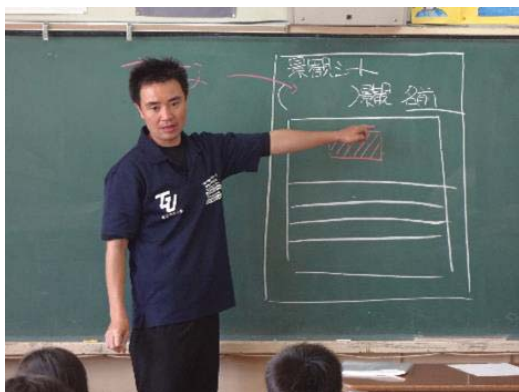


写真 31 景観シートの書き方を学ぶ



写真 32 景観シートの作成



写真 33 好きな景観をグループでまとめる



写真 34 好きな景観の紹介

前述でも述べたように、北上市では児童に自由に景観の種類を決めさせているため様々な景観のカテゴリーが存在する。それらのカテゴリーを、おおよその「好きな景観系」「気になる景観系」「嫌いな景観系」のカテゴリーに分けてみる。

【児童が見つけた景観 - 好きな景観系 - 】

児童の好きな景観は以下のような特徴が見られた(図 2)。最も多かった景観は「自然」であり 33 個、続いて「物」が 20 個、「空」が 13 個、「建物」が 5 個、「人」が 5 個、「墓」が 2 個、「音」が 1 個であった。ここでの自然というカテゴリーは、人工物や人の手が加わっていない物とする。

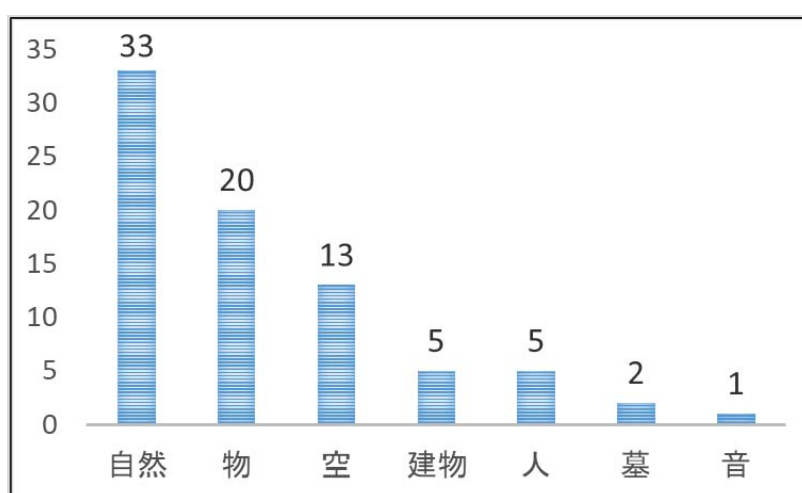


図 37 児童が見つけた - 好きな景観系 -

景観カテゴリー別にみた児童の好きな景観系は表 8 から 18 に示した通りである(表 9 から 19)。

表 64 好きな景観系 「好きな景観」

景観	感想	タイトル
好きな景観	山のでっぺんだけ雲に隠れていてあんまり見えないかなと思いました。	山の上の雲
好きな景観	目の前が道路で奥が建物でそのおくが山でいいと思いました。	前と奥の景色
好きな景観景観	笠松小学校のかさどんが大きくなっていました。	育ったどんぐり
好きな景観	家と田んぼの組み合わせもいいし、お花も綺麗だから撮りました。 あと森と山と青い空で雰囲気も良かったので撮りました。	綺麗なお花
好きな景観	好きな色が青だし、白い鮮やかで綺麗だからです。	青い花
好きな景観	花が空に向かって元気よく咲いているからです。	クローバーと花
好きな景観	日当たりが良く綺麗だからです。	お寺
好きな景観	地面にミッキーの形になっている所があり、私もミッキーが大好きなので選びました。	ミッキーマウス
すきな景観	家の前にあったかわいいシーサーです。小さくて丸くてにっこり笑顔だから好きです。	にっこりシーサー
好きな景観	山と空があっていい好きだと思いました。綺麗だし、素敵だなと思いました。	山と空
すきな景観	小さいシーサーがかわいくて好きだともいました。すごいと思いました。	小さいシーサー
好きな景観	山が奥の方に見えて、お国もお国もあって、これが好きな景観です。	空と山
好きな景観	神社の建物と周りに木がたくさんあって綺麗に見えて、好きになりました。	遠い神社
好きな景観	神社の隣にお墓のようなものがあると、すごい人みたいで好きだと思いました。	神社のお墓
好きな景観	神社でここにこんなものがあるとすごい感じがしました。	ダンスの神社
好きな景観	33防団はみんな火事とかになったら消火しているんだなと思いました。	消防団
好きな景観	紫の色が好きだし、お花も好きだから選びました。	紫の花
好きな景観	そばっちゃんが笑っていてかわいいです。	そばっち
好きな景観	赤とピンクのお花がかわいい。	赤とピンク
好きな景観	学校は毎日楽しいことがいっぱいあるから撮りました。	楽しい学校
好きな景観	紫と緑があってかわいい。	かわいい花
好きな景観	祖バッチが青空とあっていて、あと笑顔で笑っているからです。	笑顔がかわいいそばっち
好きな景観	いつもこの門を通っているからです。	入るぞ
好きな景観	神社の鐘の音はきれいで好きだからです。	八幡神社
好きな景観	田んぼが一面に広がって綺麗だからです。	大きな田んぼ
好きな景観	道路に自然に埋め込まれている所が好きで、耳が丸くてミッキーマウスだと思って好きになりました。	ミッキーマウス
好きな景観	家の前にお花がいっぱいあって「綺麗」と思いました。	お花のお客
好きな景観	緑と黄緑の綺麗な山と田んぼと1つの家があって好きです。	緑の世界
好きな景観	神社の森をちょっと行って、森が薄く林のようになっていて奥に森があって、石にサボテンがあるので、好きになりました。	サボちゃん愛したよ。
好きな景観	私がこの写真を選んだ理由は木やうまく撮れたからです。	神社
好きな景観	私がこの写真を選んだ理由は葉が綺麗で素敵だし、好きだからです。	木の葉
好きな景観	僕がこの写真を選んだ理由は自然とお墓があって自然に囲まれているからです。	自然に囲まれている墓

表 65 好きな景観系 「かつこいい景観」

景観	感想	タイトル
かつこいい景観	かつこいい岩手警察を見つけた。	かつこいい警察
かつこいい景観	パトカーが走っていてすごくかつこよかったです。	かつこいいパトカー
かつこいい景観	パトカーがかつこよくてすごいと思いました。	かつこいいパトカー
かつこいい景観	私がこの写真を選んだ理由はパトカーがかつこいい走っていてかつこよかったです。	車

表 66 好きな景観系 「面白い景観」

表 67 好きな景観系 「綺麗な景観」

景観	感想	タイトル
綺麗な景観	綺麗な花だなと思いました。	綺麗な花
綺麗な景観	山が薄くて雲が綺麗だったので撮りました。	綺麗な山
綺麗な景観	桜が咲いている時とても綺麗だったから。	すぐ咲いて！
綺麗な景観	落ちるときに綺麗な音が聴こえたからです。	綺麗な音。
綺麗な景観	青い空と白い雲が綺麗でした。	綺麗な雲
綺麗な景観	綺麗な葉っぱだった。	自然な緑
綺麗な景観	山と雲の景色が綺麗。	山と雲
綺麗な景観	緑がいっぱいでジブリみたいだからです。	緑の山と水色の空
綺麗な景観	雲の白と空の青があって綺麗だなと思いました。	水色の空と白い雲
綺麗な景観	雲と空がたくさんできれいだなと思いながら撮りました。すごいです。	雲と空
綺麗な景観	学校が階段で色々な色のお花があって綺麗だと思いました。	色が綺麗な花
綺麗な景観	神社に似ている家で田んぼも木も、山も写っている写真だったので「綺麗な」と私はそう思いました。	綺麗な家
綺麗な景観	青空がきれいだった	青空
綺麗な景観	青空みたいな水色が綺麗だからです。	青空みたいなプール
綺麗な景観	水が光っていて綺麗だからです	きれいだなあ
綺麗な景観	山が綺麗に映っているから	雨雲と山
綺麗な景観	赤い花を守っている。	青い花 赤い花を守ってね
綺麗な景観	お花と家と山と小さく見える黄色い橋が写っていて綺麗だなと思いました。	お花畑？
綺麗な景観	私がこの写真を選んだ理由は青空が綺麗だからです。	山と空
綺麗な景観	私が好きなのは花が綺麗でした。	葉と花と土

表 68 好きな景観系 「面白い景観」

景観	感想	タイトル
面白い景観	全然見ていなかったけど、見て面白かったので撮りました。	なんだろうこの葉っぱ
面白い景観	すごく栗のからが多くて面白かったからです。	たくさんの栗から
面白い景観	クローバーが重なっているから面白いと思いました。	重なっているクローバー
面白い景観	撮った時にうねうね動いて面白いです。	たわしみたいな毛虫
面白い景観	犬の絵が「ふん」と言って、うんこを出して面白かったです。	汚い犬
面白い景観	口が赤くて本物みたいですすごい。また見たいと思います。	かっこいいシーサー
面白い景観	栗がチクチクしてて、いっぱいあって、ハリセンボンみたいです。	栗がハリセンボンみたい！
面白い景観	形が眼鏡みたいで面白かったからです。	眼鏡みたいで面白い
面白い景観	鏡に自分を写らせて写真を撮ったところに面白さを感じたからです。	写真を撮っている自分
面白い景観	私は景観だから撮ってみました。「警官は警官を撮る」なんちゃって、思ったので撮りました。	警官勘違い
面白い景観	僕はこの写真を面白いと思いました。理由は真ん中の所に石の色みたいなキノコがあるからです。	石の色みたいなキノコ
面白い景観	山が雲にかかって面白かった。	山に雲が包まれている。

表 69 好きな景観系 「かわいい景観」

景観	感想	タイトル
かわいい景観	工事している所にわんこ兄弟のそばっちがいてかわいいです。	わんこ兄弟
かわいい景観	光に照らされていた赤い花。	おひさまの子どもは赤くてかわいいお花
かわいい景観	私がこの写真を選んだ理由は葉がかわいいからです。	葉がいっぱい
かわいい景観	私がこの写真を選んだ理由は丸くてかわいいからです。	丸と石

表 70 好きな景観系 「びっくりした景観」

景観	感想	タイトル
びっくりした景観	この中にはいるのは、どんぐりです。どんぐりが卵みたいでびっくりしました。	どんぐりが卵みたい
びっくりした景観	ここにミッキーみたいな形があるびっくりしました。	ミッキーが居てびっくり
びっくりした景観	お花がないいいない…バーとしているみたいで面白くてびっくりしたので撮りました。	いいいいない…バー！

表 71 好きな景観系 「すごい景観」

景観	感想	タイトル
すごい景観	これは神社の階段で見つけました。石で作られているなんてすごいと思いました。	石の階段
すごい景観	石に学校の名前を書いていてすごいからです	学校の名前
すごい景観	石の墓が5個並んで三角の形ですごかった。	石の墓

表 72 好きな景観系 「シンプルな景観」

景観	感想	タイトル
シンプルな景観	綺麗な家だった。	綺麗な家

表 73 好きな景観系 「ジブリのような景観」

景観	感想	タイトル
ジブリのような景観	緑が多いところがジブリに似ていて「いいな」と思いました。	トトロの森

表 74 好きな景観系 「ドキドキ景観」

景観	感想	タイトル
ドキドキ景観	冒険しているみたいなので撮りました。とても小さなものでも芸術になります。	探検…冒険犬発見！

【児童が見つけた気になる景観】

児童の気になる景観は以下のような特徴が見られた(図 3)。最も多かったのは「物」は 19 個、続いて「自然」が 14 個、次に「墓」が 4 個、最後に「建物」が 2 個であった。ここでの自然というカテゴリーは、人工物や人の手が加わってない物とする。

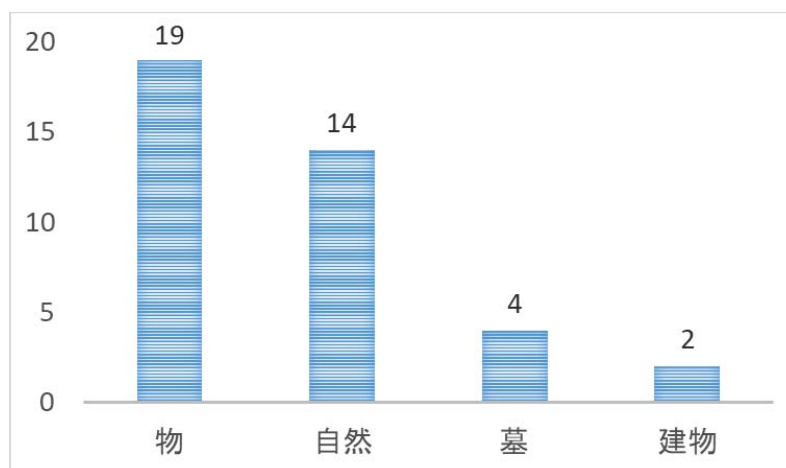


図 38 嫌いな景観系

景観カテゴリー別にみた児童の気になる景観系は表 20 から 21 に示した通りである。

表 75 気になる景観系 「不思議な景観」

景観	感想	タイトル
不思議な景観	なんでこの家の人は交互に種類が違うものを植えているんだろうと思いました。	交互の花
不思議な景観	どんぐりが地面に落ちていてそのどんぐりは熊の形をしていて、足も手もどんぐりで出来ていて、不思議なので撮りました。	不思議などんぐり
不思議な景観	春なのにまだどんぐりが残っているからです。	なぜどんぐりが今？
不思議な景観	門の中に小さい寺があるから。	門とお寺
不思議な景観	くりがかたまって落ちているので、不思議だなと思いました。	不思議な栗
不思議な景観	神社が隣に大きいお墓みたいなのがあって不思議でした。	でっかいおはか
不思議な景観	神社の横に4こだけお墓があって不思議でした。昔のものみたいでした。	不思議なお墓
不思議な景観	本当に小人が住んでいそうな寺みたいな電気です。	小人が住んでいそう
不思議な景観	石がハートで不思議だなと思いました。どうしてなったんだろうと思いました。	石のハート
不思議な景観	これは家みたいに見えます。これは何なんだと思いました。	家みたい
不思議な景観	これを見た時なんだこれは！と思いました。僕は墓みたいだと思います。	墓みたいなもの
不思議な景観	ボーリングのピンが街の中にありました。なんであるのか不思議でした。	町中にボーリングのピン
不思議な景観	なぜ車のタイヤに付けて走る道具がここにあるのだろうと私は不思議に思いながら写真を撮りました。	車の道具
不思議な景観	誰かの畑の所にボールみたいなのがあったので不思議な景観にしました。	畑にボール
不思議な景観	公園の所の休む所にハチが居て、ハチが色で隠れているみたいでした。	かくれ蜂
不思議な景観	学校の天野浦の方に、枯れ葉見たいだったけどオレンジ色でちょっと固かったので誰かがいれたのかなと思いました。	誰かのごみ
不思議な景観	消防団の絵がマンホールに書かれているのが不思議だと思いました。	絵、消防団
不思議な景観	岡ねの単位は何を表しているのかが知りたいし、不思議です。	不思議？
不思議な景観	なんでテルテル坊主のマークが書いてあるのかが不思議。	テルテル坊主
不思議な景観	ここの模様が白色で不思議だから。	ここのだけ白色。
不思議な景観	緑、黄緑、ちょっと茶色があって3色もあるのが不思議だからです。	色が違う葉っぱ
不思議な景観	テルテル坊主みたいで不思議でした。	テルテル坊主みたいで不思議
不思議な景観	このところにつるつるなのが不思議。	つるつるな土
不思議な景観	「夏の初めなのに、赤い色の葉っぱ!」と思いました。本当になんでなのか知りたいです。	今は、秋!?
不思議な景観	私がこの写真を選んだ理由は魚の形が不思議だからです。	道路と魚
不思議な景観	おの写真を見て僕は坂を上った所にいっぱいあるのが不思議だと思いました。わけはその所が線路みたいだからです。	ここは線路かな
不思議な景観	栗がなぜいっぱいあったのか不思議です。	栗がいっぱい
不思議な景観	ブルドーザーのキャタピラがゴミ置き場の所に置いてどうとったのか不思議だった。	8の字のキャタピラ

表 76 気になる景観系 「気になる景観」

景観	感想	タイトル
気になる景観	なんで白い線が浮いているのいるのかはわかりませんでした。	白い線と木
気になる景観	なんで皮がむけているのかわかりません。	皮がむけた木
気になる景観	どうしてこの家の人はこんなにも色分けしているのかなと思いました。	分けられた花
気になる景観	いつできたのか気になるから。	いつできたの？
気になる景観	国語の授業で「気になる記号」という勉強をしているからです。	気になる記号
気になる景観	一本だけ立っていて不思議だなと思います。	一本の木
気になる景観	文字が書かれていて何のものかはわからないけど、気になってきました。	不思議な文字
気になる景観	道路でミッキーマウスの形をした黒いのがありました。	道路とミッキーマウス
気になる景観	私がこの写真を選んだ理由はこの黄色の缶が気になるからです。	土と葉と缶
気になる景観	僕はこの写真が不思議だなと思いました。理由は真ん中にある物がお墓かわからないからです。	これは墓かな？
気になる景観	いつかわからないけど、前に個々がゴミを焼いていたのか気になりました。	焼けた木の根っこ

【児童が見つけた嫌いな景観】

児童の嫌いな景観は以下のような特徴が見られた(図 4)。最も多かったのは「物」は 9 個、続いて「建物」が 5 個、横並びに「自然」「人」「虫」「雨雲」が 1 個ずつであった。ここでの自然というカテゴリーは、人工物や人の手が加わってない物とする。

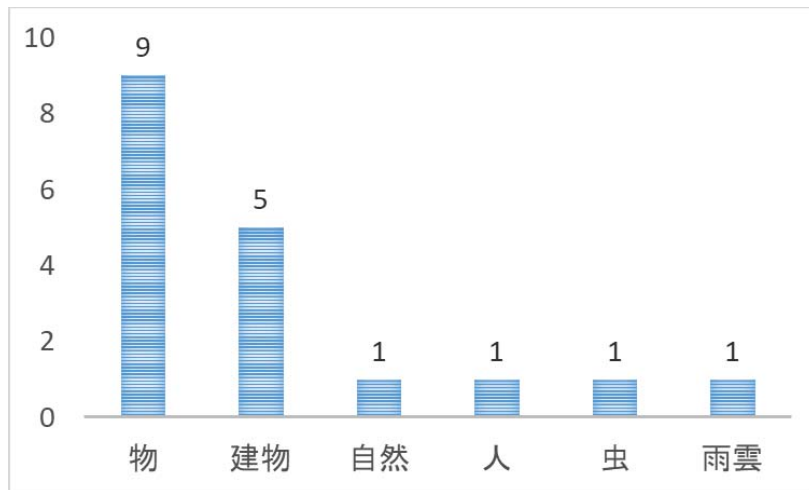


図 39 嫌いな景観系

景観カテゴリー別にみた児童の嫌いな景観系は表 22 から 27 に示した通りである。

表 77 嫌いな景観系 「嫌いな景観」

景観	感想	タイトル
嫌いな景観	古くて嫌だなと思いました。	古屋敷
嫌いな景観	毛虫がうのように動いているし、焦げ茶色だから嫌いな景観にしまし	毛虫
嫌いな景観	この部分が曲がっていてサビているのが汚いからです。	汚いやね
嫌いな景観	雨雲で曇っているからです。	晴れてくれ
嫌いな景観	腐ったりかびてたりしているのか嫌いだからです	腐ってる！
嫌いな景観	僕はこの写真が嫌いだと思った理由はずっと見ていると毛虫に見えるか	ずっと見ると毛虫に見える
嫌いな景観	橋の下の所が暗くて嫌いだった。	橋の下が暗い

表 78 嫌いな景観系 「怖い景観」

景観	感想	タイトル
怖い景観	ウサギが怖いなと思いました。	怖いうさぎ
怖い景観	ウサギの口がサビて、血見たいになって怖いです。	こわうさ
怖い景観	ここで人が焼かれたみたいでこわいです。	ここをあけたら
怖い景観	夜に撮るとオーブが撮れるかも。	亡霊の家
怖い景観	夜になるとなんかお化けが出てきそうでこわい。	お化けが出そう
怖い景観	獅子舞が怖いからです。	怖い獅子舞
怖い景観	警察官に捕まったら怖そうだからです。	警察官!!!!

表 79 嫌いな景観系 「痛い景観」

景観	感想	タイトル
いたい景観	木や葉がたくさん落ちているので上るときに木が当たりそうだからです。	痛そうな階段

表 80 嫌いな景観系 「汚い景観」

景観	感想	タイトル
汚い景観	もろい木だったから。	汚い木

表 81 嫌いな景観系 「臭い景観」

景観	感想	タイトル
くさい景観	ゴミが臭そうで怖いからです。	くさそう～

表 82 嫌いな景観系 「怖い嫌いな景観」

景観	感想	タイトル
こわいきらいな景観	ここは夜になったらお化けが出そうで私はここが怖くなった。 それに錆が入っているのでお化けが好きそうな感じです。	お化けのお屋敷

3-3-3 第3次の授業の流れ

第3次授業では、「景観学習発表会」を行った。第1次から第2次の授業を生かし景観シートにまとめた自分だけの景観を発表した。第3次の授業展開における主な児童の活動及び反応例、教師の支援については、以下の表28にまとめた。

表 83 笠松小学校における第3次の授業展開

主な児童の活動と反応	学校・市職員・大学の支援
【NPO】 ○前時の復習をする。 ・好きな景観 ・嫌いな景観 ・気になる景観 ○今日の一日のスケジュールを聞く。	【NPO】 ○前時の復習をすることで内容を忘れてしまっていた児童も想起することが出来る。 ○今日の流れを最初に伝えることで児童に一つ一つの作業に集中量を向けさせた。
【NPO】 ○景観発表会をする。自分が書いた景観シートを電子黒板の横に立ち紹介する ○発表が終わると児童同士で感想を伝え合う。	【NPO】 ○電子黒板に児童撮影した写真を提示する。 ○発表が終わると、周りの児童から質問を募り、互いの発見や良さを伝え合う時間を設けることで次の視点に繋がるように促した。 ○最後は一人ひとりが見つけた景観に対しての感想や視点を褒め、次へのやる気へ繋いだ。
【NPO】 ○第1回から第3回までの景観学習の振り返りシートを書き、授業を振り返った。 ○次時の内容を聞く。	【NPO】 ○景観学習の振り返りシートを配布し授業を振り返らせ、児童の反応や発見を確認した。 ○次時の内容を説明し、二学期へのやる気や見通しを持たせた。

2016年6月21日の授業は45分で行った。まず前時の振り返りを行い、「好きな景観」「気になる景観」「嫌いな景観」を振り返った。そして、今日の授業のスケジュールを口頭で説明した。

そして、景観学習発表会を実施した(写真11、12)。電子黒板に児童の撮影した写真を掲示し、一枚一枚児童に説明させ、児童が説明した後は、児童同士で質問や感想、意見を伝え合い、活発な意見の交流の場が設けられた。一人ひとりが発表し意見交流が終わると、菊池氏から一人ひとり終わる毎に評価点や質問、感想が伝えられ、児童のモチベーションの向上並びに自信にもつながっていたと予想される。

発表が終わった際、第1次から第3次の景観学習に関する感想や意見、発見したこと等を景観振り返りシートに記入してもらった(写真、13、14)。

最後は、次時の活動内容を伝え、一学期の授業を終了した。



写真 35 景観発表会



写真 36 景観発表会



写真 37 感想記入



写真 38 感想交流

3-3-4 第4次の授業の流れ

第4次授業では、「昔の景観を探しに行こう」をテーマに掲げ授業を展開した。これまでの景観学習について振り返り、今回の授業の導入を行った上で、地域住民と一緒に6月と同じコースを歩きながら、その場所が昔どのようなものであったか説明を受け、昔の景観を想像する展開とした。第4次の授業展開における主な児童の活動及び反応例、教師の支援については、以下の表29にまとめた。

表 84 笠松小学校における第4次の授業展開

主な児童の活動と反応	学校・市職員・大学の支援
【NPO】 ○前時の復習をする。 ・好きな景観 ・嫌いな景観 ・気になる景観 ○今日の一日のスケジュールを聞く。	【NPO】 ○前時の復習をすることで内容を忘れてしまっていた児童も想起することが出来る。 ○今日の流れを最初に伝えることで児童に一つ一つの作業に集中量を向けさせた。
【NPO】 ○NPOの菊池氏から和賀地区交流センターセンター長・菊池さんの紹介を聞く。 【地域】 ○センター長菊池氏から昔の笠松小学校の歴史の話を聞く。 ○カメラを一人一台持ち、菊池氏の話を聞きながら昔の景観を想像して写真を撮影する。	【NPO】 ○地域交流センターがどういった場所なのか、菊池氏がどういう人なのかを説明することで児童に安心感を与え、信頼して授業が展開できるようにした。 【地域】 ○交流センターの菊池氏が伝える事で、地域に住んでいる人だからこそ伝える事が出来るため、一つ一つの見学場所の歴史、雰囲気丁寧に伝えた。 ○当時の写真を教材として用いることで児童が昔を想像して景観を考えながら撮影することができるようにした。
【NPO】 ○撮った場所を再確認し、撮影した写真を確認する。 ○次時の内容を聞く。	【NPO】 ○今日撮った写真の場所を最後におさらいし、最後は撮った写真を確認させ、今日の振り返りを行った。 ○次時の内容を説明し、次へのやる気や見通しを持たせた。

2017年9月15日の授業は165分の3コマ連続授業で行った。まず前時の振り返りとして「好きな景観」「気になる景観」「嫌いな景観」を振り返った。そして、今日の授業のスケジュールを口頭で説明を行い、児童にある程度の目標や目処を伝える事で目標を設定した。

そして、NPOの菊池氏からゲストティーチャーとして和賀地区交流センターセンター長・菊池篤氏が紹介された。児童達にとって交流センターは馴染みのある場所でもあり、安心感を持って授業に臨む姿勢が出来ていたと考えられる。また菊池篤氏は、元教員で、笠松小学校の校長としても勤務していたこともあり、地域的な特性や学校の特色を理解し

ているため児童にとってわかりやすい説明がされていた(写真 15)。

まず教室で、笠松小学校の歴史を伝え、児童からの質疑応答を行った。その後一人一台カメラが配布され、学校の歴史で気になる所の写真を撮影した。

次に、カメラを持ちまち歩きを行った。まち歩き自体は、全体行動で進行しているが自由に景観点検できるよう心掛けられており、NPO の菊池博人氏を先頭に、また最後尾を行政の高田朋恵氏が担当し、児童の安全性を第一に考え進行された。今回も前回と同様に、グループで活動するのではなく、一人ひとりが自分自身で考え、自分が本当に撮りたい写真を撮影することに意識させるよう声掛けがされていた。また歴史的な場所や建築のポイントに来た時は、菊池氏から昔の笠松について解説が行われ、児童が理解しやすいように昔の写真を掲示し、想像しやすいように補助教材が用意されていた。そうした教材を活用し、笠松小学校、笠松遺跡、八幡宮、馬頭観音等を児童と共に巡った(写真 16、17)。

その後教室へ戻り、見学した場所を確認したのち、互いに写真を確認し合い、次回の内容を児童に伝え次時への見通しを付けさせた(写真 18)。



写真 39 笠松小学校の歴史を学ぶ



写真 40 笠松の由来について学ぶ



写真 41 昔の移動手段について学ぶ



写真 42 今日の振り返り

3-3-5 第5次の授業の流れ

第5次授業では、「昔の景観をイメージしよう」をテーマと掲げ授業を展開した。前時の授業を振り返りながら絵でまとめ、今の景観と昔の景観を比較し、学びを整理する。その後、全5回の景観学習を振り返りシートを記入する。第5次の授業展開における主な児童の活動及び反応例、教師の支援については、以下の表30にまとめた。

表 85 第5次の授業計画

主な児童の活動と反応	学校・市職員・大学の支援
【NPO】 ○前時の復習をする。 ・好きな景観 ・嫌いな景観 ・気になる景観 ○今日の一日のスケジュールを聞く。	【NPO】 ○前時の復習をすることで内容を忘れてしまっていた児童も想起することが出来る。 ○今日の流れを最初に伝えることで児童に一つ一つの作業に集中量を向けさせた。
【NPO】 ○「昔の景観と今の景観」シートの書き方の説明を聞く。 ○シートに絵を書く。 ○昔と今に関して書いた絵から、昔と今の景観を比べる。 ○作成したシートを班内で発表し合う。	【NPO】 ○景観シートの書き方を説明して、児童が分かりやすく書けるようにする。 ○絵が苦手な児童やどの景観を書いたらいいかわからない児童に対して声をかけをおこなった。 ○昔と今の景観について書いた絵の比較を促した。なかなか活動に取り掛かれない児童に対しては、どんな歴史があったのか、そういうことが印象に残っているのか確認し支援した。 ○班になるように指示し、上手に発表が出来ない児童や班に対して体の向きや声の大きさなどを指導しスムーズに発表ができるようにした。
【NPO】 ○景観学習の振り返りを行う。	【NPO】 ○振り返りシートを配布し、記入を促した。文量ではなく自分自身の考えや感性を大切に書けるよう促し、最後は感想や新しい発見を各班一人代表から発表してもらった。

2017年9月20日の授業は95分の2コマ連続授業で行った。まず前時の振り返りとして「好きな景観」「気になる景観」「嫌いな景観」、交流センターの菊池氏とまち歩きした内容をについて振り返った。そして、授業のスケジュールを口頭で説明し、児童に目標を設定させた。

次に、今と昔の景観を振り返りシートを配布し、「名前」「今の絵を描くところ」「昔の絵を描くところ」「説明を書くところ」「タイトル」の書き方を説明した。その後各自作業に取り組ませ、なかなか作業に取り掛かることのできない児童に対しては、声掛けや具体的にどのようなものを書きたいのかを明確に聞き出し、自分の感じたまま絵にするよう伝え、支援した。作業枚数は決まっておらず、個々で書きたい分取り組むよう促した(写真19)。

作業後は書いたシートを基に、班ごとに発表を行い、一人ひとり自分が見つけたことを伝えた。声が小さい児童やうまく発表出来ない児童に対しては声をかけるだけではなく、班全体で話しやすい雰囲気を作れるように菊池氏や高田氏が率先して輪に入り支援を行った(写真 20)。

最後は景観学習全体の振り返りシートを配布し、個々での振り返りの時間とした。その後、班に分かれて紹介し合い、互いに発表させたい児童をグループごとに決め、各班1人ずつ発表した(写真 21)。



写真 43 昔と今を比べるワークシート



写真 44 お互いの発見を共有



写真 45 景観学習全体を通しての共有

【児童が見つけた今の景観・昔の景観】

前述でも述べたように、第5回景観学習では「今と昔の景観を比べてみる」ことに焦点を当てた授業が展開された(表 31)。児童が注目する今と昔の景観はあらゆる角度から観察されている。

主に地域の菊池篤氏がまち歩きしながら解説したところが主に児童が関心を抱いていることがこの表から読み取れる。このことからゲストティチャーによる授業は児童の関心を集め、印象強く残る可能性を指していると考えられる。

表 86 「今と昔の景観を比べよう」一覧

今 タイトル	理由	昔 タイトル	理由
タイムカプセル 発射台	これは昔無かったと思います。	ないタイム カプセル発射台	昔タイムカプセル発射台は無かったと思います。 草がいっぱい生えていたと思います。
遺跡と松	昔この遺跡は無かったと思います。	松	たぶん昔は左の写真の遺跡は無かったと思います。
切り株	木が切られています。	大きな木	僕は木があったと思いました。その理由は切り株 があるということは昔は木が生えていたと思う からです。
忠霊塔	今は昔どんな戦争が起こったのかと思います	町みたいな家	昔は戦争が起こる忠霊塔は家が建てられて いたと思います。
笠松	今はここにきて不思議だと思いました。	草むらの家	昔はお墓みたいなのが少なくて家がいっぱいある と思いました。
今のベンチ	今は少し色落ちています。傷もついている。	昔のベンチ	昔はベンチは綺麗だったと思います。
今の大きい木	今は大きい気がたくさんありました。昔より期は 減ったと思う。昔よりは大きい気も減ったと思う。	昔の大きい木	今より昔の方が大きい木がありました。今より たくさんあったと思う。大きい木もたくさんあった と思う。
なぞの忠霊塔	昔はここで戦争をしたと思います。	悲しい戦争	戦争で辛い思いをしたことが分かって、戦争を 出来ればやらないといいです。
水	昔の橋だと思う	箸の下を渡る水	川が綺麗になって、みとりも多かったと思います。
八幡神社	勝負の神様だということは馬も侍もいたと思う。	勝負の神様	勝負の神様だから天下一になったと思う。
昔っばい	昔っばいけど、新しく出来たと思う	野原	昔は緑がいっぱいだったと思った。
ろうそく	ろうそくを誰がつけたのか不思議	無かったろうそく	昔ろうそくを付けた人がいないと思う。ライターが ないから。
黄色の稲	稲がぐんぐん大きくなって黄色になっています。	昔の田んぼ	前の方は黄色で遠くを見ると黄緑に見える。
大きい広い学校	学校も大きくて教室も広いです。部屋がたくさん あります。	昔の学校	部屋も少なくて人も少ないです。今と違って部屋が せまいです。
忠霊塔	戦争で亡くなった人の魂が入っている。	昔の人のお墓	戦争をした人の骨を入れて「ありがとうございました」 「やすんでください」という意味で忠霊塔を作った。
今の松	今はちょっと小さい松の木でした。	大きい松	昔はもっとすごく大きかったかもしれない。 えらい人が「かさみたい」といったから「笠松」と いう名前になった。
わからない橋	今は橋の下に水が流れたけど、今は流れて いません。壊れていました。	用水路の上 にある橋	箸の下に水が流れていました。そして橋の周り には田んぼがたくさんあると思いました。
学校にある黒板	今は黒板で先生たちが書いたりします。紙や 磁石もはるときもあります。	黒板より小さい レポート	昔はレポートに先生たちが書いていると思いました。 レポートは白なので、黒円を使っていたと思います。 赤ペンもあると思いました。学校の黒板とは違って 小さいと思いました。
僕たちの 笠松小学校	今は1年から6年までが通っています。 とても高いし、広いです。	昔の人たちの学校	小さくて勉強もしづらくて先生も1人から3人くらい しかいないと思いました。学校とは違って狭いです。 部屋が少ないけど思います。
線路	線路の所で昔は線路の上を馬が人を乗せていた と思います。	馬車	昔線路は上を電車がはしるんじゃなくて馬が紐 みたいなのを付けて紐を家みたいな感じの小さい のに結んで引いたと思います。
なぜ草がある 所に橋？	忠霊塔の所の橋で昔は川のように流れていたと 思います。	昔の橋	今は橋は昔、ここに用水路のようなものが流れて いたと思います。このようなものがなかったら 田んぼなどは育てられないと思いました。
今のロッカーが 傷ついている。	今はサビているし、傷もついています。	昔のロッカー ピカピカ光っている	もしかしたら綺麗に光っていたと思います。 それに鍵もあったと思います
傷のついた 忠霊塔	今は傷や汚れがついていて古いし少しかわいそう。 この人たちの名前や値段は作った人の名前なの かな。	キラキラ光る 忠霊塔	
八幡官神社	八幡神社は人がいっぱい来ていました。	侍と馬と勝負の神様	八幡平神社は昔侍さんがいて、その人が死んで、 馬のまつられているところでその神様は勝負の 神様というそうです。
電車と線路	こういう線路に電車が通って、皆を乗せているのが すごいと思いました。		昔は線路は馬が走っていたことが分かりました。
ロッカー	今はロッカーがあるけど、昔はどういうものに 荷物をしまっていたんだろう。	木の棚	たぶん昔は左の写真の遺跡は無かったと思います。 木でできている棚に荷物を入れていたのかなあと と思いました。
今のうわげき	この橋には水が流れていたのが流れていなかった のかを知りたい。		たぶん橋には水が流れていて、田んぼに水を 運んでいたのかなと思います。

笠松の石	今は松はもう倒れている木があったからこの名前が付いた	笠みたいな松	今は木はたっていないけど、昔はかさみたいな松が立っていた。
不思議な橋	今は橋の下には上関という川は流れていない。	流れる川	今は川は流れていないけど、昔は上関という川が流れていた。この上関の近くに昔も田んぼがあったと思う。
道がない	今は道が無くなっている。	人が通る道	今は道はなかったけど、昔は道があって、人達は個々を歩いてた。今は道に草が生えているけど昔は土だと思う。
松の木は何もない	何もない所になっています。木が舞えていないみたいです	大きな松の木	大きな松の木があった。松の木は笠のようになり、笠松という名前が出来ました。
ぼろい大きい切りかぶ	切り株にこけが生えていてボロボロな感じです。	大きな木	すごく大きな木です。周りにはこけや石井などがたくさんありました。
倒れそうなろうそく	ろうそくを誰がつけたのか不思議が倒れています。	起立しているろうそく	ろうそくが起立しています。すぐ遺跡の上にちょこんと載っています。周りには木が生えています。
燃やされた切りかぶ	木が燃やされているから。	燃えていない切りかぶ	気が切られていて、燃やされてはいないから、周りは燃えた木が無くて綺麗だから。
綺麗な水のよう水路	用水路の水が光っていて綺麗です。	用水路が無い所	用水路がなくて雑草が生えていたり、木が生えている所には水が回ってこなかった。
昔の思い出の橋	昔の橋の下には水があったとわかりました。	自然の中の橋	昔はまだ田んぼが出来ていなくて田んぼがあった所は野原だったのかなと思いました。
昔と変わった教室	昔と今では机といすは違うのかが知りたいです。	昔の教室	私は昔は椅子じゃなくて座布団だと思いました。そして1つのテーブルに2人ぐらい座るのではないかと思いました。
使われていない橋		住民のための橋	昔は川が流れていて、その近くに田んぼがあったと思います。
草の道		通り道	今はもう草だけど、昔はちゃんとした道だと思います。
笠松小学校！		横川目小学校	5・6年生しかいないので2部屋を使っていたので、窓も2つです。
おはか	木に囲まれているお墓	水や家	ここで食料や勉強が出来たと思うし、生きられたと思う。そして、水もあるからごはんが食べられたと思いました。
電車が通る線路	線路を撮っている景観	線路と馬	線路を走っている物が昔は馬だった。線路では走ると足もつかれろうだから、道路が出来たと思う
今の橋	水が流れていた橋	水がいっぱいの橋	昔は水がいっぱい流れていて田んぼや畑が出来たと思います。だから水が飲めると思います。
戦死した人は今も元気に休んでいるのかな	昔戦争で戦死した人が忠霊塔に入れられている。	死した人を入れたお	戦死した人をまとめてお墓に居れる。生き残った人でお参りをしたりした。今はあまり大きいのがじゃなくて、普通サイズのは無かった。
今は電車	今は線路に電車が走っている。繋いでたりする。	昔は馬車	昔は線路がなくて馬が電車のようになっていた。箱に荷物を積んで運んでいた。
今は椅子を使っている	今は椅子と机があって横に恥袋をかけられる所がある。今は先生が10人位だと思った。	昔は正座で勉強していた	昔は長い机だけで椅子が無かった。先生が2〜3人しかいなかった。正座で勉強していた。

3-4 笠松小学校における景観学習の可能性と課題

本節においては北上型景観学習における可能性と課題を明らかにするために 3 つの調査を行う。まず、笠松小学校 4 学年児童全員に景観点検終了後、並びに今昔を比べる授業終了後、授業に対する感想や発見についてワークシートを記入させ、地域に対する関心度、授業教材に対する意識や技能、地域の特性に対する理解や知識などを図ることとした。また、企画関係者から景観学習の企画運営に関しての実態を確認することの以上 2 点から、北上型景観学習の可能性を模索し、課題を明らかにしていく。

3-4-1 児童の感想からわかる北上型景観学習の実態

景観学習に関する感想文の記載および、景観学習において「気付いたこと」「発見したこと」について取りまとめ、そこから児童の授業における地域に対する関心度、授業教材に対する意識や技能、地域の特性に対する理解や知識などを明らかにしていく。北上型景観学習では事前事後や毎回のワークシートや振り返りシートは無いため、授業での実施内容に沿った教材から考察していく。

【第 3 回景観学習ワークシートより】

第 3 回景観学習では景観点検の発表を実施した。このワークシートは、その際に一学期のまとめとして記載したものである。大きく分けて 3 つのことが特徴としてあげられた。1 つ目は「景観学習における全体的な景観の見方」、2 つ目は「景観点検に関する気付き」、3 つ目は「友達や周りからの気付き」の以上 3 点である(表 32 から 34)。

表 87 発見や気付き 「景観学習における全体的な景観の見方」

「気付いたこと」「発見したこと」
角度が違っていると景色も違うという事がわかりました。
奥の景色と前の景色でテーマが違うし、同じ人でも違うことを言っていることがわかりました。
人それぞれ違うことを言うのがわかりました。
気になることが想像を増やすと気付きました。
自分が思う通りいう事がわかりました
よく見ると知らないことがあるとわかりました。
嫌い、好きで景観は自由に思ったことを書くことがわかりました。
気付いたのも書くことがわかりました。
位置を変えるとすごく綺麗な写真が撮れること
いいのがまだ残っていること
集中してみればわかることがわかりました。
いつもはあまり気にしないで歩いていただけ、景観学習をして色々な発見が出来たと思います。
よく見てみると今まで見なかったことが見れるようになりました
人と自分の意見がみんなそれぞれ違う
何か違和感がある
いつもと違う景色に見える。
新たな発見が出てくる。
友達の写真を見ると同じ所を撮ったのに違うように見える。

表 88 発見や気づき「景観点検に関する気づき」

「気付いたこと」「発見したこと」
草むらで見て自然の不思議がわかりました。
山が好きで嫌いな人もいることがわかりました。
景観学習は楽しいことに気が付きました。
不思議な景観を発見出来て良かったです。
面白い写真がいっぱいあったこと
山を撮っていなかったけど、山を撮ることも良かった。
切れな景観と好きな景観がいっぱいだった。
花がコンクリートを突き破っていた。
綺麗なものを見つけたが汚かった。
もろい木があった。
道路に水色の玉があった。
犬を見つけた。
浅そうで深い河があった。
長い棒があった。
緑の山と水色の空で今トトロが住んでいそうだと気が付きました。
汚い犬の顔が面白かったです。
毛虫が動く所がちよっとだけかわいかったです。
色々な好きな景観や嫌いな景観を見つけられてうれしかったです。
素敵な風景を言付けられてよかったです。
風景がたくさん撮れてよかったです。
写真がたくさん撮れてうれしかったです。
班のみんなとも交流できてうれしかったです。
私が撮った写真の中に水路についてのものが2つあったけど、流れる方向が違ったことがわかった。
観察すると今まで気づけなかったことを発表できた。
また写真を撮りに行きたいです。
家の所にあるのが顔みたいだと思った。
家のところにあるのが一つは口が開いているけど、2つの方は口が開いていない
ピンの所にヒビが入ってる。
木は光を浴びてとても綺麗だった。
道路にはいろいろな不思議があつてすごい
ゴミは臭そうな気配がした
雲は曇り空だったり晴れだったりする。
鉄は腐ってボロボロになる。
色々なものを発見できたけど、2学期はわからないことを調べたいです。
綺麗な景観、不思議な景観、色々あったけど、かわいくて綺麗なのをお守りにしたいです。
写真を撮って見ると想像できる。
写真がとても素敵に見えた。
気持ちが無かったのに写真を見ると素敵だなと思えました。
不思議なことや綺麗なことを感じれた。
私の写真で3枚目の楽しい景観ですごくいいです。
新たな発見がありました。
ミッキーが道路に居て大丈夫かなと思ったし、発見がありました。
山に雲が隠れて背比べできないのが面白かった。
1班のあのウサギが血を流しているように見えた。
撮った写真で祖バッチが2人いるように見えた
岩手県パトカーがかっこよかった。
ジャングルみたいな所を発見できた。
でかいボウリングのピンがなぜあったのか不思議だった。
ゼリーのカップみたいな物を見つけた。
田んぼがいっぱい並んでいた。
神社に鐘があった。

表 89 発見や気づき「友達や周りからの気づき」

「気付いたこと」「発見したこと」
Sさんが撮っていたミッキーみたいな道路がいいなと思いました
Yさんの車の写真がすごいと思いました。
T君の発表でハートの意志が取りにも見えました。
Hさんの赤い花と青い花が家来と王様みたいでした。
Sさんの景観で道路にミッキーがいると気付きました。
Hちゃんの精霊の家が怖いと思いました。
B君の発表が面白くてすごいと思いました。
友達の発表も面白かったです
班の皆が面白かったし、そうなんだなと思いました。
みんなの発表を聞いて私も綺麗な景色や、花などを撮りたいです。
私も撮りたかった写真があります。友達の発表を聞いて青空を撮りたいと思いました。
Tさんがとった写真で石がハートの形ですごいと思いました。
Hさんの写真で青い花は赤い花の2本を守るのが素敵です。
Kさんの紫の花が綺麗でした。
Hさんの写真でお花がお客さんという発想がすごいと思いました。
B君の犬の題名がすごいと思いました。
Aさんの撮った写真がどれも素敵でいいなと思いました。
Tさんの話を聞いて山も雲もあっていいと思った。
発見したのはTさんの山が高いことです。
Yさんの道路と建物と雲と山がこんなにありました。
みんなのが綺麗に撮れていました。
パトカーがみんな憧れでした。
Hさんの幽霊スポットがどこにあったのかわかりました。
発表を聞いてみんな色々な物を発表していた。

【第5回景観学習ワークシートより】

(1)一学期、二学期の景観学習で新しく発見したこと

景観学習を通し新しく発見したことでは3つの特徴がみられた。1つ目は「笠松の歴史について」(表35)、2つ目は「笠松の景観について」(表36)、3つ目は「カメラ撮影について」(表37)である。

まず、笠松の歴史について8名の児童が記載している。NPOの菊池博人氏や地域の菊池篤氏が協働して笠松地区の歴史や文化に景観という視点から関心が持てるように「歴史」的観点をういたことが、児童の関心のみならず、それに伴った知識理解も高まったと考えられる。

表 90 児童が新しく見つけたこと、発見したこと「笠松の歴史について」

景観学習で新しく見つけたこと、発表したことを書いてください。
八幡神社に奉られていているのは馬だと知りました。
新しく八幡神社のことを知れたこと
神社の所の橋の下は昔水が流れていたのが分かりました。笠松の松は笠みたいだったという事もわかりました。
二学期の景観学習で昔のことを知っている人達と一緒に勉強した時馬は人や荷物を運ぶ仕事をしていることが初めて景観学習で知りました。景観学習は楽しいと思いました。
昔と今の昔をそうぞうして昔と今は全然違うんだなと思いました。
今のことと昔のことを比べて今と昔は少し似ているなと思いました。
八幡神社に下川に流れていない橋を見つけたこと
学校の周りには色々な景観があったし、それぞれ違う景色がありました。それに八幡神社の橋は昔水がながれていたんだなと思いました。。
今も昔の跡地があるという事を発見できました。

次に、笠松の景観について7名の児童が記載している。5回の景観学習を通し「景観」の面白さや楽しさ、景観という視点から見えるまちや歴史に関心を持ったことが分かる。その中でも第4回目の授業が印象に残っていることが予想され、昔と今の景観を比較する新たな視点を児童が身に着けたと考えられる。

表 91 児童が新しく見つけたこと、発見したこと「笠松の景観について」

景観学習で新しく見つけたこと、発表したことを書いてください。
景観は面白いことが分かって、昔の絵も想像して描いたことも楽しかったです。
今の景観と昔の景観を比べて今の昔には違いがたくさんあることが分かりました。
今の景観を探せてうれしかったです。たくさんの景観を見つけられてよかったと思います。
学校の周りには色々な景観などたくさんあるのが分かったり「笠松」はお坊さんが松をはしがわりをして、そして笠みたいなマツダからだという事も知れました。
昔はどんな風景になっていたりするのかわかってタイムスリップしたくなりました。いろいろな昔の発見があつて良く出来ました。
景観学習をして昔はここに何か、今とは違うものがあつたんだと思いました。

最後に、カメラ撮影について2名の児童が記載している。この記載からわかるように、カメラで撮影出来たということが印象に残っていることが予想される。そのため地域に視点を当ててもらふ目的の景観学習とは全く違う方向に関心が向いたといえる。

表 92 児童が新しく見つけたこと、発表したこと「カメラ撮影について」

景観学習で新しく見つけたこと、発表したことを書いてください。
いろんな所でカメラを使えてよかったです。
昔のことを思って撮ったら普通に撮るのよりきれいにみることが出来ました。友達の写真センスがいいなと思いました。

以上のことから分かるように、北上型景観学習では、ほぼ着実に知識や景観に対する意識の定着がされていることが確認できる。

(2)一学期・二学期の景観学習の感想

景観学習に関する感想文の記載に対し「関心・意欲・態度…気付いたこと、関心を持ったこと」「思考・判断・表現…考えたこと、工夫したこと」「技能…できたこと、〇〇したこと」「知識・理解…分かったこと、理解したこと」の4観点に沿って、それらの記載が見られた文や単語を抽出した。それらの記載状況から本授業における実態を明らかにしていく。

・関心・意欲・態度

関心・意欲・態度に該当する11の記載が確認された。主に「景観学習で歩いて景観を撮ったり昔と今の景観を比べて今はどうかなあと思ったりしながら写真を撮って、想像して、ちょっと大変だったけど楽しかった。またやりたいです。次もやれたら頑張ります。」「最初は、景観学習は聞くだけ、写真を撮るだけと思っていました。しかし、色々発見があった景観学習は、すごく楽しいと思いました。」等の関心や意欲が多く確認された。

・思考・判断・表現

思考・判断・表現に該当する2の記載が確認された。「一学期と二学期の写真でカメラはこう撮るんだな、そうなんだなと思って、嬉しかった。カメラから観ると色々な景観があるんだなと思った。」といった児童自身が考えながら活動していることが確認された。

・技能

技能に該当する4の記載が確認された。主に、「写真撮影」「絵の創作」について記載されているが、共に必ず「色々な景観を発見出来て良かった」「今と昔のことを考えるのが楽しかった」といった授業の内容や景観に関する関心が含まれた回答であった。そのことから、児童の技能活度と知識の定着や関心、意欲がバランスよく学びとして児童に伝わっていることが推測される。

・知識・理解

知識・理解に該当する3の記載が確認された。「忠霊塔の中には戦争で亡くなった方が祭られていること」「昔の景観を学ぶことが出来て良かった」など歴史に関する記載が多く見受けられた。これらに関する記載に付け加え「まだ知らない景観をいっぱい見つけたい」「景観学習がまたあったら、もっと景観のことを知りたいです。景観学習をやめるのはさみしいです。」といった記載も一緒に確認され、学ぶことに対する関心や意欲も同時に確認することが出来た。このことから児童が学習においてきちんと地域に目を向け、理解することが出来ていること、また教材の活用方法が適切だったといえる。

以上の感想から、笠松小学校における北上型景観学習は確実な知識や理解、関心が高められ意欲に繋がっていることが明らかとなった。教材に関心が行き過ぎることは全くなく、児

童自身が自分の考えている事や感じたことをきちんと記載出来ている状態である。このことから北上型景観学習における授業内容や教材、提示方法が適切であることが言え、NPOの授業技術の高さがこういった結果に繋がっていると予想される。

3-4-3 企画運営者・団体における黒石型景観学習の実態

主たる企画者の景観学習に対する意識をヒアリングした。景観学習に関わる関係者の意見や出来事から、課題、可能性、並びに景観学習における愛着形成の実態を明らかにする(表38、39)。

表 93 北上型景観学習ヒアリング対象者一覧

北上市	北上市都市整備部都市計画課 主査 高田朋 氏	2017年6月12日 ヒアリング実施 2017年12月8日 ヒアリング実施
	特定非営利活動法人いわてNPO-NETサポート 事務局長 菊池広人 氏	2017年6月13日 ヒアリング実施 2017年12月8日 ヒアリング実施
	笠松小学校 所 礼江 氏	2017年12月11日 ヒアリング実施
	和賀地区交流センター(第4回講師) センター長 菊池アツシ 氏	2017年12月11日 ヒアリング実施

・景観学習における課題

課題としてあげられた内容にはばらつきが見受けられた。複数人が共通として課題としてあげていた課題として、「景観学習の周知」「引継ぎ、後継者の問題」である。

「景観学習の周知」に関しては、市役所の高田氏、NPOの菊池氏が述べている。高田氏は「4月の校長会ではカリキュラム的に遅い傾向があるとわかったことから、1月の校長会で宣伝を実施した。でもなかなか参加申し込みが来ない。きっと命を守る避難訓練のような絶対やらなければならないという意識になりにくいのかもしれない。」と述べた。さらに菊池氏は「参加校が伸びないよね。でも周知してもこの現状だから、いい方法があったらもうとっくに実施していると思う。」といった限界の兆しが見受けられた。

また「引継ぎ、後継者の問題」として、引継ぎに関しては市役所の高田氏、後継者問題に関しては地域の菊池篤氏である。高田氏は引継ぎに関して「市職員は数年で持ち場の部署が変わる。覚えたころに変わることになる。そうした時に引継ぎってうまくいかないよね。NPOや周りの人の方が市職員より詳しいのは少し悲しいですね。」と述べた。さらに地域の菊池氏は「教える側も組織全体が高齢化しており、若者の送出的が多い傾向にある。そのため地域を景観という切り口から理解している人が少ない。そうした課題を解決するためにも、まずは他組織との連携から始めることで、まずは児童に安心安全、楽しい景観学習を実施できるようにする。

また他にも、市役所の高田氏からは「学校側のNPOに対する意識」「馴れ合い」「景観学

習における効果」についてあげられた。委託先であるため NPO - NET サポートは景観全体の委託を受けていることから景観に関する認識並びに実践技術がある団体である。しかし高田氏によると「景観学習における到達点や授業内容に関しては、問題なく学校側にも理解されているがやはり学級担任によっては「市役所の委託先」という事で、遠ざけたり、連携が取れなかったりするときがある。」と述べた。続いて「馴れ合い」に関しては、「企画運営者がメンバー変わらず活動しており、仲が良くチームワークもいいがなあなあにしている部分があると思う。毎回の反省や課題、改善方法を共有することは無く、NPO の菊池氏自身で反省を行い次時に活かす展開である。」と述べた。「景観学習における効果」に課題や不満を感じている。「景観学習の内容はとてもいい内容を実施している。でもきちんと子どもたちに響いているのか、関心や愛着を育んでいるのか、授業内容は適切なのか、教師は不便さを感じていないかなど不安に感じる事が多く、きちんと効果をはかる必要性もあるのではないか。」と述べた。

さらに所氏は「総合的な学習の時間との関連」について述べた。「景観学習は問題解決型学習として構成されていないこともあり、実際に景観学習が終わった際、総合的な学習の時間の内容に網羅的に組み込もうとすると無理があり、内容的にも 3 学年には高度であることから授業内容の改善、検討が求められる。小学 6 年生は歴史もあることから、対象児童の検討をするべき。」と述べた。

・景観学習における可能性

可能性に関してもそれぞれの立場から別々のご意見が出てきた。市役所の高田氏からは「NPO の臨機応変な体制」があげられた。「NPO の博人さん本当にすごい。どんな学校、どんな生徒でも力づくでも形にできる人だから。学校の先生の要望と市の要望をいい感じにすり合わせて授業を臨機応変に組み立ててくれる。」と述べた。

また地域の菊池篤氏からは、「景観学習を通した児童のまちに配する関心や思いの表れ」「発表会において、父兄関係者への理解」をあげられた。「景観学習をした際にお礼のお手紙をたくさんもらうんです。その時大人以上にたくさんのことを考えていて、強い思いを持っているんです。そうした所にとっても関心しました。また景観発表会においては父兄も参加しているからとってもいいなと思ったことがあります。最近の若い人たちは地域のことを知らず大人になっているから、いい機会だったと思う。」と述べた。

そして学校の所氏からは「ゲストティーチャーが授業をすることで児童の授業意欲の向上」「地域住民自身が授業を教えに来てくれる安心感」「児童の視野の広がり」があげられた。「学級は家族のような所があるので慣れや甘えが出てきてしまったりするんです。でも景観学習のようにゲストティーチャーが来ることで児童の学習意欲はものすごく上がっています。また地域住民である篤さんが先生として来てくれることでとても安心感があります。わからないことがあった時にすぐに聞きに行くことができるからね。また景観学習をすることで児童はとっても視点が広がったと思います。」と述べた。

NPO の菊池氏からは「PTCA の C を育てていること」があげられた。「PTA ではなく今は PTCA を意識することが重要です。でもここでは自然とその C を育てているんです。NPO が学校や地域、行政を繋ぐことで育てている体制が確立しています。確かに大学の先生が授業をすることとてもよい機会だけど、地域の人が授業をするというのは大きな意味があり、より深い授業をすることに繋がっている。とてもここが大切な部分だと思う。」と述べた。

・景観学習における展望

展望として市役所と NPO から共通にあげられたのは「景観学習のさらなる普及・拡大」であった。高田氏は「参加学校数を伸ばしたい。いいコンテンツがそろっているからこそ、たくさんの学校にこの良さを知ってもらいたい。」と述べた。NPO の菊池氏は「高学年や大規模校での実施をしたい。」と述べた。それぞれからあげられた展望として市役所の高田氏からは「景観学習からまちづくり、人づくりへつながる流れの構築」である。また地域の菊池篤氏からは、「景観学習の家庭や地域での普及と理解の創出」。学校の所氏からは、「日常生活における景観学習の学びの活用と拡大」。「どうしても景観学習の内容を日常や学校生活で意識してもらいたいと思って、発問や会話の中で投げかけようとしているんだけど、なかなか広がっていかない。何とか日常へと広がっていつてもらえたらなと思います。」と述べた。NPO の菊池氏からは「景観学習の実施校の先生方における教員の後継者の育成」「景観学習を通して、自分らしい地域とのかかわり方を考えるきっかけへの第一歩」があげられた。「後継者を新しく連れてくる考えはない。僕の授業を観ている先生が景観っていいな、これならやれるかもって思って実践するようになってもらえればいいなと思っています。」「みんなこのまちに戻ってこいっていうけど、今世の中の的にそれは難しくなっている。だから、自分らしいかかわり方が出来るようになればいいと思う。地域に残る子はその子なりに、県外で生活している人は県外で岩手と関われる方法で繋がってくればそれで充分だと思う。ライフスタイルに合わせて関わり方は変化してくるからね。」と述べた。

・景観学習における地域への愛着の形成

景観学習における地域への愛着の形成に関して共通していたのは「地域への愛着を育むきっかけづくり」になっているということであった。また、それらを感じた場面等を市役所の高田氏は「ゲストティチャーが児童に対し「地域のことはみんな好きかな？」と問うときに児童全員が「大好き」と大きな声で答えた時に地域への愛着を育てていると感じた。涙が出そうだった。」と場面を想起していた。また、学校の所氏は「学習以前に比べて「好き」という感情が深まったと感じる。もともと地域が好きな児童が多いクラスだけど、もっと好きになったという感覚だと思う」と述べた。さらに所氏は「子どもの頃からのこういった活動の取り組みが大人になってからの地域への愛着に大きくつながるのではないかと」話した。NPO の菊池氏は「愛着が形成されていることを願うけど、定点観測していないから定かだ

と言えない」と述べた。

表 94 北上型景観学関係者からみえる課題と可能性

	市役所	地域	学校	NPO
	高田氏	菊池氏	所氏	菊池氏
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校側のNPOに対する意識 ・NPOと学校の授業教材・場所の共有 ・景観学習の周知と重要性の認知度 ・企画運営者同士の馴れ合い ・行政における引継ぎ ・景観学習の効果の実証 	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者の問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を撮るという所に児童の思考が偏ってしまい授業のまともに繋がらない。 ・総合的な学習の時間の一環として景観学習が設定されてるが、課題設定が無く、年間通しての授業展開の構成が困難。 ・3学年にとって内容が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・単発授業におけるインパクト ・景観学習の周知
可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOの臨機応変な体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観学習後の子ども達は大人以上に地域に対する関心や思いがある ・父兄の前で景観学習発表会をすることで大人の理解に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティチャーとして担任以外の方が授業することで児童の授業に対する意識の向上 ・地域の人が教えに来ることによる安心感 ・児童の視野の広がり 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家からNPOへの引継ぎと連携 ・NPOと地域が繋がっていることで、PDCAのCを育てている。 ・地域びプロが教える事でより深い授業へ ・児童に地域の見方を共有することで地域資源を理解へ繋がっている。 ・自分自身で考える力の育成
展望	<ul style="list-style-type: none"> ・景観学習からまちづくり、ひとづくりへ ・景観学習のさらなる普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを家庭や地域で交流し、内容を広げ関心を持ってもらうシステムの構築 ・地域のことを知らない家族、住民に対しても共に景観学習を通して地域の良さを伝えていく必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における景観学習での学びの拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい地域とのかかわり方を考えるきっかけにしていきたい ・高学年での実施 ・大規模校での実施 ・景観学習実施校の教員が後継者へ
まちに対する愛着の形成の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着を育むきっかけ ・地域ゲストティチャーと児童の会話から地域への愛着を感じる場面がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への愛着を育むことは、地域のことを知ることがこれから始まる。景観学習はそのきっかけづくり。 ・地域の中で頑張る力を培うは外部に出た後もその子の力になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着を育むきっかけづくり ・学習以前に比べ「好き」という感情が深まった。 ・子どもの頃からのこうした取り組みが大人になってからの愛着に繋がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着を育てていると考えているが観測的にデータを集めていない為言い切れない。

3-5 本章のまとめ

本章では、第 1 章で明らかとなった景観学習における実態の結果を参考に、都道府県で景観学習に力を入れている青森県、岩手県に注目し、その中から運営体制が異なる青森県黒石市と岩手県北上市を調査対象として取り上げ調査を実施した。

本章においては岩手県北上市の事例から目的②景観学習における実施体制・支援体制を明らかにすること、目的③景観学習における適切な教材の検討とそれに伴う学習形態を検討すること、目的④景観学習における適切な教材の検討とそれに伴う学習形態を検討すること。以上 3 点を調査していく。

まず、目的②景観学習における実施体制・支援体制を明らかにするために、自らが企画運営に携わり北上型景観学習の実施体制を明らかとした。まず、北上市は 2006 年から 2007 年にかけて景観計画を策定し、翌年 2008 年に北上モデル事業として景観学習に取り組んだのかきっかけである。開始当初から市役所・NPO・地域・学校が協働体制を保ち 10 年間継続的に実施している。主な運営主体は「市役所」「NPO」であり、体制としては市役所がいわて NPO - NET サポートに事業を委託しているため企画・運営・準備といった授業実施は全て NPO が担っている。

目的③景観学習における適切な教材の検討とそれに伴う学習形態の検討に関しては、児童が記述したワークシートを基に考察する。そこから明らかになったこととして、どのワークシートからも「まち」に対する関心が高いことが見受けられる。作業に対する関心を記入している児童も見受けられるが、そうした児童の記入内容の中にも授業での知識的学び、体験的学びが組み込まれている。

目的④子ども達の景観学習における愛着の形成を明らかとすることに関しては、児童のワークシートの記述から読み取ると、地域に関心を抱いていることは明らかである。十の感情を抱いていることから、幅広いマインドの形成がされているのが明らかである。さらに地域住民から直接指導を受けることで確かな知識の定着がされていることが明らかとなり、黒石市とは異なる変化が見られた。

北上型景観学習の強みは、NPO のマネジメント力である。景観を教えるスキルや地域との繋がり、教材の豊富さなど景観学習を実施する上で欠かせない存在である。そうした存在がいることで、安定した学びや着実な知識・理解に繋がり、地域を知ることにつながっていると言える。しかし、4 月にある程度学校の要望と市の思い、NPO の考えをすり合わせているが、実際授業をした後に反省会や要望を再度伝え合う機会が設けられていない為、学校側にとっては総合的な学習の時間と接続が難航している問題点も浮き彫りとなった。「信頼」という形が「慣れ」にならないよう、程よい緊張感を持ち、念入りの打ち合わせや相談がよりよい関係性を気付くきっかけになると予想される。

III 結論

本研究において得られた結果についてまとめる。まず、第一章では本研究の目的である①景観学習の現状を明らかにすること、②景観学習における実施体制・支援体制を明らかにすること、③景観学習における適切な教材の検討とそれに伴う学習形態を検討すること、について、全国 47 都道府県並びに全 1718 市区町村における景観学習の実施状況や支援体制、実施目的、教材を整理した。その結果として、47 都道府県において景観学習の実施・副読本の作成をしているのは青森県と岩手県、景観学習の実施のみは石川県、愛知県、奈良県、山口県、鹿児島、副読本の作成のみの実施は北海道、秋田、佐賀県であり、他 35 都府県では実施は確認されなかった。また 1718 市町村では 31 市町村での取り組みが確認された。この結果から、47 都道府県中、景観学習の実施と副読本の作成の両方に取り組んでいる青森県と岩手県に注目して具体的な調査をすることとした。その中でも、特徴的な取り組み実績があり、実施の背景が異なる 2 つの市を抽出し、県事業として景観学習を始めた青森県黒石市と市独自の事業として景観学習を始めた岩手県北上市を対象として追跡調査を実施した。

そこで、第 2 章及び第 3 章では、黒石型景観学習と北上型景観学習の現場において目的②③の実態並びに目的④子ども達のまちに対する愛着の形成について調査した結果を次のように示し、考察した。

黒石型景観学習においては、現在は行政である市が中心として景観学習を実施しており、景観学習修了後まちに対する「好き」「少し好き」といった好意を抱く児童増加、ワークシートや感想等からは＋の愛着が確認されたことから、マインドの広がりが見える。

また、北上型景観学習においては、NPO が中心となった景観学習を実施している。児童のワークシートの記述から＋の愛着がみられ、幅広いマインドの育成が確認された。さらに地域住民から直接的な指導を受けることで、地域に対する深い知識と理解が育まれていることが確認されている。

序論でも述べたとおり、槇野(2001)²²は地域と接する時間や機会の有無が愛着の形成に係ることを明らかとしており、佐野(2005)²³は地域へのコミットメントが地域への積極的な関与行動を促す可能性を指摘した。

調査の結果と前述の先行結果から、景観学習は子どもたちが地域と接する機会を設け、地域への愛着を育むことを助けるものとして効果的であり、地域への愛着が地域へのコミットメントを生み、積極的な関与行動を促すことに繋がるといえる。これは、地域を大事に思い担っていく人材の育成という観点での「まち育て」に繋がっていると推測される。

しかし、このような黒石市や北上市の景観学習の取り組みだけで、まちづくりマインドの形成、いわゆる「まち育て」につながっていくと単純に言うことは難しい。だが、実地調査

²² 槇野光聰、『地域に関する情報が居住地への愛着形成に与える影響』、日本建築学会大会学術講演梗概集、2001、pp770

²³ 佐野茂、『地域への愛着と子どもへの関わりに関する一考察』日本版 General Social Surveys 研究論文集 [4]、2005、pp44

におけるワークシート・感想・ヒアリング等から明らかとなった通り、児童たちは自らの主観的感覚によって、明らかにまちから影響を受け、その後の活動や親との会話等にそれが反映している事例が確認されており、愛着の形成に寄与していることは明らかである。そうした結果も踏まえ、景観学習を通して五感を使って感じたことを自分で受け止めて、言葉にしたり文章に表現する能力が育まれたりと、そのような豊かな経験が、まちづくりマインドの形成に繋がっていくことが期待できる。

景観学習で受けた刺激により、プラス・マイナス両方の側面から児童なりのまちに対する愛着が芽生え、そのような学習を継続的に実施していくことで、児童が大人となった時に、それを、まちづくりマインドに発展させることができるはずである。すなわち、景観学習における愛着の形成は、まちづくりマインドの育成につながり、まち育てのための礎が築かれていくことになる。

【参考・引用文献】

- 1 森岡清美、塩原勉、本間康平(1993)「新社会学辞典」、pp982
- 2 白井慎(2002)、「子どもの豊かな育ちと地域支援」、pp40、pp42、43
- 3 株式会社日本総合研究所(2005)、
- 4 独立行政法人労働政策研究・研修機構(2016)、「UIJ ターン促進・支援と地方の活性化
- 5 小川悠(2013)、「なぜ若者の地域離れが止まらないのか？彼らが故郷を捨てる、
3つの意外な理由」、<http://logmi.jp/24526>
- 6 佐野茂、『地域への愛着と子どもへの関わりに関する一考察』
日本版 General Social Suveys 研究論文集 [4]、2005、pp44
- 7 榎野光聰、『地域に関する情報が居住地への愛着形成に与える影響』、
日本建築学会大会学術講演梗概集、2001、pp770
- 8 細谷俊大、奥田真丈、河野重男、今野喜清(1900)、「新教育大事典第1巻」
- 9 曲田清維(2005)、「まち学習」、社団法人日本建築学会
- 10 北原啓司(2005)、「まち学習」、社団法人日本建築学会
- 11 萩原剛、藤井聡：交通「行動が地域愛着に与える影響に関する分析」
土木計画学研究・講演集 2005
- 12 Hidalgo, C. Hernandez, B. (2001): Place attachment: Conceptual and empirical
question, Journal of Environmental Psychology, 21, pp. 273-281

【参考 URL】

・47都道府県における景観学習の取り組みが確認された5都道府県と国土交通省のみ掲載

- 1 北海道 <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/tki/mdr/keikan-gakusyu.htm>
- 2 青森県 <http://www.pref.aomori.lg.jp/life/keikan/>
- 3 岩手県 <http://www.pref.miyagi.jp/>
- 4 秋田県 <http://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/11688>
- 5 佐賀県 <http://www.pref.saga.lg.jp/list00682.html>
- 6 国土交通省

・1718市町村における景観学習の取り組みが確認された31市町村のみ掲載

- 1 旭川市 <http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/>
- 2 芽室市 <http://www.memuro.net/index.html>
- 3 中札内村 <http://www.vill.nakasatsunai.hokkaido.jp/index.html>
- 4 青森市 <https://www.city.aomori.aomori.jp/index.html>
- 5 八戸市 <http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.html>
- 6 黒石市 <http://www.city.kuroishi.aomori.jp/>
- 7 北上市 <http://www.city.kitakami.iwate.jp/>
- 8 一関市 <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/1,html>
- 9 牛久市 <http://www.city.ushiku.lg.jp/>
- 10 さいたま市 <http://www.city.saitama.jp/index.html>
- 11 川崎市 <https://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
- 12 立川市 <https://www.city.tachikawa.lg.jp/index.html>
- 13 調布市 <http://www.city.chofu.tokyo.jp/www/toppage/0000000000000/APM03000.html>
- 14 横浜市 <http://www.city.yokohama.lg.jp/>
- 15 逗子市 <http://www.city.zushi.kanagawa.jp/>
- 16 新潟市 <http://www.city.niigata.lg.jp/index.html>
- 17 長野市 <http://www.city.nagano.nagano.jp/>

- 18 名古屋市 <http://www.city.nagoya.jp/index.html>
- 19 長岡京市 <http://www.city.nagaokakyo.lg.jp/>
- 20 広島市 <http://www.city.hiroshima.lg.jp/>
- 21 福山市 <http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/>
- 22 岩国市 <http://www.city.iwakuni.lg.jp/>
- 23 松山市 <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/>
- 24 高知市 <http://www.city.kochi.kochi.jp/>
- 25 福岡市 <http://www.city.fukuoka.lg.jp/index.html>
- 26 久留米市 <http://www.city.kurume.fukuoka.jp/index.html>
- 27 宮崎市 <http://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/index.html>
- 28 高鍋市 <http://www.town.takanabe.miyazaki.jp/>
- 29 鹿児島市 <http://www.city.kagoshima.lg.jp/index.html>
- 30 垂水市 <http://www.city.tarumizu.lg.jp/index.html>
- 31 薩摩川内市 <https://www.city.satsumasendai.lg.jp/www/index.html>

謝辞

本研究は青森県黒石市、岩手県北上市を舞台に「景観学習」という視点から「まちへの愛着」に焦点を当て執筆させていただきました。

私は物心ついた時から地方公務員として働く父の手伝いをきっかけに、よく地域へ足を運ぶようになりました。今思い返すと、これが私と「まちづくり」の出会いだったと思います。6歳の頃のお手伝いから始まり、18歳になった時にはまちづくりに対するあらゆる疑問を持つようになっていました。私が暮らしていた毎日は、地域の大人や地域資源に囲まれた「まち学習」のような生活だったのかもしれませんが。私が当時、日ごろから感じていた「まちが好き」という感覚を学校現場や生活の中でより多くの児童・若者に感じてほしい、まちに触れてほしい、そう思った想いが今の研究に繋がっています。

そして現在、地域に愛着を育む景観学習に関する研究として2年間地域と関わらせていただき、多くの方々に大変お世話になりました。以下に記す皆さまには、心より感謝申し上げます。

黒石景観学習の企画運営並びに研究にご協力して下さった黒石市建築部都市建築課・五十嵐瑛子さま、同・佐山陽紀さま、景観学習の取り組みを広報に連載させて下さった黒石市企画財政部広報情報システム課・太田淳也さま、同・鳴海早紀さま、高橋家住宅・高橋幸江さま、鳴海酒造・鳴海文四郎さま、黒石東小学校さま、北上景観学習の企画運営において見学させて下さった北上市都市整備部都市計画課・高田朋恵さま、いわてNPO - NET サポート菊池博人さま、和賀西地区交流センター長・菊池篤さま、笠松小学校さま、大変お世話になりました。心より感謝しております。

また、研究室の後輩の皆さんには、毎日のように暖かい言葉をかけて頂き、本当に感謝しております。特に、吉原千尋氏、土佐直子氏、外平瑞穂氏、許文茜氏、木村彩香氏、佐藤世連氏、垣内雅人氏、伊藤直樹氏、榊原亮氏、山口大空氏、野寺明日香氏には黒石東小学校における景観学習教室並びにくろいし探景観キッズの企画運営の補助員としてご協力いただきました。とても頼もしい後輩たちであり、彼らに支えられていたことが、本研究の結果並びに景観学習の成功へと繋がったと思います。

そして5年間にわたり親身にご指導いただいた、弘前大学教育学研究科家政教育専修の日景先生、安川先生、李先生、小野先生たちには心から感謝しております。副査の日景先生、小野先生にはご多忙の中この拙い論文を読んでいただき、またご指導していただきまして本当にありがとうございます。

最後になりますが、まち育て研究室のゼミ生として過ごし、この6年間多くの活動の機会を下された北原先生には深く感謝しております。

これからはまちづくりマインドを持つ「育て人」の一人として、現場と向き合い、直向きに進んでいきたいと思います。今まで関わってくださったすべての方々に感謝申し上げ、謝辞と致します。本当にありがとうございました。

2018.03.22 木下香奈子